

基本計画書

基本計画							
事項	記入欄						備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更						
フリガナ設置者	カヨウカクジシ スズカイヨウカクガクダク 学校法人 鈴鹿医療科学大学						
フリガナ大学の名称	スズカイヨウカクガクダク 鈴鹿医療科学大学 (Suzuka University of Medical Science)						
大学本部の位置	三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1						
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療科学に関する専門の学理と技術の教授・研究を行い、併せて科学、技術の進歩を、真に人類の福祉と健康の向上に役立たせうる有能な人材を育成することを目的とする。						
新設学部等の目的	保健衛生学部救急救命学科(収容定員160名)を設置することとし、収容定員に係る学則変更を行う。大学全体の収容定員は2,760名から2,920名へ増員する。 救急救命学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、病院前救急医学に関する諸科学及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け、生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院(救命救急センター等)、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成することを目的とする。						
新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員 年次人	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
保健衛生学部						年 月 第 年次	(全学部全学科の1年次) 三重県鈴鹿市南玉垣町 3500番地3
放射線技術科学科	4	100	-	400	学士(診療放射線学) 【Bachelor of Medical Radiation Science】	平成3年4月 第1年次	(2年次以降) 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1
医療栄養学科						平成3年4月 第1年次	同上
管理栄養学専攻	4	40	-	160	学士(栄養学) 【Bachelor of Nutrition】	平成23年4月 第1年次	同上
臨床検査学専攻	4	50	-	200	学士(臨床検査学) 【Bachelor of Medical Laboratory Science】	平成23年4月 第1年次	同上
リハビリテーション学科						平成31年4月 第1年次	同上
理学療法学専攻	4	40	-	160	学士(理学療法学) 【Bachelor of Physical Therapy】	平成31年4月 第1年次	同上
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士(作業療法学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	平成31年4月 第1年次	同上

新設学部等の概要	医療福祉学科						平成16年4月 第1年次	同上	
	医療福祉学専攻	4	30	-	120	学士 (医療福祉学) 【Bachelor of Medical Welfare】	平成25年4月 第1年次	同上	
	臨床心理学専攻	4	30	-	120	学士(心理学) 【Bachelor of Clinical Psychology】	平成25年4月 第1年次	同上	
	鍼灸サイエンス学科	4	30	-	120	学士(鍼灸学) 【Bachelor of Acupuncture and Moxibustion Medicine】	平成25年4月 第1年次	同上	
	救急救命学科	4	40 (0)	-	160 (0)	学士 (救急救命学) 【Bachelor of Emergency Medical Science 】	令和4年4月 第1年次	三重県鈴鹿市南玉垣町 3500番地3	令和3年4月届出 予定
	医用工学部								
	臨床工学科	4	40	-	160	学士(臨床工学) 【Bachelor of Clinical Engineering】	平成3年4月 第1年次	同上	
	医療健康データ サイエンス学科	4	40	-	160	学士 (医療健康データ サイエンス) 【Bachelor of Health Data Science】	令和3年4月 第1年次	同上	
	薬学部								
	薬学科	6	100	-	600	学士(薬学) 【Bachelor of Pharmaceutical Sciences】	平成20年4月 第1年次	三重県鈴鹿市南玉垣町 3500番地3	
看護学部									
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing】	平成26年4月 第1年次	同上		
	計		680 (640)	-	2,920 (2,760)				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		保健衛生学部救急救命学科 (40)(令和3年4月届出予定)							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	-	-科目	-科目	-科目	-科目			-単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
			人	人	人	人	人	人	
新設分	保健衛生学部 放射線技術科学科		7 (7)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	138 (138)
	医療栄養学科		13 (13)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	22 (22)	4 (4)	130 (130)
	リハビリテーション学科		6 (6)	5 (5)	0 (0)	8 (8)	19 (19)	1 (1)	142 (142)
	医療福祉学科		7 (7)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	16 (16)	2 (2)	160 (160)
	鍼灸サイエンス学科		6 (6)	5 (5)	1 (1)	3 (3)	15 (15)	1 (1)	140 (140)
	救急救命学科		4 (3)	1 (1)	1 (0)	2 (2)	8 (6)	0 (0)	143 (143)
	医用工学部 臨床工学科		5 (5)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	126 (126)
	医療健康データサイエンス学科		5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	127 (127)
	薬学部 薬学科		23 (23)	9 (9)	0 (0)	13 (13)	45 (45)	3 (3)	121 (121)
	看護学部 看護学科		13 (13)	10 (10)	0 (0)	15 (15)	38 (38)	2 (2)	144 (144)
	計		89 (88)	54 (54)	6 (5)	53 (53)	202 (200)	13 (13)	— (—)
概要	大学付		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	I R推進室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)
	計		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	— (—)
	合計		89 (88)	55 (55)	6 (5)	53 (53)	203 (201)	13 (13)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		63 (63)	人	34 (34)	人	97 (97)	人	
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	その他の職員		27 (27)		12 (12)		39 (39)		
	計		91 (91)		46 (46)		137 (137)		
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	155,074.48㎡	0㎡		0㎡		155,074.48㎡		
	運動場用地	21,630.00㎡	0㎡		0㎡		21,630.00㎡		
	小 計	176,704.48㎡	0㎡		0㎡		176,704.48㎡		
	そ の 他	18,500.00㎡	0㎡		0㎡		18,500.00㎡		
	合 計	195,204.48㎡	0㎡		0㎡		195,204.48㎡		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	64,975.84㎡ (64,975.84㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		64,975.84㎡ (64,975.84㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設	語学学習施設			
	47室	47室	164室		5室 (補助職員 0人)	4室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	大学全体		201		室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		冊	冊	種	種					
	大学全体	165,879 [19,164] (165,879 [19,164])	1,154 [510] (1,154 [510])	107 [104] (107 [104])	1,116 (1,116)	4,729 (4,729)	122 (122)			
	計	165,879 [19,164] (165,879 [19,164])	1,154 [510] (1,154 [510])	107 [104] (107 [104])	1,116 (1,116)	4,729 (4,729)	122 (122)			
	図書館	面積		閲覧席座数		収納可能冊数				
		3,872.89㎡		514		193,300			大学全体	
	体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,888.73㎡		テニスコート5面						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	400千円	400千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
		図書購入費	64,524千円	64,524千円	64,524千円	63,524千円	63,524千円	63,109千円	63,109千円	
	設備購入費	300,000千円	120,000千円	120,000千円	120,000千円	120,000千円	120,000千円	120,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			救急救命学科 放射線技術科学科 医療栄養学科(管理栄養学専攻)、医療健康データサイエンス工学科 医療栄養学科(臨床検査学専攻)、臨床工学科 リハビリテーション学科、看護学科 医療福祉学科 鍼灸サイエンス学科 薬学科
		1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	-千円	-千円			
		1,610千円	1,510千円	1,510千円	1,510千円	-千円	-千円			
		1,250千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	-千円	-千円			
		1,600千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	-千円	-千円			
1,700千円		1,600千円	1,600千円	1,600千円	-千円	-千円				
1,150千円		1,050千円	1,050千円	1,050千円	-千円	-千円				
2,060千円	2,040千円	2,040千円	2,040千円	2,040千円	2,040千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大学の名称 鈴鹿医療科学大学										
既設大学等の	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※平成31年度より学生募集停止(理学療法学科)
	保健衛生学部	年	人	年次人	人		倍		(全学部全学科の1年次) 三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
	放射線技術科学科	4	100	-	400	学士 (診療放射線学)	1.19	平成3年度	(2年次以降) 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1	
	医療栄養学科	4	90	-	360		1.12	平成3年度	同上	
	管理栄養学専攻	4	40	-	160	学士 (栄養学)	1.14	平成23年度	同上	
	臨床検査学専攻	4	50	-	200	学士 (臨床検査学)	1.11	平成23年度	同上	
	理学療法学科	4	-	-	-	学士 (理学療法学)	-	平成14年度	同上	
	リハビリテーション学科	4	80	-	240		1.11	平成31年度	同上	
	理学療法学専攻	4	40	-	120	学士 (理学療法学)	1.09	平成31年度	同上	
	作業療法学専攻	4	40	-	120	学士 (作業療法学)	1.13	平成31年度	同上	
	医療福祉学科	4	60	-	240		0.90	平成16年度	同上	
	医療福祉学専攻	4	30	-	120	学士 (医療福祉学)	0.77	平成25年度	同上	
	臨床心理学専攻	4	30	-	120	学士 (心理学)	1.04	平成25年度	同上	
鍼灸サイエンス学科	4	30	-	120	学士 (鍼灸学)	0.90	平成25年度	同上		

状況	医工工学部						1.12				
	臨床工学科	4	40	-	160	学士 (臨床工学)	1.21	平成3年度	同上		
	医用情報工学科	4	-	-	-	学士 (医療情報工学)	1.00	平成3年度	同上		※令和3年度より 学生募集停止(医 用情報工学科)
	医療健康データ サイエンス学科	4	40	-	40	学士 (医療健康データ サイエンス)	-	令和3年度	同上		
	薬学部							1.03			
	薬学科	6	100	-	600	学士 (薬学)	1.03	平成20年度	三重県鈴鹿市南玉垣町 3500番地3		
	看護学部							1.09			
	看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.09	平成26年度	同上		※令和2年度入学 定員増(20人) (看護学科)
	大 学 の 名 称 鈴鹿医療科学大学大学院										
	医療科学研究科										
	医療科学専攻 (修士課程)	2	30	-	60	修士 (医療科学)	1.01	平成22年度	三重県鈴鹿市岸岡町 1001番地1		
	医療科学専攻 (博士後期課程)	3	5	-	15	博士 (医療科学)	0.60	平成22年度	同上		
薬学研究科											
	医療薬学専攻 (博士課程)	4	2	-	8	博士 (薬学)	1.12	平成26年度	三重県鈴鹿市南玉垣町 3500番地3		
附属施設の概要	<p>1. 名称：鈴鹿医療科学大学東洋医学研究所 目的：医療科学を広い視野から考察し発展させるために、東洋医学と西洋医学との融合を学術的に研究することにより、既存学部学科に更に高度な医療科学技術を定着させるとともに、地域社会への還元を図る。 所在地：三重県鈴鹿市岸岡町1275番地3 設置年月：平成11年7月 規模等：建物2,330.68㎡</p> <p>2. 名称：鈴鹿医療科学大学附属鍼灸治療センター 目的：学生の臨床実習教育及び教員の研究に資するため 所在地：三重県鈴鹿市岸岡町1275番地3 設置年月：平成16年10月 規模等：建物200.82㎡</p> <p>3. 名称：薬草園 目的：薬用植物に関する知識の習得 所在地：三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3 設置年月：平成20年4月 規模等：939㎡</p> <p>4. 名称：鈴鹿医療科学大学附属こころの相談センター 目的：学生の臨床実習教育及び教員の研究に資するため 所在地：三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：建物379.79㎡</p> <p>5. 名称：鈴鹿医療科学大学附属こころのクリニック 目的：学生の臨床実習教育及び教員の研究に資するため 所在地：三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：建物151.19㎡</p> <p>6. 名称：鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院 目的：学生の臨床実習教育及び教員の研究に資するため 所在地：三重県鈴鹿市南玉垣町7300番地1 設置年月：令和3年3月 規模等：建物3,339.07㎡</p>										

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 鈴鹿医療科学大学 設置認可等に関わる組織の移行表

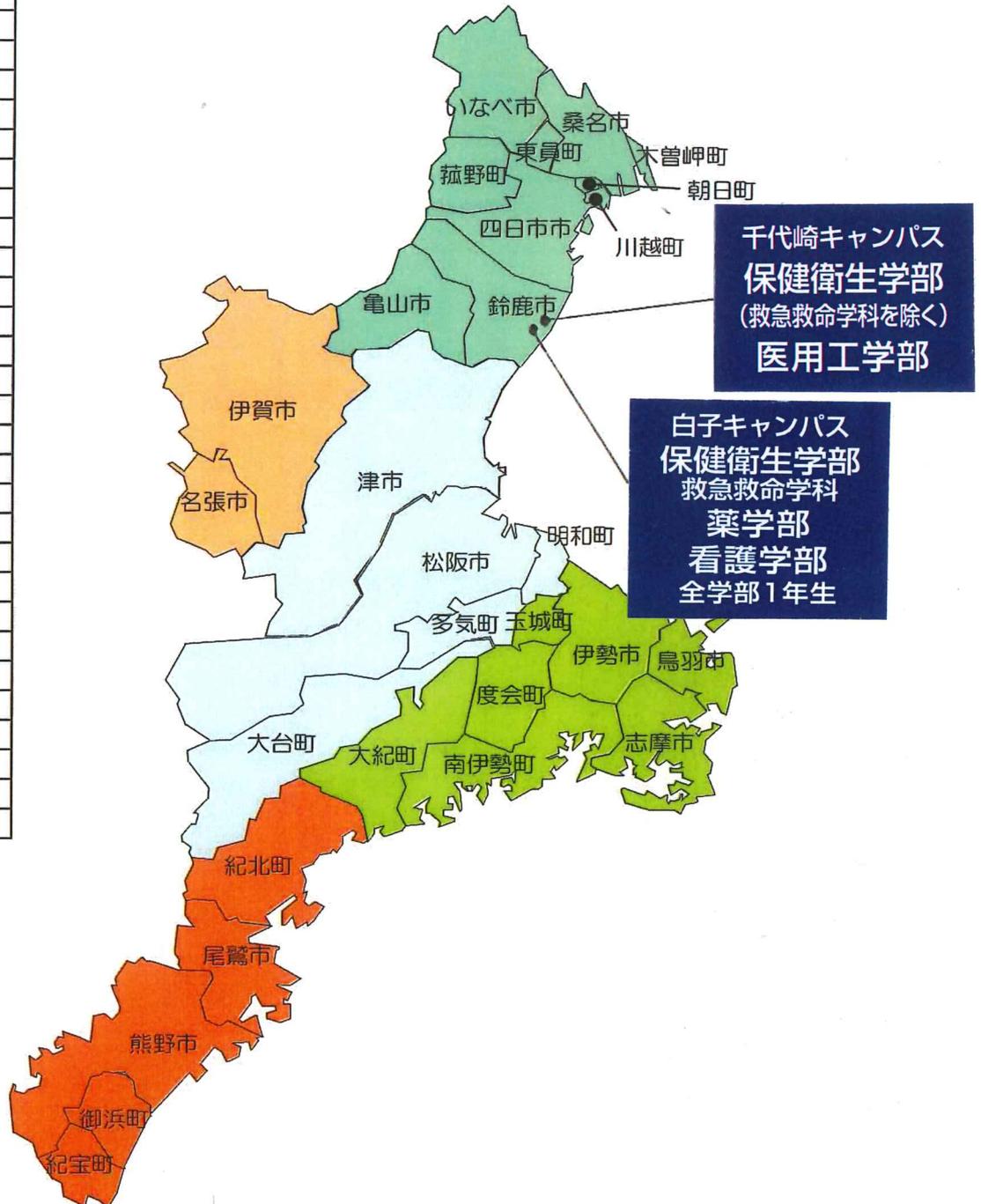
令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鈴鹿医療科学大学				鈴鹿医療科学大学				
保健衛生学部				保健衛生学部				
放射線技術科学科	100	-	400	放射線技術科学科	100	-	400	
医療栄養学科				医療栄養学科				
管理栄養学専攻	40	-	160	管理栄養学専攻	40	-	160	
臨床検査学専攻	50	-	200	臨床検査学専攻	50	-	200	
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
医療福祉学科				医療福祉学科				
医療福祉学専攻	30	-	120	医療福祉学専攻	30	-	120	
臨床心理学専攻	30	-	120	臨床心理学専攻	30	-	120	
鍼灸サイエンス学科	30	-	120	鍼灸サイエンス学科	30	-	120	
				<u>救急救命学科</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>	学科の設置(届出)
医用工学部				医用工学部				
臨床工学科	40	-	160	臨床工学科	40	-	160	
医療健康データサイエンス学科	40	-	160	医療健康データサイエンス学科	40	-	160	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	100	-	600	薬学科(6年制)	100	-	600	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
計	640	-	2,760	計	<u>680</u>	-	<u>2,920</u>	
鈴鹿医療科学大学大学院				鈴鹿医療科学大学大学院				
医療科学研究科				医療科学研究科				
医療科学専攻(M)	30	-	60	医療科学専攻(M)	30	-	60	
医療科学専攻(D)	5	-	15	医療科学専攻(D)	5	-	15	
薬学研究科				薬学研究科				
医療薬学専攻(4年制D)	2	-	8	医療薬学専攻(4年制D)	2	-	8	
計	37	-	83	計	37	-	83	

三重県の市町区分地図

●三重県の市町:29市町(14市、15町)

※市町名の*印は南部地域活性化プログラムの対象市町(13市町)で、
本文では「県南部地域」と記載。

コード	市町名
201	津市
202	四日市市
203	伊勢市*
204	松阪市
205	桑名市
207	鈴鹿市
208	名張市
209	尾鷲市*
210	亀山市
211	鳥羽市*
212	熊野市*
214	いなべ市
215	志摩市*
216	伊賀市
303	木曾岬町
324	東員町
341	菰野町
343	朝日町
344	川越町
441	多気町
442	明和町
443	大台町*
461	玉城町*
470	度会町*
471	大紀町*
472	南伊勢町*
543	紀北町*
561	御浜町*
562	紀宝町*



三重県ホームページ 2020 統計でみる三重のすがた (令和2年5月)
三重県の市町区分地図を加工して作成

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000887244.pdf>

最寄り駅からの距離や交通機関



【白子キャンパス】

近鉄名古屋線 白子駅～白子キャンパス約 2,100m (徒歩約 26 分)

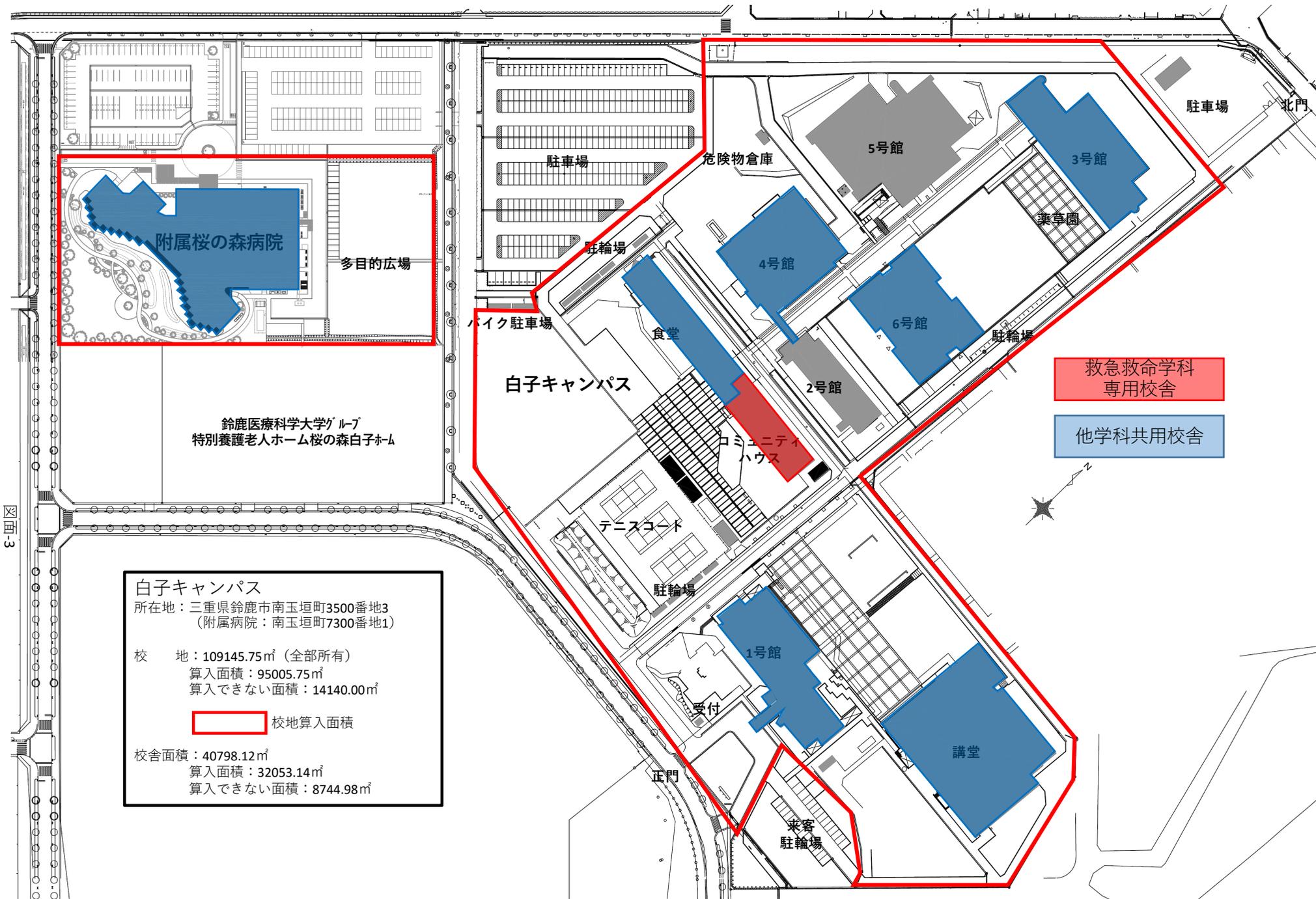
三重交通バス 5 分

【千代崎キャンパス】

近鉄名古屋線 千代崎駅～千代崎キャンパス約 1,100m (徒歩約 13 分)

【キャンパス間移動】

約 2,000m (徒歩約 25 分)



白子キャンパス
 所在地：三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3
 (附属病院：南玉垣町7300番地1)

校地：109145.75㎡ (全部所有)
 算入面積：95005.75㎡
 算入できない面積：14140.00㎡

校地算入面積

校舎面積：40798.12㎡
 算入面積：32053.14㎡
 算入できない面積：8744.98㎡

救急救命学科
専用校舎

他学科共用校舎

白子キャンパス、附属桜の森病院配置図

鈴鹿医療科学大学学則

第1章 総 則

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療科学に関する専門の学理と技術の教授・研究を行い、併せて科学、技術の進歩を、真に人類の福祉と健康の向上に役立たせうる有能な人材を育成することを目的とする。

第1条の2 本学は、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況を点検し評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検、評価及び結果の公表の方法並びに組織については、別に定める。

第2章 学部、学科及び学生定員

第2条 本学に保健衛生学部、医用工学部、薬学部及び看護学部を置く。

2 保健衛生学部に放射線技術科学科、医療栄養学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科、鍼灸サイエンス学科及び救急救命学科、医用工学部に臨床工学科及び医療健康データサイエンス学科、薬学部に薬学科、看護学部に看護学科を置く。

3 各学科の学生定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員	
保健衛生学部	放射線技術科学科	100	400	
	医療栄養学科	管理栄養学専攻	40	160
		臨床検査学専攻	50	200
		リハビリテーション学科		
	理学療法学専攻	40	160	
	作業療法学専攻	40	160	
	医療福祉学科	医療福祉学専攻	30	120
		臨床心理学専攻	30	120
		鍼灸サイエンス学科	30	120
	救急救命学科	40	160	
	医用工学部	臨床工学科	40	160
医療健康データサイエンス学科		40	160	
薬学部	薬学科	100	600	
看護学部	看護学科	100	400	

第2条の2 前条第2項に定める学部及び学科の教育研究目的は次のとおりである。

(保健衛生学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、保健衛生学部には、放射線技術科学科、医療栄養学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科、鍼灸サイエンス学科、救急救命学科を設置し、放射線、磁気共鳴等を使う医療、健康と栄養、臨床検査、理学療法、作業療法、介護・福祉、臨床心理、鍼灸医療、救急救命等に関する諸科学及び医学について最新で高度な教育・研究を行うことによって、優れた専門知識と技術、医療人にふさわしい教養と人間性を身につけた人材を育成することを目的とする。

ア 放射線技術科学科

放射線技術科学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、放射線技術に関する諸科学、医学及び高度医療機器・設備等に精通し、チーム医療に貢献するとともに、教育、行政、医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成することを目的とする。

イ 医療栄養学科

医療栄養学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、医学検査の知識を基礎に、栄養および健康科学に精通し、栄養管理、臨床検査学等の知識を身につけて病院等医療機関、食品業界、医療食を含む健康食品業界、医療機器業界、教育、行政等の分野において活躍できる管理栄養士および臨床検査技師を養成することを目的とする。

ウ リハビリテーション学科

リハビリテーション学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、リハビリテーション諸科学、医学等に精通し、社会人、職業人、国際人として生涯にわたって自己研鑽できる理学療法士および作業療法士を養成することを目的とする。

エ 医療福祉学科

医療福祉学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、福祉に関する諸科学及び医療科学等に精通し、社会福祉、精神福祉、医療福祉、臨床心理等の分野において活躍できる、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、認定心理士等を養成することを目的とする。

オ 鍼灸サイエンス学科

鍼灸サイエンス学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、鍼灸医療に関する諸科学および医学等に精通し、地域医療、病院等医療機関、スポーツ業界、美容業界、教育等の分野において活躍できる鍼灸師、鍼灸師の資格を持つスポーツトレーナーを養成することを目的とする。

カ 救急救命学科

救急救命学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、病院前救急医学に関する諸科学及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け、生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院（救命救急センター等）、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成することを目的とする。

(医用工学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、医用工学部に臨床工学科と医療健康データサイエンス学科を設置し、医学と工学分野の最先端科学技術を積極的に医療に活用できる学際的な教育・研究をとおして、高度な専門知識と技術及び医療人にふさわしい教養と人間性を身につけた人材を育成することを目的とする。

ア 臨床工学科

臨床工学科は、医用工学部の教育研究目的に基づき、臨床工学分野の諸科学、医学、生命維持装置などの医療機器・設備等に精通し、生涯にわたって最新の知識・技術の修得、人間性の向上等について、学び続ける能力と態度を身につけた、高度な職業人としての臨床工学技士を養成することを目的とする。

イ 医療健康データサイエンス学科

医療健康データサイエンス学科は、医用工学部の教育研究目的に基づき、医学・医療の特質ならびに情報科学・工学の知識と技術を修得し、保健・医療・福祉の分野におけるデータ分析環境の構築、AIなどの最新の手法を駆使した分析、課題解決のためのプロジェクトの企画・マネジメントができる医療健康データサイエンティストを養成することを目的とする。

(薬学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、薬学部に薬学科を設置し、薬学諸科学について高度で最新の理論・技術、医学、医療科学等の教育・研究及び教養教育を行うことによって、優れた人間性と高い倫理観を持ち医療に貢献でき、幅広く質の高い教養と国際性を身につけるとともに、科学的根拠に基づく論理的思考、問題解決能力、新しい医療技術とライフサイエンスの発展に貢献できる薬剤師を育成することを目的とする。

ア 薬学科

薬学科は、薬学部の教育研究目的に基づき、優れた専門知識・技術、医療人としてふさわしい人間性を身につけ、先進の医薬・医療情報に精通し、医薬品の適正な使用と患者中心の医療の維持やセルフメディケーションの支援・指導等の健康教育、及び創薬等に貢献できる薬剤師を養成することを目的とする。

(看護学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、看護学部に看護学科を設置し、確固たる医療人としての職業意識をもち、豊かな人間性と倫理観を培い、チーム医療の一員として地域・在宅医療に貢献できる専門的に高い資質をもった看護専門職者を育成することを目的とする。

ア 看護学科

看護学科は、看護学部の教育研究目的に基づき、ケアリングマインドを基本に、看護の対象である人間、健康、環境、看護実践を広く理解できる基礎的能力と問題解決能力を備え、少子高齢化社会における地域医療を中心に、倫理観に基づいた看護実践ができる看護師、保健師を育成することを目的とする。

第3章 大学院

第3条 本学に大学院を置く。

2 前項に関する学則は別に定める。

第4章 学年、学期及び休業日

第4条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5条 学年を次の2期に分ける。ただし、学長は授業の開始終了について変更することができる。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第6条 休業日を次のように定める。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年7月20日法律第178号）に定める休日
- (3) 本学創立記念日 5月6日
- (4) 春季休業 3月21日から4月10日まで
- (5) 夏季休業 7月21日から8月31日まで
- (6) 冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 学長は、前項の休業日を都合により変更し、又は授業、実験、実習を課することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第5章 修業年限及び在学年限

第7条 保健衛生学部、医用工学部、看護学部の修業年限は、4年とする。

2 薬学部の修業年限は6年とする。

第8条 同一学科・専攻の同一学年における在学年限は3年以内とし、これを超えて在学することができない。

第6章 入学

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学、転入学及び次条第3号に規定する者については、学年の途中において入学させることができる。

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者、又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他大学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第11条 本学への入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

第12条 前条の入学志願者について、別に定めるところにより選考を行う。

第13条 前条の選考に合格した者は、指定の期日までに所定の納付金を納め、誓約書その他指定の書類を提出しなければならない。

第14条 学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

第15条 学長は、次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、各学科毎に欠員のある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者、及び卒業見込みの者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び卒業見込みの者
- (3) 大学に2年以上在学して、62単位以上修得した者及び修得見込みの者
- (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有するものに限る）

2 前項の規定により入学を許可された者は既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

第16条 再入学を願い出た者があるときは、教授会の議を経て学長は、入学を許可することがある。ただし、第34条の規定により除籍された者は、再入学を願い出ることができない。

第7章 教育課程及び履修方法等

第17条 授業科目を分けて、基礎分野及び専門基礎分野、専門分野とする。

第18条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目等に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。学生は所属学科の科目を履修することを原則とする。

第19条 授業科目の名称及び単位数は、別表Iのとおりとする。

第20条 授業科目の単位計算方法は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲の教室内の授業時間数をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲の教室内の授業時間数をもって1単位とする。

第20条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、多様なメディアを高度に利用した授業については別に定める。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第21条 一年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、35週にわたることを原則とする。

第22条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第23条 学生が、所属学科の授業科目以外に、他学科の又は他学部の授業科目の履修又は聴講を希望するときは、当該授業科目を管轄する学部の学部長、学科長の許可及び所属学部の教授会の承認を得なければならない。

2 前項の授業科目及び修得単位は、所属教授会が適当と認めた場合は、選択科目として取り扱うことができる。なお、これらの単位を卒業に必要な単位に含めることはできない。

第24条 授業科目の試験の成績は、秀、優、良、可、不可の5段階をもって表示し、秀、優、良、可を合格とする。

2 実験、実習並びに卒業研究は研究発表、報告書等の審査により可否を判定する。

3 成績の基準は別表Ⅱのとおりとする。

4 進級要件については、別に定める。

第25条 教育上有益と認めるときは、他の大学（外国の大学を含む）との協議に基づき、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て60単位を限度として、卒業の要件となる単位として認めることができる。

第26条 大学（外国の大学を含む）又は短期大学を卒業、又は中途退学し、新たに本学の第一年次に入学した学生の既修単位については、教育上有益と認めるときは、本学において修得したものと認定することができる。

2 前項の単位の認定は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条第1項および第2項により修得した単位と合わせて60単位を超えない範囲内で行うことができる。ただし、修学年限の短縮は行うことができない。

第27条 卒業に必要な単位は、放射線技術科学科は128単位以上、医療栄養学科は管理栄養学専攻135単位以上、臨床検査学専攻124単位以上、リハビリテーション学科は理学療法学専攻130単位以上、作業療法学専攻130単位以上、医療福祉学科は医療福祉学専攻126単位以上、臨床心理学専攻126単位以上、鍼灸サイエンス学科は134単位以上、救急救命学科は129単位以上、臨床工学科は138単位以上、医療健康データサイエンス学科は126単位以上、薬学科は186単位以上、看護学科は125単位以上を修得しなければならない。

2 前項の規定により卒業要件として修得すべき単位数のうち、第20条の2第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、124単位を超える単位を卒業要件としている場合は、同条第1項の授業の方法により64単位以上の修得がなされていれば、60単位を超えることができる。

第8章 休学・転学・転学部等・留学及び退学

第28条 疾病その他やむを得ない理由により2カ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

第29条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第8条の在学期間には算入しない。

第30条 休学期間中にその理由が消滅した時は、学長の許可を得て復学することができる。

第31条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 転学部等に関する規程は、別に定める。

第32条 外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第35条に定める在学期間に含めることができる。

3 第25条の規定は、外国の大学へ留学する場合に準用する。

第33条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第34条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第8条に定める在学年限を超えた者
- (3) 第29条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

第9章 卒業及び学位

第35条 保健衛生学部、医用工学部、看護学部にて4年（第15条第1項により入学した者については、同条第2項により定められた在学をすべき年数）以上、薬学部にて6年以上在学し、第27条に定める単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

第36条 卒業した者には、次の学位を授与する。ディプロマサプレメントを併せて交付する。

保健衛生学部	放射線技術科学科	学士（診療放射線学）
	医療栄養学科	
	管理栄養学専攻	学士（栄養学）
	臨床検査学専攻	学士（臨床検査学）
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	医療福祉学科	
	医療福祉学専攻	学士（医療福祉学）
	臨床心理学専攻	学士（心理学）
	鍼灸サイエンス学科	学士（鍼灸学）
	救急救命学科	学士（救急救命学）
	医用工学部	臨床工学科
	医療健康データサイエンス学科	学士（医療健康データサイエンス）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

第10章 賞 罰

第37条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

第38条 学則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、鈴鹿医療科学大学学生懲戒規程に則り、学長が懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがない者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学期間は、在学年数に算入する。ただし、その期間が3カ月以上にわたるときは、修業年限から除く。

第11章 研究員、委託研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

第39条 本学において、特定の課題について研究することを志願する者がいるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究員として在籍を許可することができる。

2 研究員を志願することのできる者は、大学院修士課程以上を修了した者、その他、学部教授会または大学院各研究科委員会において適当と認められた者とする。

3 研究員の在籍期間は1年または半年とし、最長5年まで更新することができる。

第40条 削除

第41条 本学において特定の授業科目を聴講し、単位を取得することを志願する者がいるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生又は特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生は学期毎に許可する。

3 特別聴講学生は1か年毎に許可する。

第42条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者がいるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生は、定員内とする。

第43条 研究員、委託研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する規則は別に定める。

第12章 検定料、入学金、授業料等及び奨学制度

第44条 検定料、入学金及び授業料等は、別表Ⅲのとおりとする。ただし、大学間相互単位互換協定に基づき締結された大学等の特別聴講学生については、原則徴収しない。

第45条 検定料、入学金及び授業料並びに手数料等については、学費等納入規程の定めるところにより所定の期日までに納入しなければならない。

第46条 前期又は後期中途において、復学又は入学した者は、復学又は入学した月から当該期末までの授業料を、復学又は入学した月に納付しなければならない。

第47条 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの月までの授業料を納付するものとする。

第48条 前期又は後期中途で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は徴収する。ただし、退学の許可又は除籍の決定が、前期は5月末日、後期は11月末日までの場合は、当該学期の授業料の2分の1を免除する。

第49条 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学が許可された期の翌期からの授業料を免除する。ただし、別表Ⅲ-④に定める休学在籍料を授業料免除の当該学期から納入しなければならない。

第50条 納付した検定料、入学金、授業料、休学在籍料並びに手数料等については、返還しない。ただし、学費等納入規程に定めのある場合は、この限りではない。

2 本学に、奨学制度を設ける。

3 奨学制度に関する規程は、別に定める。

第13章 職員組織等

第51条 本学に次の職員を置く。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員、労務職員、医療職員

2 職員の職制並びに服務に関する規程は、別に定める。

第52条 本学の各学部に重要事項を審議するため教授会を置く。

2 教授会は、専任の教授をもって組織する。

3 教授会は、学校教育法第93条第2項の規定に基づき学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業に関すること。

(2) 学位の授与に関すること。

(3) その他教育研究に関する重要事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

4 教授会は、学校教育法第93条第3項の規定に基づき学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 本条に定めるもののほか、教授会に関する規程は別に定める。

第53条 本学に学長の諮問機関として大学協議会を置く。

2 大学協議会は、次の各号に掲げる協議員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各副学長

(3) 各研究科長

(4) 各学部長

(5) 各学科長

(6) 図書館長

(7) ICT教育センター長

(8) 大学事務局長

(9) その他学長が必要と認めた者

3 大学協議会は、学長の諮問に応じて次の事項を審議する。

(1) 学部その他の機関の連絡調整に関する事項

(2) 大学の自己評価に関する事項

(3) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項

(4) 学部・学科その他重要な施設設備の設置廃止に関する事項

(5) 学事に関する重要事項

(6) その他教学に関する重要事項

4 本条に定めるもののほか、大学協議会に関する規程は、別に定める。

第14章 公開講座

第54条 本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する事項は、その都度定める。

第15章 附属施設

第55条 本学に次の附属施設を置く。

- (1) 大学附属図書館
- (2) 大学附属こころのクリニック
- (3) 大学附属こころの相談センター
- (4) 大学附属鍼灸治療センター
- (5) 大学附属桜の森病院

2 附属施設に関する必要な事項は別に定める。

第16章 体育館及びその他の施設

第56条 本学に体育館及び学生寮を置く。

2 体育館及び学生寮に関する必要な事項は別に定める。

第16章の2 東洋医学研究所

第56条の2 本学に東洋医学研究所を置く。

2 東洋医学研究所に関する必要な事項は別に定める。

第17章 学則の改正

第57条 本学則の改正等は、理事会の承認を得なければならない。

附則 本学則は、平成2年12月21日から施行し、平成3年度入学生から適用する。

附則 本学則は、平成5年2月25日に改正し、平成5年4月1日から適用する。

附則 本学則は、平成5年9月8日に改正、施行する。

附則 本学則は、平成6年5月25日に改正、施行する。

附則 本学則は、平成8年4月1日に改正、施行し、平成8年度入学生から適用する。

なお、平成7年度以前の入学生については本改正にかかわらず従前の規程による。

附則 本学則は、平成8年12月19日に改正し、平成9年4月1日から適用する。

ただし、第27条については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生は本改正にかかわらず従前の規程による。

附則 本学則は、平成9年12月18日改正し、平成10年4月1日から施行する。

附則 本学則は、平成11年10月22日改正し、平成12年4月1日から適用する。

附則 本学則は、平成13年3月27日に改正し、平成13年4月1日から施行する。ただし、平成12年度以前の入学生には、なお従前の規定（別表2000-TI-省略）を適用し、第27条に規定する卒業単位は130単位以上とする。

附則 本学則は、平成13年5月29日に改正し、平成14年度入学生から適用する。ただし、平成13年度以前の入学生には、なお従前の規定（別表2001-学納金-省略-）を適用する。

附則 1 本学則は、平成14年4月1日に改正、施行する。ただし、平成13年度以前に入学した医療栄養学科及び医用情報工学科の学生については、なお従前の規定（医療栄養学科については別表2001-HN-省略一、医用情報工学科については別表2001-TI-省略一）を適用する。また、平成13年度以前に入学した医療栄養学科の学生についての、第27条に規定する卒業単位数は135単位以上とする。

2 第36条の規定に拘らず、平成13年度以前に入学した医用電子工学科の学生には、学士（工学）を授与する。

附則 本学則は、平成15年4月1日に改正、施行する。ただし、平成14年度に入学した医療栄養学科、臨床工学科及び医用情報工学科の学生については、なお従前の規定（医療栄養学科については別表2002-HN-省略一、臨床工学科については別表2002-TC-省略一、医用情報工学科については別表2002-TI-省略一）を適用する。また、平成14年度に入学した医療栄養学科、臨床工学科及び医用情報工学科の学生についての、第27条に規定する卒業単位は、医療栄養学科129単位以上、臨床工学科153単位以上及び医用情報工学科124単位以上とする。

附則 1 本学則は、平成16年4月1日に改正、施行する。

2 第2条第3項の規定に拘らず、平成16年度から平成18年度までの収容定員は、次のとおりとする。（平成18年度収容定員は、平成18年4月1日より、学則附則のとおり変更を行う。）

学部	学科	平成16年度	平成17年度	平成18年度
保健衛生学部	放射線技術科学科	410	410	410
	医療栄養学科	166	166	166
	理学療法学科	120	160	160
	医療福祉学科	100	200	310
医用工学部	臨床工学科	210	170	170
	医用情報工学科	166	166	166
鍼灸学部	鍼灸学科	60	120	185

3 第49条については、平成15年度以前の入学生についても適用する。

4 別表Ⅲ-②については、平成15年度以前の入学生についても適用する。

附則 1 本学則は、平成17年4月1日に改正、施行する。

なお、第26条第2項については、平成16年度以前に入学した学生にも適用する。

2 平成15、16年度に入学した、臨床工学科、医用情報工学科の学生については、なお従前の規定（臨床工学科については、別表2003-TC-省略、医用情報工学科については別表2003-TI-省略）を適用する。

また平成15、16年度に入学した臨床工学科、医用情報工学科の学生についての第27条に規定する卒業単位は臨床工学科156単位以上、医用情報工学科128単位以上とする。

3 別表Ⅲ-〔備考〕について、平成16年度以前に入学した学生にも適用する。

附則 1 本学則は、平成18年4月1日に改正、施行する。

2 第2条第3項の規定に拘らず、平成18年度から平成20年度までの収容定員は、次のと
大学学則本文-11

おりとする。

学部	学科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
保健衛生	放射線技術科	412	410	410
	医療栄養	166	166	166
	理学療法	160	160	160
	医療福祉	310	420	420
医用工	臨床工	170	169	172
	医用情報工	165	164	164
鍼灸	鍼灸	185	250	250

- 3 平成12年度以前に入学した放射線技術科学科の学生については、従前の規定（別表1997-HR-省略）を、平成13年度から平成17年度の入学生については、従前の規定（別表2001-HR-省略）を適用する。また、第27条に規定する卒業単位数は、平成12年度以前の入学生は164単位以上、平成13年度から平成17年度の入学生については、129単位以上とする。
- 4 別表Ⅲ-②については、理学療法学科は平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生には、なお従前の規定（別表2005-学納金-省略）を適用する。また、鍼灸学科は、平成17年度以前の入学生についても適用する。
- 5 第48条、第49条及び第50条については、平成17年度以前の入学生についても適用する。

附則 1 本学則は、平成18年9月25日に改正し、平成19年4月1日から施行する。

- 2 平成16年に入学した医療栄養学科の学生については、従前の規定（別表2003-HN-省略）を適用する。平成17、18年度以前に入学した臨床工学科の学生については、従前の規定（別表2005-TC-省略）を適用する。

附則 1 本学則は、薬学科および医療福祉学科保育士養成課程設置について、平成20年3月24日に改正し、平成20年4月1日から施行する。

- 2 平成19年度以前に入学した医療福祉学科の学生については、従前の規定（別表2004-HW-省略）を適用する。
- 3 別表Ⅲ-②については平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生には、従前の規定（別表2007-学納金-省略）を適用する。また理学療法学科の平成17年度以前の入学生には、従前の規定（別表2005-学納金-省略）を適用する。

附則 1 本学則は、医療福祉学科の入学定員変更について、平成20年9月16日に改正し、平成21年4月1日から施行する。

- 2 第2条第3項の規定に拘らず、平成21年度から平成23年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
保健衛生	放射線技術科	410	410	410
	医療栄養	166	166	166
	理学療法	160	160	160
	医療福祉	380	340	300
医用工	臨床工	172	172	172
	医用情報工	164	164	164

鍼灸	鍼灸	250	250	250
薬	薬	200	300	400

- 3 平成20年度以前に入学した医療福祉学科の学生については、なお従前の規定を適用する。但し、平成21年4月1日以降の転編入学生については、当規定（別表2008 医療福祉学科）を適用する。

附則 1 本学則は、平成21年4月1日に改正し、施行する。

- 2 平成20年度以前に入学した鍼灸学科の学生については、なお従前の規程を適用する。

附則 1 本学則は、医療福祉学科の別表Iに科目を定める省令と本学教育課程との対比表追加について、平成21年3月26日に改正し、平成21年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、薬学部の授業料変更について、平成21年5月25日に改正し、平成22年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、医療栄養学科の改組に伴う入学定員と編入学定員の変更および授業料変更について、平成22年5月26日に改正し、平成23年4月1日から施行する。

- 2 第2条第3項の規定に拘らず、平成23年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成23年度	平成24年度	平成25年度
保健衛生	放射線技術科	410	410	410
	医療栄養 管理栄養コース	166	166	166
	臨床検査コース	40	80	120
	理学療法	160	160	160
	医療福祉	293	246	246
医用工	臨床工	172	172	172
	医用情報工	144	124	104
鍼灸	鍼灸	227	204	184
薬	薬	400	500	600

附則 1 本学則は、医療栄養学科管理栄養コースの教育課程変更について、平成22年8月23日に改正し、平成23年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、医療福祉学科の教育課程変更および授業料変更について、平成22年9月24日に改正し、平成23年4月1日から施行する。

- 2 平成22年度以前に入学した医療福祉学科の学生については、なお従前の規定を適用する。但し、平成23年4月1日以降の転編入学生については、当規定（別表2009 医療福祉学科）を適用する。

附則 1 本学則は、臨床工学科・医用情報工学科の教育課程変更および成績の基準変更、奨学制度の設置について、平成22年12月17日に改正し、平成23年4月1日から施行する。なお、第24条および第50条2・3項については平成23年度入学生から適用する。

附則 1 本学則は、医用情報工学科と鍼灸学科の入学定員変更および授業料変更について、平成23年5月27日に改正し、平成24年4月1日から施行する。

- 2 第2条第3項の規定に拘らず、平成24年度から平成26年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成24年度	平成25年度	平成26年度
----	----	--------	--------	--------

保健衛生	放射線技術科	410	410	410
	医療栄養			
	管理栄養コース	166	166	166
	臨床検査コース	80	120	160
	理学療法	160	160	160
	医療福祉	246	246	246
医用工	臨床工	172	172	172
	医用情報工	134	124	114
鍼灸	鍼灸	194	164	134
薬	薬	500	600	600

附則 1 本学則は、精神保健福祉士法第7条第1号に規定する精神障がい者の保健及び福祉に関する指定科目の変更に伴い、＜別表Ⅰ＞医療福祉学科の教育課程を変更することについて、平成23年9月29日に改正し、平成24年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、医用情報工学科と薬学科の教育課程変更について、平成23年12月21日に改正し、平成24年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、学生定員等について、平成24年3月22日に改正し、平成25年4月1日から適用する。

附則 1 本学則は、改組に伴い授業料等の〈別表Ⅲ〉について、平成24年5月25日に改正し、平成25年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、平成24年8月20日に改正し、平成25年4月1日から施行する。

2 鍼灸学部鍼灸学科は、平成25年4月1日から学生募集を停止し、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。なお、在籍する鍼灸学部鍼灸学科の学生は、第2章第2条、第2条の2、第5章第7条、8条、第7章第27条、第9章第35条、36条、別表Ⅰについては従前の規定を適用する。

3 第2条第3項の規定に拘らず、平成25年度から平成27年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	平成25年度	平成26年度	平成27年度
保健衛生	放射線技術科	410	410	410
	医療栄養	43		
	管理栄養コース	123	166	166
	臨床検査コース	120	160	160
	理学療法	160	160	160
	医療福祉	186	126	63
	医療福祉コース	30	60	93
	臨床心理コース	30	60	90
	鍼灸	30	60	92
医用工	臨床工	174	173	172
	医用情報工	124	114	124
鍼灸	鍼灸	134	74	32
薬	薬	600	600	600

附則 1 本学則は、授業料等の〈別表Ⅲ〉について、平成25年5月28日に改正し、平成25年4月1日から適用する。

- 附則 1 本学則は、教育改革に伴う教育課程変更等について、平成25年5月28日に改正し、平成26年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、教育改革に伴う教育課程変更等について、平成25年9月20日に改正し、平成26年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、看護学部設置に伴う変更について、平成25年9月20日に改正し、平成26年4月1日から施行する。

2 平成26年度から平成28年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
保健衛生	放射線技術科	410	410	410	
	医療栄養	管理栄養コース	166	166	166
		臨床検査コース	160	160	160
		理学療法	160	160	160
	医療福祉	医療福祉	126	63	0
		医療福祉コース	60	93	126
		臨床心理コース	60	90	120
鍼灸	60	92	92		
医用工	臨床工	173	172	172	
	医用情報工	114	124	124	
鍼灸	鍼灸	74	32	0	
薬	薬	600	600	600	
看護	看護	80	160	240	

- 附則 1 本学則は、転学部等に関する規程の制定に伴う変更等について、平成25年12月20日に改正し、施行する。
- 附則 1 本学則は、特別聴講学生（放送大学）の追加に伴う変更等について、平成25年12月20日に改正し、平成26年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、平成26年5月30日に改正し、平成27年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、平成26年12月17日に改正し、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成26年度以前に入学した学生について、第36条、第48条第2項および別表Iは従前の規定を適用する。
- 附則 1 本学則は、平成27年3月24日に改正し、平成27年4月1日から施行する。ただし、第53条については、平成26年4月1日に遡って適用する。

2 平成27年度から平成29年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
保健衛生	放射線技術科	410	410	410	
	医療栄養	管理栄養コース	166	166	166
		臨床検査コース	160	160	160
		理学療法	160	160	160
	医療福祉	医療福祉	63	0	0
		医療福祉コース	93	126	126
		臨床心理コース	90	120	120
鍼灸	92	124	124		

医用工	臨床工	172	172	172
	医用情報工	124	124	124
鍼灸	鍼灸	32	0	0
薬	薬	600	600	600
看護	看護	160	240	320

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ〉について、平成27年9月28日に改正し、平成28年4月1日から施行する。ただし、薬学科については、平成26年4月1日入学者から適用する。

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ〉について、平成27年12月16日に改正し、平成28年4月1日から施行する。なお、理学療法学科については平成26年度以降入学者に、医療福祉学科については平成25、26年度入学者に適用する。

附則 1 本学則は、平成28年3月30日に改正し、平成28年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ（医療福祉学科臨床心理コースを除く）〉について、平成28年5月30日に改正し、平成29年4月1日から施行する。

2 〈別表Ⅰ〉臨床工学科教育課程「臨床工学演習Ⅰ～Ⅴ」の時間数について、平成28年5月30日に改正し、平成28年度入学生の教育課程については平成28年4月1日に、平成26～27年度入学生の教育課程については平成26年4月1日に遡って適用する。

3 〈別表Ⅲ〉検定料（センター利用方式）について、平成28年5月30日に改正し、平成28年4月1日から適用する。

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ〉について、平成28年9月28日に改正し、平成29年4月1日から施行する。ただし、薬学科については、平成26年4月1日入学者から適用する。

附則 1 本学則は、特別聴講学生の変更等について、平成28年12月16日に改正、施行する。

附則 1 本学則は、附属施設追加に伴い、平成29年3月30日に改正し、平成29年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、平成29年5月29日に改正し、平成30年4月1日から施行する。

2 医療栄養学科および医療福祉学科各コースの名称変更については、各コースの開設日に遡って適用する。

3 鍼灸学科の名称変更については、平成30年度在学学生から適用する。

4 編入学定員の廃止、医療栄養学科臨床検査コースの入学定員変更に伴う平成30年度から平成32年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	平成30年度	平成31年度	平成32年度
保健衛生	放射線技術科	403	400	400
	医療栄養			
	管理栄養学専攻	163	160	160
	臨床検査学専攻	170	180	190
	理学療法	160	160	160
	医療福祉			
	医療福祉学専攻	123	120	120
	臨床心理学専攻	120	120	120
	鍼灸サイエンス	122	120	120
医用工	臨床工	165	162	160
	医用情報工	122	120	120
薬	薬	600	600	600
看護	看護	320	320	320

附

則
1
本

学則は、〈別表 I（医療福祉学科）〉について、平成 29 年 9 月 29 日に改正し、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 1 本学則は、第 8 条について、平成 29 年 12 月 15 日に改正し、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2 本学則は、〈別表 I〉薬学科教育課程について、平成 29 年 12 月 15 日に改正し、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 27 年 4 月 1 日入学者から適用する。

附則 1 本学則は、〈別表 I（医療福祉学科医療福祉学専攻）〉について、平成 30 年 3 月 29 日に改正し、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 1 本学則は、平成 30 年 5 月 30 日に改正し、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 15 条については平成 30 年 4 月 1 日に遡って適用する。

2 リハビリテーション学科の設置に伴う 2019 年度から 2021 年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	2019年度	2020年度	2021年度
保健衛生学部	放射線技術科学科	400	400	400
	医療栄養学科			
	管理栄養学専攻	160	160	160
	臨床検査学専攻	180	190	200
	リハビリテーション学科			
	理学療法学専攻	40	80	120
	作業療法学専攻	40	80	120
	理学療法学科	120	80	40
	医療福祉学科			
	医療福祉学専攻	120	120	120
	臨床心理学専攻	120	120	120
鍼灸サイエンス学科	120	120	120	
医用工学部	臨床工学科	162	160	160
	医用情報工学科	120	120	120
薬学部	薬学科	600	600	600
看護学部	看護学科	320	320	320

- 附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ（リハビリテーション学科）〉について、平成30年9月26日に改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、第55条および〈別表Ⅰ（鍼灸サイエンス学科）〉について、平成31年3月28日に改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 2 本学則は、〈別表Ⅰ〉について、平成31年3月28日に改正し、平成32年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、看護学科の入学定員等の変更について、令和元年5月30日に改正し、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度から令和4年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度
保健衛生学部	放射線技術科学科	400	400	400
	医療栄養学科			
	管理栄養学専攻	160	160	160
	臨床検査学専攻	190	200	200
	リハビリテーション学科			
	理学療法学専攻	80	120	160
	作業療法学専攻	80	120	160
	理学療法学科	80	40	-
	医療福祉学科			
	医療福祉学専攻	120	120	120
	臨床心理学専攻	120	120	120
鍼灸サイエンス学科	120	120	120	
医用工学部	臨床工学科	160	160	160
	医用情報工学科	120	120	120
薬学部	薬学科	600	600	600
看護学部	看護学科	340	360	380

- 3 本学則は、〈別表Ⅰ（鍼灸サイエンス学科）〉について、令和元年5月30日に改正し、令和2年4月1日から施行する。
- 4 本学則は、〈別表Ⅲ〉授業料等について、令和元年5月30日に改正し、令和2年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、第27条について、令和元年9月27日に改正、令和2年4月1日から施行する。
- 2 本学則は、第36条について、令和元年9月27日に改正、施行する。
- 3 本学則は、〈別表Ⅰ〉について、令和元年9月27日に改正し、令和2年4月1日から施行する。
- 4 リハビリテーション学科作業療法学専攻の臨床実習に関する〈別表Ⅰ〉教育課程変更については、平成31年4月1日入学生から適用する。
- 附則 1 本学則は、第11章について、令和元年12月13日に改正、施行する。
- 附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ（薬学科）〉について、令和2年3月30日に改正し、令和2年4月1日から施行する。
- 附則 1 本学則は、令和2年5月29日に改正し、令和3年4月1日から施行する。
- 2 医療健康データサイエンス学科の設置に伴う令和3年度から令和5年度までの収容定員は

次の通りとする。

学部	学科・専攻	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
保健衛生学部	放射線技術科学科	400	400	400	
	医療栄養学科	管理栄養学専攻	160	160	160
		臨床検査学専攻	200	200	200
		理学療法学専攻	120	160	160
	リハビリテーション学科	作業療法学専攻	120	160	160
		理学療法学専攻	40	-	-
	医療福祉学科	医療福祉学専攻	120	120	120
	医療福祉学専攻		120	120	120
			臨床心理学専攻	120	120
	鍼灸サイエンス学科	120	120	120	
医用工学部	臨床工学科	160	160	160	
	医用情報工学科	90	60	30	
	医療健康データサイエンス学科	40	80	120	
薬学部	薬学科	600	600	600	
看護学部	看護学科	360	380	400	

3 本学則は、〈別表Ⅰ（医療健康データサイエンス学科）〉について、令和2年5月29日に改正し、令和3年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ（医療福祉学科医療福祉学専攻および臨床心理学専攻）〉について、令和2年9月29日に改正し、令和3年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、〈別表Ⅰ（医療福祉学科臨床心理学専攻）〉について、令和2年12月11日に改正し、令和3年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、第20条の2、第27条、第55条、〈別表Ⅲ〉①について、令和3年3月30日に改正し、令和3年4月1日から施行する。

附則 1 本学則は、令和3年5月28日に改正し、令和4年4月1日から施行する。

2 救急救命学科の設置に伴う令和4年度から令和6年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
保健衛生学部	放射線技術科学科	400	400	400	
	医療栄養学科	管理栄養学専攻	160	160	160
		臨床検査学専攻	200	200	200
		リハビリテーション学科			
	理学療法学専攻	理学療法学専攻	160	160	160
		作業療法学専攻	160	160	160
	医療福祉学科	医療福祉学専攻	120	120	120
		臨床心理学専攻	120	120	120
		鍼灸サイエンス学科	120	120	120
	救急救命学科	40	80	120	
	医用工学部	臨床工学科	160	160	160
医用情報工学科		90	60	30	
医療健康データサイエンス学科		40	80	120	
薬学部	薬学科	600	600	600	
看護学部	看護学科	380	400	400	

放射線技術科学科

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考	
			1	2	3	4	必修	選択		
基礎分野	医療人の基礎知識	いのちの倫理学	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること	
		医療の倫理学	1					1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)			
		臨床医学への招待	1					1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)			
		人々の生活と医療	1					1 (15)		
	医療人の技能と資質	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)		選択科目から6単位以上を修得すること	
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)			
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)			
	医療人底力教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)			
		事例で学ぶ多職種連携			1			1 (30)		
		実践で学ぶ多職種連携				1		1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1					1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)		
		医学医療最近の進歩	1					1 (15)		
	医療人の教養と常識	食と健康	1					1 (15)		
		医療における安全と安心	1					1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)		
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)		
		情報時代と医療	1					1 (15)		
	健康科学	医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
		スポーツと健康	1					1 (15)		
		スポーツの科学	1					1 (15)		
	人間と生活	スポーツ科学実習		1				1 (30)		
		人間と文化と社会	哲学と死生観	1						1 (15)
			病と文化	1						1 (15)
			人類の疾病と医療	1						1 (15)
			心と医療	1						1 (15)
			法と医療	1						1 (15)
			経済と医療	1						1 (15)
			医療・福祉と財政	1						1 (15)
社会病理と人の病			1					1 (15)		
コミュニケーション		英語Ⅰ	1				1 (30)			
		英語Ⅱ	1				1 (30)			
		医療英語の基礎A		1				1 (30)		
		医療英語の基礎B		1				1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1					1 (30)		
	英語コミュニケーションB	1					1 (30)			
科学的思考の基礎	中国語Ⅰ	1					1 (30)			
	中国語Ⅱ	1					1 (30)			
	数学Ⅰ	2				2 (30)				
	数学Ⅱ	2					2 (30)			
	物理学Ⅰ	2				2 (30)				
	物理学Ⅱ	2					2 (30)			
	化学Ⅰ	2				2 (30)				
	化学Ⅱ	2					2 (30)			
	生物学Ⅰ	2				2 (30)				
	生物学Ⅱ	2					2 (30)			
情報リテラシー	2				2 (30)					
基礎分野計			52	5	1	1	19 (375)	40 (765)		

放射線技術科学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	臨床医学概論			2		2 (30)	
		解剖学	2				2 (30)	
		解剖学演習	1				1 (30)	
		生理学	2				2 (30)	
		生化学	2				2 (30)	
		病理学		2			2 (30)	
		救急医学概論			2		2 (30)	
		臨床薬理学			2		2 (30)	
	保健医療福祉における理工学的基礎 並びに放射線の科学及び技術	応用数学		2			2 (30)	
		電気・電子工学基礎	2				2 (30)	
		応用電子工学演習		1			1 (30)	
		医用工学演習			1		1 (30)	
		放射線生物学		2			2 (30)	
		医用物理学基礎	2					2 (30)
放射線物理学Ⅰ		2				2 (30)		
放射線物理学Ⅱ			2			2 (30)		
放射化学			2			2 (30)		
放射化学実験			1			1 (45)		
放射線計測学Ⅰ			2			2 (30)		
放射線計測学Ⅱ		2			2 (30)			
放射線計測学実験			1		1 (45)			
専門基礎分野計		13	16	8	0	35 (630)	2 (30)	
専門分野	診療画像技術学	放射線科学技術論	2				2 (30)	
		画像解剖学		2			2 (30)	
		画像診断学			2		2 (30)	
		X線画像機器工学Ⅰ	2				2 (30)	
		X線画像機器工学Ⅱ		2			2 (30)	
		医用画像機器工学		2			2 (30)	
		診療画像機器学演習			1		1 (30)	
		医用画像機器実習			1		1 (45)	
		X線画像技術学Ⅰ	2				2 (30)	
		X線画像技術学Ⅱ		2			2 (30)	
		画像検査学		2			2 (30)	
		診療画像技術実習			1		1 (45)	
		核医学 検査 技術学	核医学機器工学		2			2 (30)
	核医学検査技術学Ⅰ				2		2 (30)	
	核医学検査技術学Ⅱ				2		2 (30)	
	放射線 治療 技術学	放射線治療機器工学		2			2 (30)	
		放射線治療技術学Ⅰ			2		2 (30)	
		放射線治療技術学Ⅱ			2		2 (30)	
	医用画像 情報学	画像情報工学Ⅰ		2			2 (30)	
		画像情報工学実習		1			1 (45)	
画像情報工学Ⅱ				2		2 (30)		
画像情報工学演習				1		1 (30)		

放射線技術科学科

授業科目の名称			開講年次				単位数(時間数)		備考
			1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	放射線安全管理学	放射線安全管理学			2		2 (30)		
		放射線安全管理学実習			1		1 (45)		
		医療関係法規			2		2 (30)		
		放射線関係法規		1			1 (15)		
	※1	医療安全管理学			1		1 (15)		
	※2	臨床実習				10	10 (450)		
	総合	診療放射線学総合演習				2	2 (60)		
		卒業研究				4	4 (180)		
専門分野計			6	18	22	16	62 (1530)	0 (0)	
合計			71	39	31	17	116 (2535)	42 (795)	

※1 医療安全管理学

※2 臨床実習

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	合計		総合計
必修	選択	必修	必修	必修	選択	
19	12	35	62	116	12	128以上

医療栄養学科 管理栄養学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考		
		1	2	3	4	必修	選択			
基礎分野	医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること	
			医療の倫理学	1						1 (15)
			医学の基礎入門	1				1 (15)		
			臨床医学への招待	1						1 (15)
			医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)		
			人々の生活と医療	1						1 (15)
	医療人底力教育	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること	
			医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)		
			医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)		
		多職種連携教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)		
			事例で学ぶ多職種連携			1				1 (30)
			実践で学ぶ多職種連携				1			1 (30)
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)		1					1 (30)		
	教養と常識の医療人の	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)		
		医学医療最近の進歩	1					1 (15)		
		食と健康	1					1 (15)		
		医療における安全と安心	1					1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)		
	科学健康	薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)		
		情報時代と医療	1					1 (15)		
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
		スポーツと健康	1				1 (15)			
		スポーツの科学	1				1 (15)			
		スポーツ科学実習	1					1 (30)		
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1						1 (15)
			病と文化	1						1 (15)
			人類の疾病と医療	1						1 (15)
			心と医療	1						1 (15)
			法と医療	1						1 (15)
			経済と医療	1						1 (15)
			医療・福祉と財政	1						1 (15)
			社会病理と人の病	1						1 (15)
コミュニケーション		英語Ⅰ	1				1 (30)			
		英語Ⅱ	1				1 (30)			
		医療英語の基礎A		1				1 (30)		
		医療英語の基礎B		1				1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1					1 (30)		
		英語コミュニケーションB	1					1 (30)		
科学的思考の基礎	自然科学の基礎	中国語Ⅰ	1				1 (30)			
		中国語Ⅱ	1				1 (30)			
		環境科学	1				1 (15)			
	自然科学の基礎	地球科学・宇宙科学	1				1 (15)			
		科学史・科学哲学	1				1 (15)			
		数学Ⅰ	2				2 (30)			
		数学Ⅱ	2				2 (30)			
		物理学	2				2 (30)			
		化学Ⅰ	2				2 (30)			
		化学Ⅱ	2				2 (30)			
生物学Ⅰ	2				2 (30)					
生物学Ⅱ	2				2 (30)					
情報リテラシー	※	2				2 (30)				
基礎分野計		54	4	1	1	23 (435)	37 (720)			

医療栄養学科 管理栄養学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
公衆衛生学Ⅰ	※		2			2 (30)		専門分野の 選択科目から 1単位以上を 修得すること
公衆衛生学Ⅱ	※		2			2 (30)		
健康管理学	※	1				1 (15)		
公衆衛生学実習	※			1		1 (45)		
解剖学	※	2				2 (30)		
生理学	※		2			2 (30)		
運動生理学	※		2			2 (30)		
生化学Ⅰ	※		2			2 (30)		
生化学Ⅱ	※		2			2 (30)		
臨床検査医学総論			1			1 (15)		
臨床医学	※			2		2 (30)		
微生物学	※		2			2 (30)		
生物有機化学	※	2				2 (30)		
免疫学			2			2 (30)		
薬理学				2			2 (30)	
化学実験			1			1 (45)		
生物学実験			1			1 (45)		
解剖生理学実習	※		2			2 (90)		
生化学実験	※			2		2 (90)		
微生物学実験	※		1			1 (45)		
食品分析学	※		2			2 (30)		
食品学総論	※		2			2 (30)		
食品加工学	※		2			2 (30)		
食品学各論	※		2			2 (30)		
調理学	※	2				2 (30)		
食品衛生学	※			2		2 (30)		
食料経済学	※		2			2 (30)		
食品学実験(食品加工学を含む)	※		2			2 (90)		
調理学実習	※		2			2 (90)		
応用調理学実習				1			1 (45)	
食品衛生学実習	※			1		1 (45)		
基礎栄養学	※		2			2 (30)		
基礎栄養学実習	※			1		1 (45)		
応用栄養学Ⅰ	※		2			2 (30)		
応用栄養学Ⅱ	※			2		2 (30)		
応用栄養学Ⅲ	※			2		2 (30)		
応用栄養学実習	※			1		1 (45)		
栄養教育論Ⅰ	※		2			2 (30)		
栄養教育論Ⅱ	※			2		2 (30)		
栄養教育論Ⅲ	※			2		2 (30)		
栄養教育論実習	※			2		2 (90)		
臨床栄養学Ⅰ	※		2			2 (30)		
臨床栄養学Ⅱ	※			2		2 (30)		
臨床栄養学Ⅲ	※			2		2 (30)		
臨床栄養学Ⅳ	※			2		2 (30)		
臨床栄養学実習	※			2		2 (90)		
公衆栄養学Ⅰ	※			2		2 (30)		
公衆栄養学Ⅱ	※			2		2 (30)		
公衆栄養学実習	※				1	1 (45)		
給食経営管理論Ⅰ	※			2		2 (30)		
給食経営管理論Ⅱ	※			2		2 (30)		

専門分野

医療栄養学科 管理栄養学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	給食経営管理論実習 ※			1		1 (45)		専門分野の 選択科目から 1単位以上を 修得すること
	総合演習Ⅰ ※			1		1 (30)		
	総合演習Ⅱ ※				1	1 (30)		
	臨地実習Ⅰ(給食の運営) ※			1		1 (45)		
	臨地実習Ⅱ ※			2		2 (90)		
	臨地実習Ⅲ ※				1	1 (45)		
	チーム医療			1			1 (30)	
	医療栄養学特別演習				1	1 (30)		
	卒業研究				4	4 (180)		
専門分野計	7	44	45	8	100 (2415)	4 (105)		
合計	61	48	46	9	123 (2850)	41 (825)		

☆ 専門分野の選択科目から1単位以上を履修すること。

※ 管理栄養士国家試験受験資格要件は、専門分野より※印の科目90単位を修得し、本課程の卒業要件を満たすこと。

卒業必要単位数

基礎分野		専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	選択	必修	選択	
23	11	100	1	123	12	135以上

自由科目(卒業要件外科目)

授業科目の名称	開講年次				単位数	時間数	備考
	1	2	3	4			
東洋医学基礎理論Ⅰ		2			2	30	医療薬膳師認定 試験受験資格取 得要件科目
東洋医学基礎理論Ⅱ		2			2	30	
中医薬膳学			2		2	30	

※自由科目は卒業単位として認定されない。

医療栄養学科 臨床検査学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考		
		1	2	3	4	必修	選択			
基礎分野	医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること	
			医療の倫理学	1						1 (15)
			医学の基礎入門	1				1 (15)		
			臨床医学への招待	1						1 (15)
			医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)		
			人々の生活と医療	1						1 (15)
	医療人底力教育	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること	
			医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)		
			医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)		
		多職種連携教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)		
			事例で学ぶ多職種連携			1				1 (30)
			実践で学ぶ多職種連携				1			1 (30)
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)		1					1 (30)		
	教養と常識の医療人の	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)		
		医学医療最近の進歩	1					1 (15)		
		食と健康	1					1 (15)		
		医療における安全と安心	1					1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)		
	科学健康	薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)		
		情報時代と医療	1					1 (15)		
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
		スポーツと健康	1					1 (15)		
		スポーツの科学	1					1 (15)		
		スポーツ科学実習	1					1 (30)		
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1					1 (15)	
			病と文化	1					1 (15)	
			人類の疾病と医療	1					1 (15)	
			心と医療	1					1 (15)	
			法と医療	1					1 (15)	
			経済と医療	1					1 (15)	
			医療・福祉と財政	1					1 (15)	
			社会病理と人の病	1					1 (15)	
コミュニケーション		英語Ⅰ	1				1 (30)			
		英語Ⅱ	1				1 (30)			
		医療英語の基礎A		1				1 (30)		
		医療英語の基礎B		1				1 (30)		
自然科学への誘い	英語コミュニケーションA	1					1 (30)			
	英語コミュニケーションB	1					1 (30)			
	中国語Ⅰ	1					1 (30)			
	中国語Ⅱ	1					1 (30)			
科学的思考の基盤	自然科学の基礎	物理学の世界	1					1 (15)		
		環境科学	1					1 (15)		
		地球科学・宇宙科学	1					1 (15)		
		科学史・科学哲学	1					1 (15)		
	自然科学の基盤	数学Ⅰ	2					2 (30)		
		数学Ⅱ	2				2 (30)			
		化学Ⅰ	2				2 (30)			
		化学Ⅱ	2				2 (30)			
		生物学Ⅰ	2				2 (30)			
		生物学Ⅱ	2				2 (30)			
情報リテラシー	2				2 (30)					
基礎分野計		53	4	1	1	21 (405)	38 (735)			

医療栄養学科 臨床検査学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	人体機能構造	解剖組織学	2				2 (30)	
		解剖組織学実習		1			1 (45)	
		生化学	2				2 (30)	
		生化学実験		1			1 (45)	
		免疫学	2				2 (30)	
	☆1	病理組織学		2			2 (30)	
		臨床検査医学総論		2			2 (30)	
		臨床検査医学演習(R-CPC等)			1		1 (30)	
	☆2	公衆衛生学		1			1 (15)	
		公衆衛生学実習		1			1 (45)	
	☆3	医用工学 ※		2			2 (30)	
		医用工学実習 ※		1			1 (45)	
	臨床病理学	内科学 I			2		2 (30)	
		内科学 II (産婦人科学・小児科学他)			2		2 (30)	
		薬理学(薬物動態を含む)			2		2 (30)	
	形態検査学	動物学		2			2 (30)	
		動物学実習		1			1 (45)	
		血液検査学 I		1			1 (30)	
		血液検査学 II		1			1 (30)	
		血液検査学実習			2		2 (90)	
		病理検査学(細胞診を含む)		2			2 (30)	
		病理検査学実習(細胞診を含む) ※			2		2 (90)	
	検査学	機器分析学		1			1 (15)	
		機器分析学実習		1			1 (45)	
		臨床化学 I ※		1			1 (30)	
		臨床化学 II ※		1			1 (30)	
		臨床化学実習 ※			2		2 (90)	
		放射性同位元素検査技術学 ※		1			1 (30)	
	防衛検査学	微生物学	2				2 (30)	
		臨床微生物学		2			2 (30)	
臨床微生物学実習 ※				2		2 (90)		
免疫検査学			2			2 (30)		
免疫検査学実習 ※				2		2 (90)		
生理機能検査学	生理学	2				2 (30)		
	生理学実習		1			1 (45)		
	画像生理検査学 ※			2		2 (30)		
	生理機能検査学実習 ※			2		2 (90)		
	生理機能検査学 I ※		1			1 (30)		
	生理機能検査学 II ※		1			1 (30)		
画像解析学(X線・CT・MR等)			2		2 (30)			

専門分野の
選択科目から
2単位以上を
修得すること

医療栄養学科 臨床検査学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
専門分野	検査総合管理学	臨床検査学総論(精度管理を含む)Ⅰ ※		1			1 (30)	専門分野の 選択科目から 2単位以上を 修得すること	
		臨床検査学総論(精度管理を含む)Ⅱ ※		1			1 (30)		
		臨床検査学総論実習 ※		2			2 (90)		
		医療安全管理学 ※			1		1 (15)		
		チーム医療			1		1 (30)		
		総合臨床検査学演習Ⅰ				1	1 (30)		
		総合臨床検査学演習Ⅱ				1	1 (30)		
	実習地	臨床実習 ※			4		4 (180)		
	医療栄養学	食品学			2				2 (30)
		健康食品総論		2			2 (30)		
		食品衛生学			2				2 (30)
		栄養学(応用栄養学を含む)		2			2 (30)		
		臨床栄養学			2		2 (30)		
	先端医療学	遺伝子検査学		2			2 (30)		
		遺伝子検査学実験			2		2 (90)		
		再生医療技術学			1		1 (15)		
		再生医療技術学実習				1			1 (45)
	卒業研究					4	4 (180)		
	専門分野計		10	40	38	7	90 (2475)		5 (105)
合計		63	44	39	8	111 (2880)	43 (840)		

☆1 医学検査の基礎とその疾病との関連

☆2 保健医療福祉と医学検査

☆3 医療工学及び情報科学

☆ 専門分野選択科目から2単位以上を修得すること。

※ 臨床検査技師国家試験受験資格要件は、専門分野より※印の科目29単位を修得し、本課程の卒業要件を満たした者

卒業必要単位数

基礎分野		専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	選択	必修	選択	
21	11	90	2	111	13	124以上

自由科目(卒業要件外科目)

授業科目の名称	開講年次				単位数	時間	備考
	1	2	3	4			
東洋医学基礎理論Ⅰ		2			2	30	医療薬膳師認定 試験受験資格取 得要件科目
東洋医学基礎理論Ⅱ		2			2	30	
生薬学			2		2	30	
中医薬膳学			2		2	30	
自由科目合計	0	4	4	0	8	120	

★自由科目は卒業単位として認定されない。

栄養士免許取得に係る栄養士法施行規則と本学履修科目との対比表

管理栄養士学校指定規則の教育内容・単位数に対比した本学履修科目・単位数について

栄養士法施行規則(第9条関係)			医療栄養学科 管理栄養学専攻		
施行規則 教育内容	単位数		科目名	単位数	
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
社会 と健康 生活	4		情報リテラシー	2	
			公衆衛生学Ⅰ	2	
人体の 構造と機能	8	4	公衆衛生学Ⅱ	2	
			健康管理学	1	
			食料経済学	2	
			公衆衛生学実習		1
			社会生活と健康の小計	9	1
			解剖学	2	
			生理学	2	
			運動生理学	2	
			生化学Ⅰ	2	
			生化学Ⅱ	2	
食品と衛生	6		臨床医学	2	
			微生物学	2	
			生物有機化学	2	
			解剖生理学実習		2
			生化学実験		2
			微生物学実験		1
			人体の構造と機能の小計	16	5
			食品分析学	2	
			食品学総論	2	
			食品加工学	2	
栄養と健康	8		食品学各論	2	
			食品衛生学	2	
			食品学実験(食品加工学を含む)		2
			食品衛生学実習		1
			食品の衛生の小計	10	3
			基礎栄養学	2	
			基礎栄養学実習		1
			応用栄養学Ⅰ	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	
			応用栄養学Ⅲ	2	
栄養の 指導	6	10	応用栄養学実習		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			臨床栄養学Ⅱ	2	
			臨床栄養学Ⅲ	2	
			臨床栄養学Ⅳ	2	
			臨床栄養学実習		2
			栄養と健康の小計	16	4
			栄養教育論Ⅰ	2	
			栄養教育論Ⅱ	2	
			栄養教育論Ⅲ	2	
給食の 運営	4		栄養教育論実習		2
			公衆栄養学Ⅰ	2	
			公衆栄養学Ⅱ	2	
			公衆栄養学実習		1
			栄養の指導の小計	10	3
			給食経営管理論Ⅰ	2	
			給食経営管理論Ⅱ	2	
			給食経営管理論実習		1
			調理学実習		2
			臨地実習Ⅰ(給食の運営)		1
給食の運営の小計	6	4			
合計	36	14	合計	67	20
	50			87	

管理栄養士学校指定規則			医療栄養学科 管理栄養学専攻		
指定規則 教育内容	単位数		科目名	単位数	
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
社会 と健康 環境	6		情報リテラシー	2	
			公衆衛生学Ⅰ	2	
人体の 構造と機能 及び 疾病の 成り立ち	14	10	公衆衛生学Ⅱ	2	
			健康管理学	1	
			公衆衛生学実習		1
			解剖学	2	
			生理学	2	
			運動生理学	2	
			生化学Ⅰ	2	
			生化学Ⅱ	2	
			臨床医学	2	
			微生物学	2	
食べ物と健康	8		生物有機化学	2	
			解剖生理学実習		2
			生化学実験		2
			微生物学実験		1
			食品分析学	2	
			食品学総論	2	
			食品加工学	2	
			食品学各論	2	
			食品衛生学	2	
			食品学実験(食品加工学を含む)		2
基礎 栄養学 応用 栄養学 教育論 臨床 栄養学 公衆 栄養学 給食 経営 管理論 演習 総合 演習 臨地 実習	2	8	食品衛生学実習		2
			食品衛生学実習		1
			基礎栄養学	2	
			基礎栄養学実習		1
			応用栄養学Ⅰ	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	
			応用栄養学Ⅲ	2	
			応用栄養学実習		1
			栄養教育論Ⅰ	2	
			栄養教育論Ⅱ	2	
栄養教育論Ⅲ	2				
栄養教育論実習		2			
臨床栄養学Ⅰ	2				
臨床栄養学Ⅱ	2				
臨床栄養学Ⅲ	2				
臨床栄養学Ⅳ	2				
臨床栄養学実習		2			
公衆栄養学Ⅰ	2				
公衆栄養学Ⅱ	2				
公衆栄養学実習		1			
給食経営管理論Ⅰ	2				
給食経営管理論Ⅱ	2				
給食経営管理論実習		1			
総合演習Ⅰ	1				
総合演習Ⅱ	1				
臨地実習Ⅰ(給食の運営)		1			
臨地実習Ⅱ		2			
臨地実習Ⅲ		1			
合計	60	22	合計	69	23
	82			92	

<資料> 臨床検査技師指定規則審査基準の対比表

科 目	講 義									実 習									
	開講科目①			開講科目②			合計	指定規則	審査基準	開講科目①			開講科目②			合計	指定規則	審査基準	
	科目名	単位	時間	科目名	単位	時間				科目名	単位	時間	科目名	単位	時間				
臨床検査技師指定科目	医用工学概論	医用工学	2	30			30	30	30	医用工学実習	1	45			45	30	30		
	臨床検査総論	臨床検査学総論 (精度管理を含む) I・II	2	60			60	60	60	臨床検査学総論実習	2	90			90	90	90		
	臨床生理学	生理機能検査学 I・II	2	60	画像生理検査学	2	30	90	60	60	生理機能検査学実習	2	90	臨床実習	1	45	135	135	90
	臨床化学	臨床化学 I・II	2	60			60	60	60	臨床化学実習	2	90			90	90	90		
	放射性同位元素検査技術学	放射性同位元素 検査技術学	1	30			30	30	30										
	医療安全管理学	医療安全管理学	1	15			15	15	15	病理検査学実習 (細胞診を含む)	0.1	5	臨床微生物学実習 免疫検査学実習	0.1 0.1	5 5	15	15	15	

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		
		医療の倫理学	1				1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)		
		臨床医学への招待	1				1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)		
		人々の生活と医療	1				1 (15)		
	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)		
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)		
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)		
	多職種連携の教育の	多職種連携の基礎		1			1 (30)		
		事例で学ぶ多職種連携			1			1 (30)	
		実践で学ぶ多職種連携				1		1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1					1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)	
	医療人の常識の教養と	医学医療最近の進歩	1					1 (15)	
		食と健康	1					1 (15)	
		医療における安全と安心	1					1 (15)	
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)	
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)	
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)	
		情報時代と医療	1					1 (15)	
	健康の科学の	医療とコミュニケーション	1					1 (15)	
		スポーツと健康	1				1 (15)		
		スポーツの科学	1				1 (15)		
	基礎分野	人間の生活と社会の人間と文化と	スポーツ科学実習	1				1 (30)	
			哲学と死生観	1				1 (15)	
			病と文化	1				1 (15)	
			人類の疾病と医療	1				1 (15)	
			心と医療	1				1 (15)	
			法と医療	1				1 (15)	
経済と医療			1				1 (15)		
医療・福祉と財政			1				1 (15)		
コミュニケーションの言葉と		社会病理と人の病	1				1 (15)		
		英語Ⅰ	1				1 (30)		
		英語Ⅱ	1				1 (30)		
		医療英語の基礎A		1			1 (30)		
		医療英語の基礎B		1			1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1				1 (30)		
自然科学への誘いの	英語コミュニケーションB	1				1 (30)			
	中国語Ⅰ	1				1 (30)			
	中国語Ⅱ	1				1 (30)			
	環境科学	1				1 (15)			
	地球科学・宇宙科学	1				1 (15)			
	科学史・科学哲学	1				1 (15)			
科学的思考の基礎	自然科学の基礎	数学Ⅰ	2				2 (30)		
		数学Ⅱ	2				2 (30)		
		物理学Ⅰ	2				2 (30)		
		物理学Ⅱ	2				2 (30)		
		化学Ⅰ	2				2 (30)		
		化学Ⅱ	2				2 (30)		
		生物学Ⅰ	2				2 (30)		
		生物学Ⅱ	2				2 (30)		
		情報リテラシー	2				2 (30)		
		基礎分野計	56	4	1	1	16 (330)	46 (855)	

選択科目から5単位以上を修得すること

選択科目から2単位以上を修得すること

選択科目から6単位以上を修得すること

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	専門基礎科目	解剖学	2				2 (30)	
		応用解剖学	2				2 (30)	
		解剖学実習	1				1 (45)	
		生理学	2				2 (30)	
		応用生理学	2				2 (30)	
		生理学実習	1				1 (45)	
		病理学概論		1			1 (30)	
		臨床心理学		1			1 (30)	
		発達学		2			2 (30)	
		リハビリテーション概論	1				1 (30)	
		リハビリテーション医学	1				1 (30)	
		内科学総論		1			1 (30)	
		内科学各論		1			1 (30)	
		整形外科総論		1			1 (30)	
		整形外科各論		1			1 (30)	
		神経内科学総論		1			1 (30)	
		神経内科学各論		1			1 (30)	
		小児科学		1			1 (30)	
		一般臨床医学			1		1 (30)	
		精神医学				1	1 (30)	
		医学英語		1			1 (30)	
		リハビリテーション工学				2	2 (30)	
		救急医学概論				2	2 (30)	
		画像評価学				1	1 (15)	
		臨床栄養学		2			2 (30)	
		薬理学				2	2 (30)	
		専門基礎分野計		12	14	1	8	35 (795)
専門分野	療法学 基礎理学	基礎運動学	2				2 (30)	
		応用運動学		2			2 (30)	
		運動学実習		1			1 (45)	
		臨床運動学				1	1 (30)	
	評価学 理学療法	運動器系評価学		2			2 (30)	
		神経系評価学		2			2 (30)	
		理学療法評価学実習			1		1 (45)	
		臨床評価法実習			1		1 (45)	
	治療学 理学療法	物理療法学		2			2 (30)	
		物理療法学実習			1		1 (45)	
		運動療法学総論		2			2 (30)	
		運動器系理学療法学			1		1 (30)	
				1		1 (45)		

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	理学療法治療学	脊髄損傷理学療法学		1			1 (30)	
		神経系理学療法学			1		1 (30)	
		神経系理学療法学実習			1		1 (45)	
		神経筋系理学療法学実習			1		1 (45)	
		発達障害系理学療法学		1			1 (15)	
		発達障害系理学療法学実習			1		1 (45)	
		循環呼吸系理学療法学		2			2 (30)	
		循環呼吸系理学療法学実習			1		1 (45)	
		生活技術学		2			2 (30)	
		生活技術学実習			1		1 (45)	
		義肢装具学		1			1 (30)	
		義肢装具学実習			1		1 (45)	
		理学療法特論				1	1 (30)	
		スポーツ医学			2		2 (30)	
	理学療法技術論演習			1		1 (30)		
	ロボットリハビリテーション演習			1		1 (30)		
	理学療法管理				1	1 (15)		
	地域理学療法学	生活環境学			2		2 (30)	
		老年期障害学演習				1	1 (30)	
		地域理学療法学			1		1 (15)	
臨床実習	初期臨床実習		2			2 (90)		
	臨床評価実習			3		3 (135)		
	総合臨床実習				15	15 (675)		
卒業研究	卒業研究の基礎			2		2 (30)		
	卒業研究				1	1 (45)		
専門分野計		2	20	24	20	66 (2085)	0 (0)	
合計		70	38	26	29	117 (3210)	46 (855)	

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	合計		総合計
必修	選択	必修	必修	必修	選択	
16	13	35	66	117	13	130以上

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		
		医療の倫理学	1				1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)		
		臨床医学への招待	1				1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)		
		人々の生活と医療	1				1 (15)		
	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)		
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)		
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)		
	多職種連携の教育の	多職種連携の基礎		1			1 (30)		
		事例で学ぶ多職種連携			1			1 (30)	
		実践で学ぶ多職種連携				1		1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1					1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)	
	医療人の常識の教養と	医学医療最近の進歩	1					1 (15)	
		食と健康	1					1 (15)	
		医療における安全と安心	1					1 (15)	
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)	
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)	
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)	
		情報時代と医療	1					1 (15)	
	健康の科学の	医療とコミュニケーション	1					1 (15)	
		スポーツと健康	1				1 (15)		
		スポーツの科学	1				1 (15)		
	基礎分野	人間の生活と社会の人間と文化と	スポーツ科学実習	1				1 (30)	
			哲学と死生観	1				1 (15)	
			病と文化	1				1 (15)	
			人類の疾病と医療	1				1 (15)	
			心と医療	1				1 (15)	
			法と医療	1				1 (15)	
経済と医療			1				1 (15)		
医療・福祉と財政			1				1 (15)		
コミュニケーションの言葉と		社会病理と人の病	1				1 (15)		
		英語Ⅰ	1				1 (30)		
		英語Ⅱ	1				1 (30)		
		医療英語の基礎A		1			1 (30)		
		医療英語の基礎B		1			1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1				1 (30)		
科学的思考の基礎の自然科学の	英語コミュニケーションB	1				1 (30)			
	中国語Ⅰ	1				1 (30)			
	中国語Ⅱ	1				1 (30)			
	環境科学	1				1 (15)			
	地球科学・宇宙科学	1				1 (15)			
	科学史・科学哲学	1				1 (15)			
基礎分野計	自然科学の基礎の	数学Ⅰ	2				2 (30)		
		数学Ⅱ	2				2 (30)		
		物理学Ⅰ	2				2 (30)		
		物理学Ⅱ	2				2 (30)		
		化学Ⅰ	2				2 (30)		
		化学Ⅱ	2				2 (30)		
		生物学Ⅰ	2				2 (30)		
		生物学Ⅱ	2				2 (30)		
		情報リテラシー	2				2 (30)		
		基礎分野計	56	4	1	1	16 (330)	46 (855)	

選択科目から
6単位以上を
修得すること

選択科目から
2単位以上を
修得すること

選択科目から
6単位以上を
修得すること

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	専門基礎科目	解剖学	2				2 (30)	
		応用解剖学	2				2 (30)	
		解剖学実習	1				1 (45)	
		生理学	2				2 (30)	
		応用生理学	2				2 (30)	
		生理学実習	1				1 (45)	
		病理学概論		1			1 (30)	
		臨床心理学		1			1 (30)	
		発達学		2			2 (30)	
		リハビリテーション概論	1				1 (30)	
		リハビリテーション医学	1				1 (30)	
		内科学総論		1			1 (30)	
		内科学各論		1			1 (30)	
		整形外科総論		1			1 (30)	
		整形外科各論		1			1 (30)	
		神経内科学総論		1			1 (30)	
		神経内科学各論		1			1 (30)	
		小児科学		1			1 (30)	
		一般臨床医学		1			1 (30)	
		精神医学		1			1 (30)	
		医学英語		1			1 (30)	
		リハビリテーション工学				2	2 (30)	
		ロボットリハビリテーション演習			1		1 (30)	
		救急医学概論				2	2 (30)	
		画像評価学				1	1 (15)	
		臨床栄養学		2			2 (30)	
		薬理学				2	2 (30)	
専門基礎分野計		12	16	1	7	36 (825)		
専門分野	基礎作業療法学	運動学	1				1 (15)	
		運動学実習		1			1 (30)	
		作業療法概論		1			1 (15)	
		基礎作業学		1			1 (15)	
		基礎作業学実習		1			1 (30)	
		作業療法研究法		1			1 (15)	
	作業療法評価学	検査測定実習		1			1 (30)	
		身体障害評価学		1			1 (15)	
		精神障害評価学		1			1 (15)	
		発達障害評価学			1		1 (15)	
	作業療法治療学	老年期障害評価学			1		1 (15)	
		身体障害作業治療学Ⅰ		1			1 (15)	
		身体障害作業治療学Ⅰ実習			1		1 (30)	
	身体障害作業治療学Ⅱ			1		1 (15)		
	身体障害作業治療学Ⅱ実習			1		1 (30)		

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	作業療法治療学	精神障害作業治療学			1		1 (15)	
		精神障害作業治療学実習			1		1 (30)	
		発達障害作業治療学		1			1 (15)	
		発達障害作業治療学実習			1		1 (30)	
		老年期障害作業治療学			1		1 (15)	
		老年期障害作業治療学実習			1		1 (30)	
		日常生活活動支援学		1			1 (15)	
		日常生活活動支援学実習			1		1 (30)	
		高次脳機能障害作業治療学		1			1 (15)	
		高次脳機能障害作業治療学実習			1		1 (30)	
		義肢装具作業療法学		1			1 (15)	
		義肢装具作業療法学実習			1		1 (30)	
		職業関連作業療法学		1			1 (15)	
		ハンドセラピー学				1	1 (15)	
	感覚統合療法学				1	1 (15)		
	急性期作業療法学			1		1 (15)		
	総合演習				1	1 (15)		
	作業療法管理学	職業倫理学				1	1 (15)	
		職場管理学				1	1 (15)	
	地域作業療法学	地域作業療法学		1			1 (15)	
		地域作業療法学実習			1		1 (30)	
		生活環境論			1		1 (15)	
		訪問作業療法学				1	1 (15)	
臨床実習	臨床実習Ⅰ		2			2 (90)		
	臨床実習Ⅱ			5		5 (225)		
	臨床実習Ⅲ				9	9 (405)		
	臨床実習Ⅳ				9	9 (405)		
卒業研究				1	1 (45)			
専門分野計	1	17	21	25	64 (1920)			
合計	69	37	23	33	116 (3075)	46 (855)		

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	合計		総合計
必修	選択	必修	必修	必修	選択	
16	14	36	64	116	14	

医療福祉学科 医療福祉学専攻

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考
			1	2	3	4	必修	選択	
基礎分野	医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること
			医療の倫理学	1				1 (15)	
			医学の基礎入門	1				1 (15)	
			臨床医学への招待	1				1 (15)	
			医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)	
			人々の生活と医療	1				1 (15)	
		技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること ※を推奨
			医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)	
			医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)	
		多職種連携の教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)	
	事例で学ぶ多職種連携				1		1 (30)		
	実践で学ぶ多職種連携					1	1 (30)		
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)		1				1 (30)		
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)			1			1 (30)		
	教養と常識の医療人の	医学医療最近の進歩	1				1 (15)		
		食と健康	1				1 (15)		
		医療における安全と安心	1				1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1				1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1				1 (15)		
		薬の役割・薬のできるまで	1				1 (15)		
		情報時代と医療	1				1 (15)		
		医療とコミュニケーション	1				1 (15)		
	科学健康	スポーツと健康	1				1 (15)		
		スポーツの科学	1				1 (15)		
		スポーツ科学実習		1			1 (30)		
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観 ※	1				1 (15)	
			病と文化 ※	1				1 (15)	
			人類の疾病と医療 ※	1				1 (15)	
			心と医療	1				1 (15)	
			法と医療	1				1 (15)	
			経済と医療 ※	1				1 (15)	
			医療・福祉と財政	1				1 (15)	
			社会病理と人の病	1				1 (15)	
		コミュニケーション	英語Ⅰ	1				1 (30)	
			英語Ⅱ	1				1 (30)	
	言葉とコミュニケーション	医療英語の基礎A		1			1 (30)		
		医療英語の基礎B		1			1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1				1 (30)		
		英語コミュニケーションB	1				1 (30)		
		中国語Ⅰ	1				1 (30)		
		中国語Ⅱ	1				1 (30)		
	科学的思考の基盤	自然科学への誘い(ない)	数学の世界	1				1 (15)	
			物理学の世界	1				1 (15)	
			化学の世界	1				1 (15)	
生物学の世界			1				1 (15)		
統計学の初歩			1				1 (15)		
環境科学			1				1 (15)		
地球科学・宇宙科学			1				1 (15)		
科学史・科学哲学		1				1 (15)			
※1 情報リテラシー	2				2 (30)				
基礎分野計			44	5	1	1	11 (255)	40 (765)	

医療福祉学科 医療福祉学専攻

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考	
			1	2	3	4	必修	選択		
専門基礎分野	医療	医学概論	2				2 (30)		専門基礎分野の 選択科目から 12単位以上を 修得すること	
		認知症の理解と援助		2			2 (30)			
		小児と医療			2			2 (30)		
		精神医学と精神医療Ⅰ		2			2 (30)			
		精神医学と精神医療Ⅱ		2			2 (30)			
		看護学			2		2 (30)			
	保健	保健医療と福祉			2		2 (30)			
		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ		2			2 (30)			
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		2			2 (30)			
	福祉	医療福祉の基礎	2				2 (30)			
		医療ソーシャルワーク論			2		2 (30)			
		社会学と社会システムⅠ	2				2 (30)			
		社会学と社会システムⅡ		2			2 (30)			
		ソーシャルワーク法学		2			2 (30)			
		社会福祉概論Ⅰ	2				2 (30)			
		社会福祉概論Ⅱ(社会福祉史)	2				2 (30)			
		家族援助論			2		2 (30)			
		ソーシャルワークの基盤と専門職		2			2 (30)			
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		2			2 (30)			
		精神保健福祉の原理Ⅰ			2		2 (30)			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				2 (30)			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2			2 (30)			
		貧困に対する支援		2			2 (30)			
	高齢者福祉Ⅰ		2			2 (30)				
	障害者福祉Ⅰ		2			2 (30)				
	児童・家庭福祉Ⅰ		2			2 (30)				
	心理	心理学と心理的支援	2				2 (30)			
		発達心理学	2				2 (30)			
		臨床心理学概論	2				2 (30)			
		学習・言語心理学		2			2 (30)			
	専門基礎分野計		18	30	12	0	28 (420)	32 (480)		
	専門分野	医療福祉	社会福祉の原理と政策Ⅰ		2			2 (30)		専門分野の 選択科目から 45単位以上を 修得すること
			社会福祉の原理と政策Ⅱ			2		2 (30)		
高齢者福祉Ⅱ				2			2 (30)			
障害者福祉Ⅱ					2		2 (30)			
児童・家庭福祉Ⅱ					2		2 (30)			
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ				2			2 (30)			
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ				2			2 (30)			
社会福祉調査の基礎					2		2 (30)			
福祉行財政と福祉計画				2			2 (30)			
福祉サービスの組織と経営						2	2 (30)			
社会保障Ⅰ				2			2 (30)			
社会保障Ⅱ				2			2 (30)			
就労支援サービス				2			2 (30)			
権利擁護を支える法制度					2		2 (30)			
刑事司法と福祉				2	2 (30)					

医療福祉学科 医療福祉学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
専門分野	医療福祉	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		2				2 (30)	専門分野の 選択科目から 45単位以上を 修得すること
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ			2			2 (30)	
		ソーシャルワーク演習		1				1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ		1				1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		1				1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		1				1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ		2				2 (60)	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ			6			6 (180)	
		医療ソーシャルワーク実習指導			1			1 (30)	
	医療ソーシャルワーク実習				2		2 (60)		
	精神保健福祉	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅰ			2			2 (30)	
		ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅱ			2			2 (30)	
		精神保健福祉制度論			2			2 (30)	
		精神障害リハビリテーション論			2			2 (30)	
		精神保健福祉の原理Ⅱ			2			2 (30)	
		ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅱ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅲ				1		1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅰ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅱ			1			1 (30)	
		ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅲ				1		1 (30)	
		ソーシャルワーク実習(精神)			5			5 (150)	
		専門分野	臨床心理	知覚・認知心理学		2			
福祉心理学						2			2 (30)
心理学統計法	2							2 (30)	
心理的アセスメント					2			2 (30)	
障害者・障害児心理学				2				2 (30)	
社会・集団・家族心理学Ⅰ	2							2 (30)	
社会・集団・家族心理学Ⅱ						2		2 (30)	
司法・犯罪心理学						2		2 (30)	
心理学的支援法				2				2 (30)	
総合	医療福祉演習Ⅰ				1		1 (30)		
	医療福祉演習Ⅱ				1		1 (30)		
	医療福祉演習Ⅲ					1	1 (30)		
	医療福祉演習Ⅳ					1	1 (30)		
	社会福祉特講Ⅰ				1			1 (30)	
	社会福祉特講Ⅱ				1			1 (30)	
	社会福祉特講Ⅲ					1		1 (30)	
	社会福祉特講Ⅳ					1		1 (30)	
	精神保健福祉特講Ⅰ				1			1 (30)	
	精神保健福祉特講Ⅱ				1			1 (30)	
	精神保健福祉特講Ⅲ					1		1 (30)	
	精神保健福祉特講Ⅳ					1		1 (30)	
	卒業研究					4	4 (180)		
	専門分野計		4	30	53	22	18 (450)	91 (1950)	
	合計		66	65	66	23	57 (1125)	163 (3195)	

※1 自然科学の基礎

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
11	12	28	12	18	45	57	69	126以上

<参考>

社会福祉士国家試験受験資格に係る社会福祉に関する科目を定める省令と履修科目との対比表

社会福祉士及び介護福祉士法 第7条第1号に定める大学に関する規定の指定基準と本学履修科目との対比について

指定科目	時間数	左に対応して開設されている科目	単位	時間数
医学概論	30	医学概論	2	30
心理学と心理的支援	30	心理学と心理的支援	2	30
社会学と社会システム	30	社会学と社会システムⅠ	2	30
		社会学と社会システムⅡ	2	30
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	30
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	30
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査の基礎	2	30
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	30
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	30	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2	30
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	30
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	30
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2	30
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	2	30
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	30
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	30
福祉サービスの組織と経営	30	福祉サービスの組織と経営	2	30
社会保障	60	社会保障Ⅰ	2	30
		社会保障Ⅱ	2	30
高齢者福祉	30	高齢者福祉Ⅰ	2	30
		高齢者福祉Ⅱ	2	30
障害者福祉	30	障害者福祉Ⅰ	2	30
		障害者福祉Ⅱ	2	30
児童・家庭福祉	30	児童・家庭福祉Ⅰ	2	30
		児童・家庭福祉Ⅱ	2	30
貧困に対する支援	30	貧困に対する支援	2	30
保健医療と福祉	30	保健医療と福祉	2	30
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	2	30
刑事司法と福祉	30	刑事司法と福祉	2	30
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習	1	30
ソーシャルワーク演習(専門)	120	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1	30
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	1	30
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	1	30
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	1	30
ソーシャルワーク実習指導	90	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	30
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	30
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	30
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	30
ソーシャルワーク実習	240	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	60
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	6	180

<参考>

精神保健福祉士国家試験受験資格に係る精神保健福祉士法の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目と本学履修科目との対比表

精神保健福祉士法第7条第1号の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目と本学履修科目との対比について

指定科目	時間数	左に対応して開設されている科目	単位	時間数
医学概論	30	医学概論	2	30
心理学と心理的支援	30	心理学と心理的支援	2	30
社会学と社会システム	30	社会学と社会システムⅠ	2	30
		社会学と社会システムⅡ	2	30
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	30
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	30
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	30
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	30
社会保障	60	社会保障Ⅰ	2	30
		社会保障Ⅱ	2	30
障害者福祉	30	障害者福祉Ⅰ	2	30
		障害者福祉Ⅱ	2	30
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	2	30
刑事司法と福祉	30	刑事司法と福祉	2	30
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査の基礎	2	30
精神医学と精神医療	60	精神医学と精神医療Ⅰ	2	30
		精神医学と精神医療Ⅱ	2	30
現代の精神保健の課題と支援	60	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2	30
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	30
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	30
精神保健福祉の原理	60	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	30
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2	30
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	30
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	30
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅰ	2	30
		ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅱ	2	30
精神障害リハビリテーション論	30	精神障害リハビリテーション論	2	30
精神保健福祉制度論	30	精神保健福祉制度論	2	30
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習	1	30
ソーシャルワーク演習(専門)	90	ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅰ	1	30
		ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅱ	1	30
		ソーシャルワーク演習(精神専門)Ⅲ	1	30
ソーシャルワーク実習指導	90	ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅰ	1	30
		ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅱ	1	30
		ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅲ	1	30
ソーシャルワーク実習	210	ソーシャルワーク実習(精神)	5	150
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	60

医療福祉学科 臨床心理学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
基礎分野	医療人の基礎知識	いのちの倫理学	1				1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること
		医療の倫理学	1				1 (15)	
		医学の基礎入門	1				1 (15)	
		臨床医学への招待	1				1 (15)	
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)	
		人々の生活と医療	1				1 (15)	
	医療人の技能と資質	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)	
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)	
	多職種連携教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)	
		事例で学ぶ多職種連携			1		1 (30)	
		実践で学ぶ多職種連携				1	1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1				1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1			1 (30)	
	医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	1				1 (15)	
		食と健康	1				1 (15)	
		医療における安全と安心	1				1 (15)	
		東洋医学と統合医療	1				1 (15)	
		現代医療と看護・介護	1				1 (15)	
		薬の役割・薬のできるまで	1				1 (15)	
		情報時代と医療	1				1 (15)	
		医療とコミュニケーション	1				1 (15)	
	科学健康	スポーツと健康	1				1 (15)	
		スポーツの科学	1				1 (15)	
		スポーツ科学実習		1			1 (30)	
	人間と文化と社会	哲学と死生観	1				1 (15)	
		病と文化	1				1 (15)	
		人類の疾病と医療	1				1 (15)	
		心と医療	1				1 (15)	
		法と医療	1				1 (15)	
		経済と医療	1				1 (15)	
		医療・福祉と財政	1				1 (15)	
		社会病理と人の病	1				1 (15)	
言葉とコミュニケーション	英語Ⅰ	1				1 (30)		
	英語Ⅱ	1				1 (30)		
	医療英語の基礎A		1			1 (30)		
	医療英語の基礎B		1			1 (30)		
	英語コミュニケーションA	1				1 (30)		
	英語コミュニケーションB	1				1 (30)		
	中国語Ⅰ	1				1 (30)		
科学的思考の基盤	中国語Ⅱ	1				1 (30)		
	数学の世界	1				1 (15)		
	物理学の世界	1				1 (15)		
	化学の世界	1				1 (15)		
	生物学の世界	1				1 (15)		
	統計学の初歩	1				1 (15)		
	環境科学	1				1 (15)		
	地球科学・宇宙科学	1				1 (15)		
*1 情報リテラシー	2				2 (30)			
基礎分野計		44	5	1	1	11 (255)	40 (765)	

医療福祉学科 臨床心理学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備 考	
		1	2	3	4	必修	選択		
専門基礎分野	臨床心理	臨床心理学の基礎	2				2 (30)		
		心理学概論※	2				2 (30)		
		臨床心理学概論※	2				2 (30)		
		発達心理学Ⅰ※	2				2 (30)		
		発達心理学Ⅱ※	2				2 (30)		
		心理学統計法※	2				2 (30)		
		社会・集団・家族心理学Ⅰ※	2				2 (30)		
		社会・集団・家族心理学Ⅱ※				2	2 (30)		
		心理学実験※		2			2 (60)		
		公認心理師の職責※		2			2 (30)		
		コミュニケーションの基礎	2				2 (30)		
		知覚・認知心理学※		2			2 (30)		
		学習・言語心理学※		2			2 (30)		
		神経・生理心理学※		2			2 (30)		
		感情・人格心理学Ⅰ※		2			2 (30)		
		感情・人格心理学Ⅱ※		2			2 (30)		
	心理学研究法※			2		2 (30)			
	医療福祉	社会福祉概論Ⅰ	2				2 (30)		
		社会福祉概論Ⅱ(社会福祉史)	2					2 (30)	
		人体の構造と機能及び疾病※	2				2 (30)		
		認知症の理解と援助			2			2 (30)	
		小児と医療			2			2 (30)	
		保健医療と福祉			2			2 (30)	
		ソーシャルワークの基盤と専門職		2				2 (30)	
		精神疾患とその治療Ⅰ※			2		2 (30)		
		精神疾患とその治療Ⅱ※			2		2 (30)		
		看護学			2			2 (30)	
		貧困に対する支援		2				2 (30)	
		高齢者福祉		2				2 (30)	
		障害者福祉		2				2 (30)	
		家族援助論			2			2 (30)	
		専門基礎分野計	22	22	16	2	42 (660)	20 (300)	
		専門分野	臨床心理	健康・医療心理学※			2		2 (30)
障害者・障害児心理学					2			2 (30)	
心理学的支援法※				2			2 (30)		
深層心理学				2				2 (30)	
心理的アセスメントⅠ※				2			2 (30)		
心理的アセスメントⅡ※					2		2 (60)		
心理療法Ⅰ					2		2 (30)		
心理療法Ⅱ					2			2 (30)	
心理療法演習					2		2 (60)		
教育・学校心理学※				2			2 (30)		
福祉心理学※					2		2 (30)		
司法・犯罪心理学※					2		2 (30)		
産業・組織心理学※						2	2 (30)		
心理実習Ⅰ※				1			1 (30)		
心理実習Ⅱ※					1			1 (30)	
心理実習Ⅲ※						1		1 (30)	

専門基礎分野の
選択科目から
16単位以上を
修得すること

専門分野の
選択科目から
6単位以上を
修得すること

医療福祉学科 臨床心理学専攻

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
専門分野	医療福祉	関係行政論Ⅰ(社会保障)※		2			2 (30)	専門分野の 選択科目から 6単位以上を 修得すること	
		関係行政論Ⅱ(児童・家庭福祉制度)※		2			2 (30)		
		権利擁護を支える法制度			2				2 (30)
		関係行政論Ⅲ(教育原理)※		2			2 (30)		
		関係行政論Ⅳ(更生保護制度)※				2	2 (30)		
	就労支援サービス		2				2 (30)		
	総合	心理演習Ⅰ※			1		1 (30)		
		心理演習Ⅱ※			1		1 (30)		
		卒業研究				6	6 (270)		
専門分野計		0	19	19	11	39 (630)	10 (120)		
合計		66	46	36	14	92 (1545)	70 (1185)		

*1 自然科学の基礎

※公認心理師養成科目

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
11	12	42	16	39	6	92	34	126以上

<参考>

公認心理師国家試験受験資格を得るために必要な科目と本学履修科目との対比表

公認心理師法 第7条第1号及び第2号に定める大学に関する規定の指定基準と本学履修科目との対比について

指定科目	左に対応して開設されている科目	単位	時間数
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	30
心理学概論	心理学概論	2	30
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	30
心理学研究法	心理学研究法	2	30
心理学統計法	心理学統計法	2	30
心理学実験	心理学実験	2	60
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	30
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	30
感情・人格心理学	感情・人格心理学Ⅰ	2	30
	感情・人格心理学Ⅱ	2	30
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	30
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	30
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	30
発達心理学	発達心理学Ⅰ	2	30
	発達心理学Ⅱ	2	30
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	30
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	2	30
	心理的アセスメントⅡ	2	60
心理学的支援法	心理学的支援法	2	30
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	30
福祉心理学	福祉心理学	2	30
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	30
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	30
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	30
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	30
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療Ⅰ	2	30
	精神疾患とその治療Ⅱ	2	30
関係行政論	関係行政論Ⅰ(社会保障)	2	30
	関係行政論Ⅱ(児童・家庭福祉制度)	2	30
	関係行政論Ⅲ(教育原理)	2	30
	関係行政論Ⅳ(更生保護制度)	2	30
心理演習	心理演習Ⅰ	1	30
	心理演習Ⅱ	1	30
心理実習(80時間以上)	心理実習Ⅰ	1	30
	心理実習Ⅱ	1	30
	心理実習Ⅲ	1	30

〈参考〉

認定心理士単位認定基準(2018年度入学生 臨床心理学専攻)

この単位認定基準は、2014年度改訂版日本心理学会認定心理士資格細則別表に準拠

【2018年度以降入学生用カリキュラム】資格取得に必要な科目および単位と本学履修科目との対比について

指定領域	単位	左に対応して開設されている科目	単位	時間数	修得条件	
① 基礎科目	a 心理学概論(基本主題)	心理学概論	2	30	4単位以上修得すること (基本主題を 2単位以上含むこと)	
		a 心理学概論(副次主題)	臨床心理学の基礎	1(※)		30
			臨床心理学概論	1(※)		30
			感情・人格心理学Ⅱ	1(※)		30
	b 心理学研究法(基本主題)	4	心理学研究法	2	30	8単位以上修得すること (最低4単位分は c心理学実験・実習の 単位であること)
			心理学統計法	2	30	
	c 心理学実験・実習(基本主題)	4	心理学実験	2	60	
			心理的アセスメントⅡ	2	60	
			心理療法演習	1(※)	60	
			心理実習Ⅰ	0.5(※)	30	
			心理実習Ⅱ	0.5(※)	30	
			心理実習Ⅲ	0.5(※)	30	
心理演習Ⅰ			0.5(※)	30		
心理演習Ⅱ			0.5(※)	30		
上記3領域の合計12単位以上						
② 選択科目	d 知覚心理学・学習心理学(基本主題)	4	知覚・認知心理学	2	30	
			学習・言語心理学	2	30	
			感情・人格心理学Ⅰ	2	30	
	e 生理心理学・比較心理学(基本主題)	4	神経・生理心理学	2	30	4単位以上修得すること
	f 教育心理学・発達心理学(基本主題)	4	発達心理学Ⅰ*	2	30	
			発達心理学Ⅱ	2	30	
			教育・学校心理学	2	30	
	g 臨床心理学・人格心理学(基本主題)	4	障害者・障害児心理学	2	30	4単位以上修得すること (基本主題を 2単位以上含むこと)
			心理的アセスメントⅠ	2	30	
			心理学的支援法	2	30	
			健康・医療心理学	2	30	
			福祉心理学	2	30	
	g 臨床心理学・人格心理学(副次主題)	4	精神疾患とその治療Ⅰ	1(※)	30	
			精神疾患とその治療Ⅱ	1(※)	30	
	h 社会心理学・産業心理学(基本主題)	4	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	30	4単位以上修得すること
			社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	30	
司法・犯罪心理学(or g基**)			2	30		
産業・組織心理学			2	30		
上記3領域の12単位以上(必ず基本主題を含むこと)、5領域で合計16単位以上						
③ i 心理学関連科目、卒業研究		卒業研究	6	270		
(①と②の合計単位数が36単位以上の場合は、③は不要)						
修得条件及び卒業研究を含め、上記科目より 総計36単位以上 修得すること。						
※副次主題は原則として修得単位数の2分の1が認定の対象となる						

*各講義の概論講義に相当する科目をa領域の副次科目で申請可能。ただし最終的な判断は科目内容で行う。

**本人の申請によりg基本主題で申請可能。ただし最終的な判断は科目内容で行う。

本表は日本心理学会作成「公認心理師省令科目の認定心理士科目各領域への対応(案)」を元に作成した。

鍼灸サイエンス学科

授業科目の名称			開講年次				単位数(時間数)		備考		
			1	2	3	4	必修	選択			
基礎分野	医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること	
			医療の倫理学	1					1 (15)		
			医学の基礎入門	1				1 (15)			
			臨床医学への招待	1					1 (15)		
			医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)			
		人々の生活と医療	1					1 (15)			
		技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)			選択科目から6単位以上を修得すること
			医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)			
			医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)			
		多職種連携の教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)			
	事例で学ぶ多職種連携				1			1 (30)			
	実践で学ぶ多職種連携					1		1 (30)			
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)		1					1 (30)			
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)			1				1 (30)			
	医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	1					1 (15)			
		食と健康	1					1 (15)			
		医療における安全と安心	1					1 (15)			
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)			
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)			
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)			
		情報時代と医療	1					1 (15)			
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)			
	健康科学	スポーツと健康	1				1 (15)				
		スポーツの科学	1				1 (15)				
		スポーツ科学実習		1				1 (30)			
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1					1 (15)		
			病と文化	1					1 (15)		
			人類の疾病と医療	1					1 (15)		
			心と医療	1					1 (15)		
			法と医療	1					1 (15)		
			経済と医療	1					1 (15)		
			医療・福祉と財政	1					1 (15)		
			社会病理と人の病	1					1 (15)		
		コミュニケーションと言葉	英語Ⅰ	1				1 (30)		選択科目から2単位以上を修得すること	
			英語Ⅱ	1				1 (30)			
			医療英語の基礎A		1				1 (30)		
			医療英語の基礎B		1				1 (30)		
			英語コミュニケーションA	1					1 (30)		
			英語コミュニケーションB	1					1 (30)		
			中国語Ⅰ	1					1 (30)		
科学的思考の基盤	自然科学への誘	数学の世界	1					1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること		
		物理学の世界	1					1 (15)			
		化学の世界	1					1 (15)			
		生物学の世界	1					1 (15)			
		統計学の初歩	1					1 (15)			
		環境科学	1					1 (15)			
		地球科学・宇宙科学	1					1 (15)			
	科学史・科学哲学	1					1 (15)				
※1	情報リテラシー	2				2 (30)					
基礎分野計			44	5	1	1	13 (285)	38 (735)			

鍼灸サイエンス学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学基礎	2				2 (30)	
		解剖生理学Ⅰ	2				2 (30)	
		解剖生理学Ⅱ		2			2 (30)	
		解剖生理学Ⅲ		2			2 (30)	
		解剖生理学Ⅳ		2			2 (30)	
		解剖生理学Ⅴ		2			2 (30)	
		解剖生理学Ⅵ		2			2 (30)	
	疾病の成り立ちと予防及び回復の促進	病理学		2			2 (30)	
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ	2				2 (30)	
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	2				2 (30)	
		内科学Ⅰ			2		2 (30)	
		内科学Ⅱ			2		2 (30)	
		内科学Ⅲ			2		2 (30)	
		内科学Ⅳ				2	2 (30)	
		臨床感染・免疫学				1	1 (15)	
		整形外科概論			2		2 (30)	
		整形外科各論			2		2 (30)	
	リハビリテーション医学			2		2 (30)		
	※2	鍼灸への誘い	2				2 (60)	
		医事法学			1		1 (15)	
専門基礎分野計		10	12	13	3	38 (600)	0 (0)	
専門分野	基礎はり学・基礎きゆう学	東洋医学基礎理論Ⅰ	2				2 (30)	
		東洋医学基礎理論Ⅱ	2				2 (30)	
		鍼灸基礎理論Ⅰ			2		2 (30)	
		鍼灸基礎理論Ⅱ			2		2 (30)	
	臨床はり学・臨床きゆう学	スポーツ鍼灸学☆1		2			2 (30)	
		健康・美容鍼灸学		2			2 (30)	
		外科系鍼灸治療学Ⅰ			2		2 (30)	
		外科系鍼灸治療学Ⅱ			2		2 (30)	
		外科系鍼灸治療学Ⅲ			2		2 (30)	
		内科系鍼灸治療学Ⅰ			2		2 (30)	
		内科系鍼灸治療学Ⅱ			2		2 (30)	
		内科系鍼灸治療学Ⅲ			2		2 (30)	
	※3	鍼灸症候鑑別診断学		2			2 (30)	
	社会鍼灸学		2			2 (30)		

鍼灸サイエンス学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
実習	鍼灸技術学入門	2				2 (60)		
	鍼灸基礎技術学Ⅰ		2			2 (60)		
	鍼灸基礎技術学Ⅱ		2			2 (60)		
	鍼灸臨床技術学Ⅰ			2		2 (60)		
	鍼灸臨床技術学Ⅱ				1	1 (30)		
	東洋医学診察診断法			1		1 (30)		
	臨床生理学実習			1		1 (30)		
	取穴実習Ⅰ		2			2 (60)		
	取穴実習Ⅱ		2			2 (60)		
	臨床実習Ⅰ		1			1 (45)		
	臨床実習Ⅱ			1		1 (45)		
	臨床実習Ⅲ				2	2 (90)		
	専門分野	医療福祉概論		2				2 (30)
生化学			2				2 (30)	
基礎栄養学			1				1 (15)	
臨床栄養学			1				1 (15)	
食品学			1				1 (15)	
薬膳学				2			2 (30)	
生薬学				2			2 (30)	
薬理学				2			2 (30)	
物理療法学				2			2 (30)	
医学英語				2			2 (30)	
触察法			2				2 (30)	
鍼灸古典文献学				1			1 (15)	
総合鍼灸学Ⅰ				1			1 (30)	
総合鍼灸学Ⅱ				1			1 (30)	
総合鍼灸学Ⅲ					3		3 (90)	
総合鍼灸学Ⅳ					3		3 (90)	
鍼灸総合研究Ⅰ			2				2 (60)	
鍼灸総合研究Ⅱ				3			3 (90)	
鍼灸総合研究Ⅲ					2		2 (60)	
フィットネス・スポーツ特論Ⅰ ☆1		2					2 (30)	
フィットネス・スポーツ特論Ⅱ ☆1		2					2 (30)	
フィットネス・スポーツ特論Ⅲ ☆1			2				2 (30)	
フィットネス・スポーツ特論Ⅳ ☆1				2			2 (30)	
フィットネス・スポーツ特論Ⅴ ☆1				1		1 (15)		
東洋医学・鍼灸学特論Ⅰ ☆2	2					2 (30)		
東洋医学・鍼灸学特論Ⅱ ☆2	2					2 (30)		
東洋医学・鍼灸学特論Ⅲ ☆2		2				2 (30)		
専門分野計	14	32	40	11	65 (1545)	32 (480)		
合計	68	49	54	15	116 (2430)	70 (1215)		

選択科目から6単位以上を修得すること

- ☆1 スポーツトレーナーの受験資格を得るための科目
鍼灸・スポーツトレーナー学専攻は必ず履修し単位を修得すること。
- ☆2 鍼灸学専攻は必ず履修し単位を修得すること。
- ※1 自然科学の基礎
- ※2 保健医療福祉とはり及びきゆうの理念
- ※3 社会はり学・きゆう学

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	必修	選択	必修	選択	
13	12	38	65	6	116	18	134以上

救急救命学科

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考	
			1	2	3	4	必修	選択		
基礎分野	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること	
		医療の倫理学	1					1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)			
		臨床医学への招待	1					1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)			
		人々の生活と医療	1					1 (15)		
	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)		選択科目から6単位以上を修得すること	
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)			
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)			
	多職種連携の医療人の	多職種連携の基礎		1			1 (30)			
		事例で学ぶ多職種連携			1			1 (30)		
		実践で学ぶ多職種連携				1		1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1					1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)		
	医療人底力教育の医療人の	医学医療最近の進歩	1					1 (15)		
		食と健康	1					1 (15)		
		医療における安全と安心	1				1 (15)			
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)		
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)		
		情報時代と医療	1					1 (15)		
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
	科学健康の医療人の	スポーツと健康	1				1 (15)			
		スポーツの科学	1				1 (15)			
		スポーツ科学実習	1				1 (30)			
	人間と生活の医療人の	哲学と死生観	1					1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること
		病と文化	1					1 (15)		
		人類の疾病と医療	1					1 (15)		
		心と医療	1					1 (15)		
		法と医療	1					1 (15)		
		経済と医療	1					1 (15)		
		医療・福祉と財政	1					1 (15)		
		社会病理と人の病	1					1 (15)		
英語Ⅰ		1				1 (30)				
英語Ⅱ		1				1 (30)				
医療英語の基礎A			1				1 (30)			
医療英語の基礎B				1			1 (30)			
英語コミュニケーションA		1					1 (30)			
英語コミュニケーションB		1					1 (30)			
中国語Ⅰ	1					1 (30)				
中国語Ⅱ	1					1 (30)				
科学的思考の基盤(自然科学への誘い)	数学の世界	1					1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること		
	物理学の世界	1					1 (15)			
	化学の世界	1					1 (15)			
	生物学の世界	1					1 (15)			
	統計学の初歩	1					1 (15)			
	環境科学	1					1 (15)			
	地球科学・宇宙科学	1					1 (15)			
	科学史・科学哲学	1					1 (15)			
	情報リテラシー	1				1 (30)				
基礎分野計			44	4	1	1	14 (330)	36 (690)		

救急救命学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	専門基礎科目	解剖学	2				2 (30)	
		生理学	2				2 (30)	
		公衆衛生学				2	2 (30)	
		生化学	2				2 (30)	
		微生物学	2				2 (30)	
		薬理学		2			2 (30)	
		病理学		2			2 (30)	
		内科学		2			2 (30)	
		外科学		2			2 (30)	
		整形外科学		2			2 (30)	
		脳外科学			2		2 (30)	
		放射線医学				2	2 (30)	
		医療・福祉データサイエンス				1	1 (30)	
専門基礎分野計		8	10	2	5	25 (390)	0 (0)	
専門分野	救急救命処 医学	病院前救急医療学概論	2				2 (30)	
		救急救命処置学概論Ⅰ		2			2 (30)	
		救急救命処置学概論Ⅱ		2			2 (30)	
	疾病救急 医学	疾病救急医学Ⅰ		2			2 (30)	
		疾病救急医学Ⅱ		2			2 (30)	
		疾病救急医学Ⅲ			2		2 (30)	
	救急症 候学	救急症候学Ⅰ			2		2 (30)	
		救急症候学Ⅱ			2		2 (30)	
	臨床救急 医学	外傷救急医学		2			2 (30)	
		救急病態生理学			2		2 (30)	
		小児科学			2		2 (30)	
		産婦人科学			2		2 (30)	
		精神医学			2		2 (30)	
	災害 医学	急性中毒学・環境障害学			2		2 (30)	
		災害医療論	1				2 (30)	
		災害危機管理学				2	2 (30)	
	救急 社会学	救急倫理学			2		2 (30)	
		スピリチュアル・ケア概論				2	2 (30)	
		救急救命コミュニケーション論		2			2 (30)	
	看 護 学	理論救急救命学			2		2 (30)	
		救急看護学概論				2	2 (30)	
		救急救命家族支援論		2			2 (30)	
	支 援 学	遺族看護学			2		2 (30)	
救急健康生活支援技術論			2			2 (30)		
救急 生命 学	救急健康生活支援技術論演習		1			1 (30)		
	特別総合演習Ⅰ				1	1 (30)		
	特別総合演習Ⅱ				1	1 (30)		
	救急活動事例演習				1	1 (30)		
	課題解決演習				1	1 (30)		
専門 分野	臨床 実習	健康安全実習	2				2 (90)	
		応急処置実習		3			3 (135)	
		特定行為実習		4			4 (180)	
		救急救命処置実習		4			4 (180)	
		救急用自動車同乗実習			6		6 (270)	
		臨床実習			6		6 (270)	
専門分野計		5	28	34	10	78 (1995)	0 (0)	
合 計		57	42	37	16	117 (2715)	36 (690)	

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	合 計		総合計
必修	選択	必修	必修	必修	選択	
14	12	25	78	117	12	129以上

自由科目(卒業要件外科目)

授業科目の名称	開講年次				単位数	時間数	備考
	1	2	3	4			
論理的思考演習			2			2(60)	
数的思考演習			2			2(60)	

※自由科目は卒業単位として認定されない。

臨床工学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
基礎分野	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること	
		医療の倫理学	1				1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)		
		臨床医学への招待	1				1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)		
		人々の生活と医療	1				1 (15)		
	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること	
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)		
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)		
	多職種連携教育の	多職種連携の基礎		1			1 (30)		
		事例で学ぶ多職種連携			1		1 (30)		
		実践で学ぶ多職種連携				1	1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1				1 (30)		
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)			1			1 (30)		
		医学医療最近の進歩	1				1 (15)		
	医療人の常識と教養の	食と健康	1				1 (15)		
		医療における安全と安心	1				1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1				1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1				1 (15)		
		薬の役割・薬のできるまで	1				1 (15)		
		情報時代と医療	1				1 (15)		
	健康科学の	医療とコミュニケーション	1				1 (15)		
		スポーツと健康	1				1 (15)		
		スポーツの科学	1				1 (15)		
	人間と生活	スポーツ科学実習	1				1 (30)		
		人間と文化と社会の	哲学と死生観	1					1 (15)
			病と文化	1					1 (15)
			人類の疾病と医療	1					1 (15)
			心と医療	1					1 (15)
			法と医療	1					1 (15)
			経済と医療	1					1 (15)
			医療・福祉と財政	1					1 (15)
		社会病理と人の病	1				1 (15)		
言葉とコミュニケーションの		英語Ⅰ	1				1 (30)		
	英語Ⅱ	1				1 (30)			
	英語コミュニケーションA	1				1 (30)			
	英語コミュニケーションB	1				1 (30)			
科学的思考の基礎	数学Ⅰ	2				2 (30)			
	数学Ⅱ	2				2 (30)			
	生物学Ⅰ	2				2 (30)			
	生物学Ⅱ	2				2 (30)			
	情報リテラシー	2				2 (30)			
基礎分野計		43	2	1	1	18 (405)	29 (495)		

臨床工学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	人体の構造及び機能	解剖学Ⅰ	2				2 (30)	
		解剖学Ⅱ	2				2 (30)	
		生理学Ⅰ	2				2 (30)	
		生理学Ⅱ	2				2 (30)	
		生化学		2			2 (30)	
		基礎医学実習		1			1 (45)	
	臨床工学に必要 な医学的基礎	臨床工学と医学概論		1			1 (15)	
		臨床工学と公衆衛生学		1			1 (15)	
		病理学		2			2 (30)	
		感染免疫学			2		2 (30)	
		実用薬学			2		2 (30)	
		医学英語Ⅰ	1				1 (30)	
	医学英語Ⅱ	1				1 (30)		
	臨床工学に必要 な理工学的基礎	医用物理学Ⅰ	2				2 (30)	
		医用物理学Ⅱ	2				2 (30)	
		医用化学Ⅰ	2				2 (30)	
		医用化学Ⅱ	2				2 (30)	
		電気工学Ⅰ	2				2 (30)	
		電気工学Ⅱ		2			2 (30)	
		電気工学Ⅲ		2			2 (30)	
		電気工学演習Ⅰ	1				1 (30)	
		電気工学演習Ⅱ		1			1 (30)	
		電気工学演習Ⅲ		1			1 (30)	
		電気工学実験		1			1 (45)	
		電子工学Ⅰ		2			2 (30)	
		電子工学Ⅱ			2		2 (30)	
		電子工学演習		1			1 (30)	
		電子工学実験			1		1 (45)	
		機械工学			2		2 (30)	
	物性工学			2		2 (30)		
	臨床工学に必要 なシステム工学の基礎	応用数学	2				2 (30)	
		応用数学演習		1			1 (30)	
		情報処理工学		2			2 (30)	
情報処理工学演習			1			1 (30)		
統計学基礎			2			2 (30)		
システム工学				2		2 (30)		
専門基礎分野計		23	23	13	0	59 (1095)		
専門分野	医用生体工学	臨床工学概論	2				2 (30)	
		臨床工学演習		1			1 (30)	
		医用材料工学			2		2 (30)	
		画像診断学			2		2 (30)	
		画像診断学実習			1			1 (45)
		臨床工学特別講義Ⅰ			2		2 (30)	
		臨床工学特別講義Ⅱ			2		2 (30)	
		臨床工学特別講義Ⅲ			2		2 (30)	
		臨床工学特別講義Ⅳ			2		2 (30)	
		臨床工学特別講義Ⅴ			2		2 (30)	
		臨床工学特別演習Ⅰ				1	1 (30)	
		臨床工学特別演習Ⅱ				1	1 (30)	
		臨床工学特別演習Ⅲ				1	1 (30)	
		臨床工学特別演習Ⅳ				1	1 (30)	
		臨床工学特別演習Ⅴ				1	1 (30)	

臨床工学科

授業科目の名称			開講年次				単位数(時間数)		備考
			1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	医用機器学	生体計測装置学		2			2	(30)	
		生体計測装置学演習		1			1	(30)	
		生体計測装置学実習		1			1	(45)	
		医用治療機器学Ⅰ			2		2	(30)	
		医用治療機器学Ⅱ			2		2	(30)	
		医用治療機器学演習			1		1	(30)	
		医用治療機器学実習			1		1	(45)	
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ		2			2	(30)	
		生体機能代行装置学Ⅱ		2			2	(30)	
		生体機能代行装置学Ⅲ			2		2	(30)	
		生体機能代行装置学演習Ⅰ		1			1	(30)	
		生体機能代行装置学演習Ⅱ			1		1	(30)	
		生体機能代行装置学演習Ⅲ			1		1	(30)	
		生体機能代行装置学演習Ⅳ				1	1	(30)	
		生体機能代行装置学実習Ⅰ			1		1	(45)	
		生体機能代行装置学実習Ⅱ			1		1	(45)	
		生体機能代行装置学実習Ⅲ				1	1	(45)	
	医学管理安	医用機器安全管理学Ⅰ		2			2	(30)	
		医用機器安全管理学Ⅱ			2		2	(30)	
		医用機器安全管理学実習			1		1	(45)	
	関連臨床医学	臨床循環器	2				2	(30)	
		臨床工学と循環器		2			2	(30)	
		臨床呼吸器・腎泌尿器		2			2	(30)	
		臨床消化器・神経内科			2		2	(30)	
		看護学		2			2	(30)	
	臨床実習	臨床実習				4	4	(180)	
	卒業研究					4	4	(180)	
専門分野計			4	18	32	15	53 (1320)	16 (345)	
合計			70	43	46	16	130 (2820)	45 (840)	

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	合計		総合計
必修	選択	必修	必修	必修	選択	
18	8	59	53	130	8	138以上

医療健康データサイエンス学科

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考		
			1	2	3	4	必修	選択			
基礎分野	医療人底力教育	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること	
			医療の倫理学	1					1 (15)		
			医学の基礎入門	1				1 (15)			
			臨床医学への招待	1					1 (15)		
			医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)			
		人々の生活と医療	1					1 (15)			
		技能と実践の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)			選択科目から6単位以上を修得すること
			医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)			
			医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)			
		多職種連携教育	多職種連携の基礎		1			1 (30)			
	事例で学ぶ多職種連携				1			1 (30)			
	実践で学ぶ多職種連携					1		1 (30)			
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)		1					1 (30)			
	慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)			1				1 (30)			
	医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	1					1 (15)			
		食と健康	1					1 (15)			
		医療における安全と安心	1					1 (15)			
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)			
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)			
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)			
		情報時代と医療	1					1 (15)			
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)			
	科学健康	スポーツと健康	1					1 (15)			
		スポーツの科学	1					1 (15)			
		スポーツ科学実習	1					1 (30)			
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1					1 (15)		
			病と文化	1					1 (15)		
			人類の疾病と医療	1					1 (15)		
			心と医療	1					1 (15)		
			法と医療	1					1 (15)		
			経済と医療	1					1 (15)		
			医療・福祉と財政	1					1 (15)		
			社会病理と人の病	1					1 (15)		
		コミュニケーション	英語Ⅰ	1					1 (30)		
			英語Ⅱ	1					1 (30)		
			医療英語の基礎A		1				1 (30)		
			医療英語の基礎B		1				1 (30)		
			英語コミュニケーションA	1					1 (30)		
			英語コミュニケーションB	1					1 (30)		
			中国語Ⅰ	1					1 (30)		
中国語Ⅱ	1					1 (30)					
科学的思考の基盤	語(自然科学への)いる(ない)の	統計学の初歩	1					1 (15)	選択科目から2単位以上を修得すること		
		環境科学	1					1 (15)			
		地球科学・宇宙科学	1					1 (15)			
		科学史・科学哲学	1					1 (15)			
	自然科学の基盤	数学Ⅰ	2					2 (30)	選択科目から6単位以上を修得すること		
		数学Ⅱ	2					2 (30)			
		物理学Ⅰ	2					2 (30)			
		物理学Ⅱ	2					2 (30)			
		化学Ⅰ	2					2 (30)			
		化学Ⅱ	2					2 (30)			
		生物学Ⅰ	2					2 (30)			
		生物学Ⅱ	2					2 (30)			
基礎分野計			55	4	1	1	12 (285)	49 (885)			

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
専門基礎分野	導入教育	情報リテラシーと情報倫理	2				2 (30)		
		コンピュータ科学基礎	2				2 (30)		
		コンピュータ科学基礎実習	1				1 (30)		
	技術的素養	ネットワークセキュリティ	2				2 (30)		
		プログラミング概論	2				2 (30)		
		プログラミング I	2				2 (30)		
		プログラミング II	2				2 (30)		
	分野の概要	医療概論 ※	2				2 (30)		
		医療情報学概論 ※	2				2 (30)		
		医療健康データサイエンス入門		2			2 (30)		
専門基礎分野計		17	2	0	0	19 (300)	0 (0)		
専門分野	情報技術の知識と技能	アルゴリズム論	2				2 (30)		
		情報学基礎		2				2 (30)	
		データベース基礎 I		2				2 (30)	
		データベース基礎 II		2				2 (30)	
		Web基礎		2				2 (30)	
		プログラミング III		2				2 (30)	
		プログラミング IV		2				2 (30)	
		プログラミング応用		2				2 (30)	
		人工知能(AI) I			2			2 (30)	
		人工知能(AI) II			2			2 (30)	
		情報処理技術セミナー I		1				1 (30)	
		情報処理技術セミナー II		1				1 (30)	
		情報処理技術セミナー III		1				1 (30)	
		情報処理技術セミナー IV		1				1 (30)	
	人工知能(AI)セミナー I			1			1 (30)		
	人工知能(AI)セミナー II			1			1 (30)		
	データ分析の知識と技能	分析入門	離散数学入門	2				2 (30)	
			統計学 I		2				2 (30)
			統計学 I 演習		1				1 (30)
			統計学 II		2				2 (30)
			統計学 II 演習		1				1 (30)
			医療統計セミナー I		1				1 (30)
		分析実践	医療統計セミナー II			1			1 (30)
			Rによる統計解析			2			2 (30)
			Rによる統計解析演習			1			1 (30)
			情報の収集と意味・演習 I			1			1 (30)
			情報の収集と意味・演習 II			1			1 (30)
			医療健康データ分析 I			2			2 (30)
			医療健康データ分析 II			2			2 (30)
			薬学とデータサイエンス			2			2 (30)
データ表現技法入門						2		2 (30)	
看護学とデータサイエンス						2		2 (30)	

専門分野の
選択科目か
ら29単位
以上修得す
ること

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門分野	医学医療と知識と技能	人体構造・機能論 ※	2				2 (30)	
		データサイエンスのための臨床医学総論 ※	2				2 (30)	
		医療制度と医療健康データ ※		2			2 (30)	
		診療データマネジメント ※		2			2 (30)	
		医療データマネジメント論Ⅰ ※		2			2 (30)	
		医療データマネジメント論Ⅱ ※		2			2 (30)	
		社会福祉概論 ※		2			2 (30)	
		医療統計 ※		2			2 (30)	
		データサイエンスのための臨床医学Ⅰ ※		2			2 (30)	
		データサイエンスのための臨床医学Ⅱ ※		2			2 (30)	
		データサイエンスのための臨床医学Ⅲ ※			2		2 (30)	
		データサイエンスのための臨床医学Ⅳ ※			2		2 (30)	
		医療経営入門 ※			2		2 (30)	
		医療管理セミナーⅠ ※		1			1 (30)	
		医療管理セミナーⅡ ※		1			1 (30)	
		診療データマネジメントセミナーⅠ		1			1 (30)	
		診療データマネジメントセミナーⅡ		1			1 (30)	
		診療データマネジメントセミナーⅢ			1		1 (30)	
	診療データマネジメントセミナーⅣ			1		1 (30)		
	医療情報工学の知識と技能	医療情報システム論Ⅰ		2			2 (30)	
		医療情報システム論Ⅱ			2		2 (30)	
		医療安全管理論			2		2 (30)	
		医療健康データベース			2		2 (30)	
		IoTと生体信号処理演習Ⅰ			1		1 (30)	
		IoTと生体信号処理演習Ⅱ			1		1 (30)	
		システム戦略入門			2		2 (30)	
		プロジェクトマネジメント入門			2		2 (30)	
		医療情報システム実習Ⅰ			1		1 (30)	
		医療情報システム実習Ⅱ			1		1 (30)	
		医療情報技師セミナーⅠ			1		1 (30)	
医療情報技師セミナーⅡ				1		1 (30)		
キャリアデザイン		1			1 (30)			
医療情報科学論				2	2 (30)			
施設実習 ※			1		1 (45)			
卒業研究Ⅰ			2		2 (60)			
卒業研究Ⅱ				4	4 (120)			
専門分野計	8	48	45	10	48 (960)	63 (1215)		
合計	80	54	46	11	79 (1545)	112 (2100)		

専門分野の
選択科目か
ら29単位
以上修得す
ること

※印は診療情報管理士認定科目

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
12	18	19	0	48	29	79	47	126以上

薬学科

授業科目の名称		開講年次						単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	5	6	必修	選択	
基礎分野	基礎医療知識の	いのちの倫理学	1					1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること
		医療の倫理学	1						1 (15)	
		医学の基礎入門	1					1 (15)		
		臨床医学への招待	1						1 (15)	
		医療・福祉の変遷と制度	1					1 (15)		
		人々の生活と医療	1						1 (15)	
	との医療資能人	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1					1 (30)		選択科目から8単位以上を修得すること
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1					1 (30)		
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1					1 (30)		
	多職種連携教育	多職種連携の基礎		1				1 (30)		
		事例で学ぶ多職種連携			1				1 (30)	
		実践で学ぶ多職種連携				1			1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1						1 (30)	
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1					1 (30)	
	シロイヨダメント	薬学への招待	2					2 (30)		
		基礎薬学演習	1					1 (30)		
	医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	1						1 (15)	
		食と健康	1						1 (15)	
		医療における安全と安心	1					1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1						1 (15)	
		現代医療と看護・介護	1						1 (15)	
		薬の役割・薬のできるまで	1						1 (15)	
		情報時代と医療	1						1 (15)	
	健康科学	医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
		スポーツと健康	1					1 (15)		
		スポーツの科学	1					1 (15)		
	人間と文化と社会	スポーツ科学実習	1					1 (30)		
		心と医療	1					1 (15)		
		哲学と死生観	1						1 (15)	
		病と文化	1						1 (15)	
人類の疾病と医療		1						1 (15)		
法と医療		1						1 (15)		
経済と医療		1						1 (15)		
医療・福祉と財政		1						1 (15)		
コミュニケーション	社会病理と人の病	1						1 (15)		
	英語Ⅰ	1					1 (30)			
	英語Ⅱ	1					1 (30)			
	医療英語の基礎A		1				1 (30)			
	医療英語の基礎B		1				1 (30)			
	英語コミュニケーションA	1						1 (30)		
	英語コミュニケーションB	1						1 (30)		
	中国語Ⅰ	1						1 (30)		
中国語Ⅱ	1						1 (30)			
自然科学の基礎	数学Ⅰ	2					2 (30)			
	数学Ⅱ	2					2 (30)			
	物理学	2					2 (30)			
	情報リテラシー	2					2 (30)			
基礎分野計		46	4	1	1	0	0	28 (570)	24 (480)	

薬学科

授業科目の名称		開講年次						単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	5	6	必修	選択		
専門基礎分野	医学概論	2						2 (30)		専門基礎分野・専門分野の選択科目から15単位以上を修得すること	
	基礎物理化学	2						2 (30)			
	有機化学入門	2						2 (30)			
	化学基礎Ⅰ	2							2 (30)		
	化学基礎Ⅱ	2							2 (30)		
	生物学基礎Ⅰ	2							2 (30)		
	生物学基礎Ⅱ	2							2 (30)		
	化学計算基礎Ⅰ	1							1 (15)		
	化学計算基礎Ⅱ	1							1 (15)		
	薬学英語				1			1 (24)			
専門基礎分野計		16	0	0	1	0	0	7 (114)	10 (150)		
専門分野	物理系薬学	物理化学	1						1 (24)		専門基礎分野・専門分野の選択科目から15単位以上を修得すること
		薬剤物理化学		1					1 (24)		
		分析化学		1					1 (24)		
		機器分析学		1					1 (24)		
		化学構造解析学			1				1 (24)		
		放射薬品学		1					1 (24)		
		臨床分析技術学			1				1 (24)		
		生体機能解析学Ⅰ		1		1		1	1 (15)		
		物理系薬学実習		3					3 (90)		
		化学系薬学	有機化学Ⅰ	1						1 (24)	
	有機化学Ⅱ			1					1 (24)		
	生物有機化学				1				1 (24)		
	薬品化学				1				1 (24)		
	天然物化学			1					1 (24)		
	薬用植物学			1					1 (24)		
	生薬学・漢方薬学				1				1 (24)		
	薬品資源学			1		1		1	1 (15)		
	化学系薬学実習			3					3 (90)		
	生物系薬学		人体構造機能学Ⅰ	1						1 (24)	
		人体構造機能学Ⅱ		1					1 (24)		
		生化学Ⅰ	1						1 (24)		
		生化学Ⅱ		1					1 (24)		
		分子生物学		1					1 (24)		
		生理学		1					1 (24)		
		免疫学		1					1 (24)		
		微生物学		1					1 (24)		
		分子細胞生物学		1					1 (24)		
		食品機能学		1		1		1	1 (15)		
	生物系薬学実習		3					3 (90)			

薬学科

授業科目の名称		開講年次						単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	5	6	必修	選択		
専門分野	衛生薬学	薬害・副作用学			1				1 (15)		専門基礎分野・専門分野の選択科目から15単位以上を修得すること
		公衆衛生学			1				1 (24)		
		疫学			1				1 (24)		
		衛生化学			1				1 (24)		
		食品衛生学		1					1 (24)		
		栄養学			1				1 (24)		
		環境衛生学				1			1 (24)		
		分子毒性学				1				1 (24)	
		衛生試験法各論		1		1		1		1 (15)	
	衛生薬学実習			3				3 (90)			
	薬理学	薬理学総論		1					1 (24)		
		末梢神経薬理学		1					1 (24)		
		中枢神経薬理学			1				1 (24)		
		化学療法学			1				1 (24)		
		免疫制御薬学			1				1 (24)		
		先進薬理学		1		1		1		1 (15)	
	病態・治療学	薬理学実習			3				3 (90)		
		循環器・血液病態治療学			1				1 (24)		
		腎臓・生殖器病態治療学			1				1 (24)		
		代謝・内分泌病態治療学			1				1 (24)		
		呼吸・消化器病態治療学			1				1 (24)		
		臨床薬理学			1				1 (24)		
		感染症学			1				1 (15)		
		神経生理学入門		1						1 (24)	
		腫瘍薬学				1			1 (24)		
		神経病態治療学			1				1 (24)		
		免疫疾患治療学				1			1 (24)		
		臨床病態学				1			1 (24)		
	老年薬学		1		1		1		1 (15)		
	薬剤・製剤学	製剤物性学		1					1 (24)		
		生物統計学		1					1 (15)		
		製剤化のサイエンス			1				1 (24)		
		薬剤学Ⅰ			1				1 (24)		
薬剤学Ⅱ					1			1 (24)			
薬物動態学				1				1 (24)			
臨床薬物動態学					1			1 (24)			
製剤設計学					1			1 (15)			
薬剤設計学概論			1		1		1		1 (15)		
薬剤・製剤学実習				3				3 (90)			

薬学科

授業科目の名称		開講年次						単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	5	6	必修	選択		
専門分野	臨床薬学	臨床薬学入門		1					1 (24)		専門基礎分野・専門分野の選択科目から15単位以上を修得すること
		医薬品情報学				1			1 (24)		
		地域医療論			1				1 (24)		
		セルフメディケーション学			1				1 (15)		
		治験・調剤学			1				1 (24)		
		薬事関連法規				1			1 (24)		
		実践処方解析学				1			1 (24)		
		事前実習				4			4 (120)		
		薬学計算演習入門		1		1		1		1 (15)	
		病院実務実習					10		10 (450)		
	薬局実務実習					10		10 (450)			
	薬学アドバンスト教育	生体機能解析学Ⅱ				1		1		1 (15)	
		薬品製造化学				1		1		1 (15)	
		ゲノム情報応用学				1		1		1 (15)	
		化学物質安全管理学				1		1		1 (15)	
		分子予防薬理学				1		1		1 (15)	
		慢性疾患薬物治療学				1		1		1 (15)	
		薬剤設計学				1		1		1 (15)	
	薬学計算演習実践				1		1		1 (15)		
	特別演習	医療薬学演習Ⅰ			1				1 (24)		
医療薬学演習Ⅱ					1			1 (24)			
薬学総合演習					2			2 (60)			
薬学特別演習Ⅰ							4	4 (120)			
	薬学特別演習Ⅱ						4	4 (120)			
	卒業研究					10		10 (300)			
専門分野計		4	38	36	44	20	24	124 (3603)	18 (288)		
合計		66	42	37	46	20	24	159 (4287)	52 (918)		

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	専門基礎・専門分野	合計		総合計
必修	選択	必修	必修	選択	必修	選択	
28	12	7	124	15	159	27	186以上

※1の選択科目については2年・4年・6年次の何れかで修得することとする

※2の選択科目については4年・6年次の何れかで修得することとする

看護学科

		授業科目の名称	開講年次				単位数(時間数)		備考	
			1	2	3	4	必修	選択		
基礎分野	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること	
		医療の倫理学	1					1 (15)		
		医学の基礎入門	1				1 (15)			
		臨床医学への招待	1					1 (15)		
		医療・福祉の変遷と制度	1				1 (15)			
		人々の生活と医療	1					1 (15)		
	技能と資質の医療人の	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1				1 (30)		選択科目から6単位以上を修得すること	
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1				1 (30)			
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1				1 (30)			
	多職種連携教育の	多職種連携の基礎		1			1 (30)			
		事例で学ぶ多職種連携			1			1 (30)		
		実践で学ぶ多職種連携				1		1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1					1 (30)		
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)		1				1 (30)		
	医療人底力教育の医療人の	医学医療最近の進歩	1					1 (15)		
		食と健康	1					1 (15)		
		医療における安全と安心	1					1 (15)		
		東洋医学と統合医療	1					1 (15)		
		現代医療と看護・介護	1					1 (15)		
		薬の役割・薬のできるまで	1					1 (15)		
		情報時代と医療	1					1 (15)		
		医療とコミュニケーション	1					1 (15)		
		科学健康	スポーツと健康	★	1			1 (15)		
	スポーツの科学		★	1			1 (15)			
	スポーツ科学実習			1			1 (30)			
	人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1				1 (15)		選択科目から2単位以上を修得すること
			病と文化	1				1 (15)		
			人類の疾病と医療	1				1 (15)		
			心と医療	1				1 (15)		
			法と医療	1				1 (15)		
			経済と医療	1				1 (15)		
			医療・福祉と財政	1				1 (15)		
			社会病理と人の病	1				1 (15)		
憲法		★		2			2 (30)			
言葉とコミュニケーション		英語Ⅰ	★	1			1 (30)			
		英語Ⅱ	★	1			1 (30)			
		医療英語の基礎A			1			1 (30)		
		医療英語の基礎B			1			1 (30)		
		英語コミュニケーションA	1					1 (30)		
	英語コミュニケーションB	1					1 (30)			
科学的思考の基礎	(いざなぎ)の語	中国語Ⅰ	1				1 (30)	選択科目から2単位以上を修得すること		
		中国語Ⅱ	1				1 (30)			
		数学の世界	1				1 (15)			
		物理学の世界	1				1 (15)			
		化学の世界	1				1 (15)			
	自然科の基礎	生物学の世界	1				1 (15)			
		統計学の初歩	1				1 (15)			
		環境科学	1				1 (15)			
		生物学Ⅰ	2				2 (30)			
		生物学Ⅱ	2				2 (30)			
情報リテラシー	★	2			2 (30)					
基礎分野計			47	6	1	1	14 (315)	41 (765)		

看護学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考
		1	2	3	4	必修	選択	
専門基礎分野	人体疾病の成り立ちと回復の促進	人体の形態・構造	2				2 (45)	
		人体の機能	2				2 (30)	
		病気の成り立ち	2				2 (30)	
		生化学	2				2 (30)	
		病態と治療Ⅰ		2			2 (30)	
		病態と治療Ⅱ		2			2 (30)	
		病態と治療Ⅲ		2			2 (30)	
		病態と治療Ⅳ		2			2 (30)	
		生涯発達論	1				1 (15)	
		栄養と健康	1				1 (15)	
		基礎薬理学			1		1 (15)	
		臨床薬理学				1	1 (15)	
		人間関係・家族関係			1		1 (15)	
		保健医療福祉行政論				2	2 (30)	
保健情報統計学			2		2 (30)			
公衆衛生・疫学	☆			2		2 (30)		
専門基礎分野計		10	12	5	0	25 (390)	2 (30)	
専門分野	基礎看護領域	看護学概論	2				2 (30)	
		フィジカルアセスメント論		1			1 (30)	
		コミュニケーション論	1				1 (15)	
		看護展開論		1			1 (30)	
		生活援助技術論	3				3 (90)	
		診療援助技術論		3			3 (90)	
		看護体験実習	1				1 (45)	
		基礎看護学実習		2			2 (90)	
	臨床看護領域	成人看護学概論		2			2 (30)	
		急性・リハビリテーション看護援助論			2		2 (45)	
		慢性・緩和ケア看護援助論		2			2 (45)	
		成人看護学急性期実習			3		3 (135)	
		成人看護学慢性期・緩和ケア実習			3		3 (135)	
		小児看護学概論		2			2 (30)	
		小児看護援助論		2			2 (45)	
		小児看護学実習			2		2 (90)	
		母性看護学概論		2			2 (30)	
		母性看護援助論		2			2 (45)	
	母性看護学実習			2		2 (90)		
	広域看護領域	老年看護学概論		2			2 (30)	
		老年看護援助論		2			2 (45)	
		老年看護学実習			3		3 (135)	
		精神看護学概論		2			2 (30)	
		精神看護援助論			2		2 (45)	
精神看護学実習				2		2 (90)		

看護学科

授業科目の名称		開講年次				単位数(時間数)		備考	
		1	2	3	4	必修	選択		
広域看護領域	在宅看護学概論		2			2 (30)		選択科目から2単位以上を修得すること	
	在宅看護援助論			2		2 (45)			
	在宅看護学実習			3		3 (135)			
	公衆衛生看護学概論		2			2 (30)			
	公衆衛生看護管理論 ☆				1	1 (15)			
	公衆衛生看護活動展開論 ☆			3		3 (90)			
	公衆衛生看護学実習 ☆				5	5 (225)			
専門分野	統合領域	看護の統合				2	2 (30)		
		看護倫理学			1		1 (15)		
		統合実習				2	2 (90)		
		看護専門ゼミナール			1		1 (30)		
		卒業論文				2	2 (60)		
		国際看護論			1		1 (15)		
		災害看護論				2	2 (30)		
	看護管理				1	1 (15)			
	リハビリテーションと看護			1		1 (15)			
	終末期患者と家族の看護			1		1 (15)			
	ウイメンズヘルスと看護			1		1 (15)			
	子どもの心とからだの健康			1		1 (15)			
	精神障がい患者と家族の看護			1		1 (15)			
	認知症の人と家族の看護			1		1 (15)			
看護とヘルスプロモーション ☆			1		1 (15)				
専門分野計	7	29	37	15	72 (2040)	16 (435)			
合計	64	47	43	16	111 (2745)	59 (1230)			

★ 保健師資格取得後の養護教諭二種免許申請時に必要な科目

☆ 保健師国家試験受験資格取得に必要な科目

卒業必要単位数

基礎分野		専門基礎分野	専門分野		合計		総合計
必修	選択	必修	必修	選択	必修	選択	
14	12	25	72	2	111	14	125以上

〈別表Ⅱ〉成績の基準

- a) 評価は、試験の成績および平常の学習態度等によって行います。ただし、演習、実験・実習等は、平常の学習態度により評価を行う場合があります。
- b) 評価は次のとおりで、秀・優・良・可が合格です。なお他大学での修得済単位の場合は認定になります。

点数	成績表示	判定
100～90	秀	合格
89～80	優	
79～70	良	
69～60	可	
59～0	不可	不合格
他大学等の 単位認定	認	認定

〈別表Ⅲ〉検定料、入学金、授業料等

①検定料

(単位：円)

入試区分	入学検定料
総合型選抜	32,000
学校推薦型選抜	
一般選抜	
共通テスト利用方式	1学科 12,000
	2学科 17,000
	3学科以上一律 22,000
再入学	25,000
転入学	
編入学	
転学部等	
科目等履修生	10,000

(注) 特別聴講学生は免除とする。

②学部入学金・授業料 (年間)

●初年度の学費

(単位：円)

学部	学科・専攻	入学金	授業料	前期授業料	後期授業料	合計	
			(年間)				
保健衛生学部	放射線技術科学科	200,000	1,410,000	705,000	705,000	1,610,000	
	医療栄養学科		管理栄養学専攻	1,050,000	525,000	525,000	1,250,000
			臨床検査学専攻	1,400,000	700,000	700,000	1,600,000
	リハビリテーション学科		理学療法学専攻	1,500,000	750,000	750,000	1,700,000
			作業療法学専攻	1,500,000	750,000	750,000	1,700,000
	医療福祉学科		医療福祉学専攻	950,000	475,000	475,000	1,150,000
			臨床心理学専攻	950,000	475,000	475,000	1,150,000
	鍼灸サイエンス学科		1,200,000	600,000	600,000	1,400,000	
	救急救命学科		1,200,000	600,000	600,000	1,400,000	
	医用工学部		臨床工学科	1,400,000	700,000	700,000	1,600,000
医療健康データサイエンス学科		1,050,000	525,000	525,000	1,250,000		
薬学部	薬学科	1,860,000	930,000	930,000	2,060,000		
看護学部	看護学科	1,500,000	750,000	750,000	1,700,000		

● 2年次以降の学費

(単位：円)

学部	学科・専攻		授業料	前期授業料	後期授業料
			(年間)		
保健衛生学部	放射線技術科学科		1,510,000	755,000	755,000
	医療栄養学科	管理栄養学専攻	1,350,000	675,000	675,000
		臨床検査学専攻	1,500,000	750,000	750,000
	リハビリテーション学 科	理学療法学専攻	1,600,000	800,000	800,000
		作業療法学専攻	1,600,000	800,000	800,000
	医療福祉学科	医療福祉学専攻	1,050,000	525,000	525,000
		臨床心理学専攻	1,050,000	525,000	525,000
鍼灸サイエンス学科		1,700,000	850,000	850,000	
救急救命学科		1,400,000	700,000	700,000	
医用工学部	臨床工学科		1,500,000	750,000	750,000
	医療健康データサイエンス学科		1,350,000	675,000	675,000
薬学部	薬学科		2,040,000	1,020,000	1,020,000
看護学部	看護学科		1,600,000	800,000	800,000

(注) 1. 転入学・編入学・転学部等の入学金、授業料は学費納入規程参照。

2. 再入学者の入学金は100,000円とし、授業料は上記と同じ。

③ 研究員・科目等履修生及び特別聴講学生の入学金及び授業料等 (年間)

(単位：円)

区 分	入 学 金	授 業 料	聴 講 料	在 籍 料
研 究 員	—	—	—	10,000 (注)4
科 目 等 履 修 生	※30,000 (注)1	20,000 (注)2	—	—
特 別 聴 講 学 生	—	—	— (注)3	—

(注) 1. 入学金について、本学卒業生は免除とする。

※科目等履修生の入学金について、本学卒業生以外の者で、公共的団体または本学と特別な協力関係のある団体のうち理事会で承認された団体からの推薦者は半額免除とする。

(注) 2. 科目等履修生の授業料は1単位当たりとする。

(注) 3. 特別聴講学生(放送大学)の聴講料は1科目(2単位)当たり11,000円とする。

(注) 4. 研究員の在籍料は1か月当たりとする。在籍期間が1年間の場合は120,000円、半年間の場合は60,000円を一括納入すること。但し、学年の途中において研究員となった場合は、研究員となった時期から当該学年末までの月数を乗じた在籍料を一括納入すること。

④ 休学在籍料

(単位：円)

区 分	在 籍 料
半 期	60,000
年 間	120,000

変更事項を記載した書類

【変更事項】

1. 第2条第2項 設置学科名称について
「救急救命学科」を追加する。
2. 第2条第3項 学生定員について
救急救命学科 入学定員 40名 収容定員 160名を追加しました。
3. 第2条の2 保健衛生学部の研究目的について
カ 救急救命学科の目的について追加しました。
4. 第27条 卒業に必要な単位について
「救急救命学科 129単位」を追加しました。
5. 第36条 卒業生への学位授与について
救急救命学科 学士（救急救命学）を追加しました。
6. 学則別表Ⅰ
救急救命学科カリキュラムについて新設しました。
7. 学則別表Ⅲ 学部入学金・授業料について
「救急救命学科」を追加しました。

【変更事由】

救急救命学科設置のため

【変更日】

令和4年4月1日

第2条の2 前条第2項に定める学部及び学科の教育研究目的は次のとおりである。

— 中略 —

(保健衛生学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、保健衛生学部には、放射線技術科学科、医療栄養学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科、鍼灸サイエンス学科、**救急救命学科**を設置し、放射線、磁気共鳴等を使う医療、健康と栄養、臨床検査、理学療法、作業療法、介護・福祉、臨床心理、鍼灸医療等に関する諸科学及び医学について最新で高度な教育・研究を行うことによって、優れた専門知識と技術、医療人にふさわしい教養と人間性を身につけた人材を育成することを目的とする。

— 中略 —

カ 救急救命学科

救急救命学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、病院前救急医学に関する諸科学及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け、生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院（救急救命センター等）、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成することを目的とする。

— 中略 —

第27条 卒業に必要な単位は、放射線技術科学科は128単位以上、医療栄養学科は管理栄養学専攻135単位以上、臨床検査学専攻124単位以上、リハビリテーション学科は理学療法学専攻130単位以上、作業療法学専攻130単位以上、医療福祉学科は医療福祉学専攻126単位以上、臨床心理学専攻126単位以上、鍼灸サイエンス学科は134単位以上、**救急救命学科は129単位以上**、臨床工学科は138単位以上、医療健康データサイエンス学科は126単位以上、薬学科は186単位以上、看護学科は125単位以上

第2条の2 前条第2項に定める学部及び学科の教育研究目的は次のとおりである。

— 中略 —

(保健衛生学部)

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、保健衛生学部には、放射線技術科学科、医療栄養学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科、鍼灸サイエンス学科を設置し、放射線、磁気共鳴等を使う医療、健康と栄養、臨床検査、理学療法、作業療法、介護・福祉、臨床心理、鍼灸医療等に関する諸科学及び医学について最新で高度な教育・研究を行うことによって、優れた専門知識と技術、医療人にふさわしい教養と人間性を身につけた人材を育成することを目的とする。

— 中略 —

<新設>

— 中略 —

第27条 卒業に必要な単位は、放射線技術科学科は128単位以上、医療栄養学科は管理栄養学専攻135単位以上、臨床検査学専攻124単位以上、リハビリテーション学科は理学療法学専攻130単位以上、作業療法学専攻130単位以上、医療福祉学科は医療福祉学専攻126単位以上、臨床心理学専攻126単位以上、鍼灸サイエンス学科は134単位以上、臨床工学科は138単位以上、医療健康データサイエンス学科は126単位以上、薬学科は186単位以上、看護学科は125単位以上を修得しなければならない。

上を修得しなければならない。

— 中略 —

第36条 卒業した者には、次の学位を授与する。
ディプロマサプリメントを併せて交付する。

保健衛生学部	放射線技術科学科	学士（診療放射線学）
	医療栄養学科	
	管理栄養学専攻	学士（栄養学）
	臨床検査学専攻	学士（臨床検査学）
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	医療福祉学科	
	医療福祉学専攻	学士（医療福祉学）
	臨床心理学専攻	学士（心理学）
	鍼灸サイエンス学科	学士（鍼灸学）
	救急救命学科	学士（救急救命学）
医用工学部	臨床工学科	学士（臨床工学）
	医療健康データサイエンス学科	学士（医療健康データサイエンス）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

— 中略 —

- 附則 1 本学則は、令和3年3月30日に改正し、令和4年4月1日から施行する。
- 2 救急救命学科の設置に伴う令和4年度から令和6年度までの収容定員は次のとおりとする。

学部	学科・専攻	令和4	令和5	令和6
		年度	年度	年度
保健衛生学部	放射線技術科学科	400	400	400
	医療栄養学科			
	管理栄養学専攻	160	160	160
	臨床検査学専攻	200	200	200
	リハビリテーション学科			
	理学療法学専攻	160	160	160
	作業療法学専攻	160	160	160
	医療福祉学科			

— 中略 —

第36条 卒業した者には、次の学位を授与する。
ディプロマサプリメントを併せて交付する。

保健衛生学部	放射線技術科学科	学士（診療放射線学）
	医療栄養学科	
	管理栄養学専攻	学士（栄養学）
	臨床検査学専攻	学士（臨床検査学）
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	医療福祉学科	
	医療福祉学専攻	学士（医療福祉学）
	臨床心理学専攻	学士（心理学）
	鍼灸サイエンス学科	学士（鍼灸学）
医用工学部	臨床工学科	学士（臨床工学）
	医療健康データサイエンス学科	学士（医療健康データサイエンス）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

— 中略 —

<新設>

		医療福祉学専攻	120	120	120
		臨床心理学専攻	120	120	120
		鍼灸サイエンス学科	120	120	120
		救急救命学科	40	80	120
医用工学部		臨床工学科	160	160	160
		医用情報工学科	60	30	0
		医療健康データサイエンス学科	80	120	160
薬学部		薬学科	600	600	600
看護学部		看護学科	380	400	400

学則の変更の趣旨等を記載した書類 目次

ア) 学則変更（収容定員変更）の内容	・・・ p. 2
イ) 学則変更（収容定員変更）の必要性	・・・ p. 2
ウ) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	・・・ p. 4
(ア) 教育課程の変更内容	・・・ p. 4
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	・・・ p. 4
(ウ) 教員組織の変更内容	・・・ p. 5
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	・・・ p. 5

添付：救急救命学科教育課程等の概要

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

鈴鹿医療科学大学は令和4年4月に、保健衛生学部救急救命学科（入学定員40名・収容定員160名）を設置する。

救急救命学科の設置に伴い、大学全体の入学定員は640名（令和3年度）から680名（令和4年度）となり、大学全体の収容定員は2,760名（令和3年度）から2,920名（令和4年度）へ増加する（基本計画書添付資料：組織の移行表参照）。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

救急救命士制度は、平成3年に病院前救急医療体制のさらなる充実を図り、わが国の救命率の向上を目指すことを目的として整備された制度である。救急救命士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、救急救命士の名称を用いて、医師の指示の下に、救急救命処置を行うことを業とする医療専門職である。制度発足以前は、救急車の中での救急隊員による医療行為が禁じられ、傷病者の搬送を主体とした業務であった為、失われた命が多くあったという悲しい歴史があった。それらをいち早く解消するために公的養成機関、専門学校、大学において救急救命士の養成が行われてきた。

総務省消防庁の「令和2年度版救急・救助の現況」によると令和元年中の救急出動件数（消防防災ヘリコプターを含む。）は、664万2,772件（対前年比3万4,431件増、0.5%増）、搬送人員は598万258人（対前年比1万7,645人増、0.3%増）であった。そのうち、救急自動車による救急出動件数は663万9,767件（対前年比3万4,554件増、0.5%増）、搬送人員は597万8,008人（対前年比1万7,713人増、0.3%増）で救急出動件数、搬送人員ともに過去最多となっている。救急出動件数、搬送人員の増加は、超高齢社会の加速化によるものが主たる要因である。年齢区分別での搬送人員においても高齢者が358万9,055人と最も多く全体の60%を占めている（資料1）。わが国における超高齢社会に連動して起こる多死社会は救急医療に深刻な影響を与えてくる。救急医療の崩壊をさせることなくこれらの課題を安全に乗り越えるには医療専門職である救急救命士の人材育成が欠かせない。

東海3県（愛知、岐阜、三重）における高等教育機関での救急救命士の養成の現状は、四年制大学では愛知県2校（令和3年度開設を含む）、岐阜県1校の計3校で行われている。三重県内においては、大学のみならず専門学校の養成機関も存在しない環境にある。

救急隊は通常3名の救急隊員で構成されるが、24時間365日全ての救急事案で1人以上救急救命士が搭乗する体制としている救急隊を「救急救命士常時運用隊」という。人口減少や自治体の厳しい財政状況などにより、救急救命士制度発足当初からの目標であった養成が計画通りに進んでいない消防本部や三重県南部の医療過疎地帯にとって、本学が救急救命士の養成を行い優秀な人材を輩出することは、当該自治体や医療機関にとっても有益な

ものになるとともに、大学の社会的使命を十分に果たすことができる学科となる。

総務省消防庁の「令和2年度版救急・救助の現況」によると、令和2年4月1日現在の東海3県（愛知・岐阜・三重）における救急救命士常時運用比率をみると愛知県が99.2%、岐阜県92.9%、三重県77.4%であり東海3県で三重県が最も低い運用比率となっているため、これらの運用比率を上昇させ三重県のみならず東海3県の救急医療の置かれている状況を改善する大きな推進力になるものと考え（資料2）。

救急救命士法第44条第2項では「救急救命士は、救急用自動車その他の重度傷病者を搬送するためのものであって厚生労働省令で定めるもの（「救急用自動車等」という。）以外の場所においてその業務を行ってはならない。ただし、病院又は診療所への搬送のため重度傷病者を救急用自動車等に乗せるまでの間において救急救命処置を行うことが必要と認められる場合は、この限りではない。」と、救急救命士が業務を行う場所の規定がされ、法制定から今日まで救急救命士の活躍する場は消防機関が主たる場所であった。しかし、医師の働き方改革の一環として過重労働が常態化している救急医の負担を減らす狙いから、日本医師会、日本救急医学会、四病院団体協議会より救急救命士の業務の場の拡大や医師から救急救命士への業務移管の必要性等に言及されたことを踏まえて、厚生労働省「救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会」において救急救命士の医療機関での職域拡大が計6回議論され、令和2年3月に「救急救命士の資質活用に向けた環境の整備に関する議論の整理」を取りまとめた。救急救命士が活動を行う“場”について、現在の「病院前」という規定について法改正を行い、「救急外来」まで救急救命士が救急救命処置を可能とすること。救急救命処置を行う“対象者”は、従前通り、救急診療を要する重度傷病者として実施する。

“救急救命処置”は、従前通り、「救急救命処置の範囲等について」で規定される33行為とするという方向性が示されている。災害現場や救急車内に限られている救急救命士の活動について、「救急外来」まで認める方針が固まっている。

また、救急救命士の活用については、令和2年1月27日に開催された内閣府規制改革推進会議の医療・介護ワーキング・グループにおいても議題として扱われ、内閣府としても救急救命士の場所制限の規制緩和を行うこととの結論が出された。令和3年の通常国会で、救急救命士法改正案の提出を目指し進められる予定である。これに伴い本学では社会の趨勢と時代の求めを先読みし、今後わが国の医療の場において救急救命士の需要がさらに高まるであろうと予測した。

救急救命士の職能団体である一般社団法人日本救急救命士協会からも本学に対して急速な高齢化と医療過疎が深刻な問題である三重県南部をはじめ中部圏の救急医療のさらなる充実を図るため、三重県の高等教育機関として救急救命士養成を行っていただきたいとの賛同を得ている（資料3）。本学所在地である三重県における救急救命士の人材育成は、本学のみであり、他にこの分野での高等教育機関はない。現在のコロナ禍において医療機関に就職している救急救命士について、現行法で実施し出来る処置範囲内で多忙をきわめる救急外来での業務を支えている現状にある。救急救命士法改正により、医療機関内で勤務する

救急救命士が増えることが期待され、その際には、年々負担が増大されている救急医療の場においてさらなる活躍ができるものと考えている。

そこで、大規模災害や多死社会時代に傷病者・患者を含む家族に対して、思いやりの心と医療専門職としての倫理観や共感的態度をもって、救急医療、近年多発する災害医療やNBCテロの現場、在宅での終末期医療で活躍できる新しい時代に対応できる救急救命士を養成することが急務であり、令和4年4月より保健衛生学部救急救命学科の設置が不可欠であるとの判断をした。

一方、大学全体の入学者確保の状況については、平成20年代前半には定員充足率の低い学科の定員変更を行い、その後も改組、カリキュラム改革、広報活動の強化等により、学科ごとに多少差はあるものの大学全体では順調に入学者を確保出来ている（資料4）。

このような状況の中、今回の救急救命学科の設置に伴う定員の純増分（入学定員40名・収容定員160名）については、学生確保の見通しや就職先の確保も問題なく、また、特段に入学定員を減少させる必要のある学科はないため、収容定員増加に伴う学則変更が必要であると判断した。（本項目で記載した各種調査の詳細等は、8.学生の確保の見通し等を記載した書類に記載している。）

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

他学部等の教育課程については、救急救命学科設置に伴う収容定員増加を理由とした教育課程の変更は行わないため、特段影響はないと考える。

本学では、医療系総合大学であるメリットを最大限活かすために、チーム医療や多職種連携について学修する科目を設定している。今回の救急救命学科設置に伴い、病院前救急医療の内容を新たに追加することにより、他学部等の学生に対しても、主に院内での事例学習を対象にしてきた内容から自宅や事故・災害現場という院外にまで場を広げた従前より幅広い知識を修得できる機会を提供できるため、良い影響を与えると考ええる。

現在、厚生労働省は医師の働き方改革を進めるにあたり「病院前」から延長して「救急外来」までにおいても、救急救命士が救急救命処置を可能とする法改正が進められている。これによって救急救命士が看護師をはじめとしたメディカルスタッフと従前よりもさらなる緊密な連携が増えることが予測される。また、医療福祉系の他職種を目指す学生との関わりといった観点でも、従前、本学では養成していなかった救急救命士を目指す学生が加わることにより、他学部等の学生にとっても良い影響を与え教育内容の充実と質向上につながるものと考えている。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

本学における教育方法については、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき体系的に科目を配置している。また、履修指導については、1年生を中心とする基礎教

養科目は全学科共通で実施するため、学科ごとで指導に差異が生じることはない。全学共通の必修科目である「いのちの倫理学」「医療の倫理学」「医学の基礎入門」「臨床医学への招待」「医療・福祉の変遷と制度」「人々の生活と医療」「慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）」の7科目は、教育の質向上の観点から、全学部全学科の1年生を3クラスに分け実施している。救急救命学科設置に伴う入学者数の増加分に関しては、各クラスが極力均等になるように配慮する計画であり、また、大教室での講義形式の授業のため、教育の質に影響があるものではない。教室の収容能力にも余裕があり、特段、他学部等への影響はないものとする。

同じく、全学共通の必修科目である「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」では、その活動単位を6～7名の学生によるチームにしている。全学部、全学科の1年生を学部・学科混成のクラス（令和2年度実績：1クラス45～48名・14クラス）に分け、さらに各クラス内に6～7名のチーム（学科、専攻、性別を考慮したグループ）を作っている。各クラスには、3名程度の教職員をリーダー、チューターとして配置しており、きめ細やかな教育を実施している。救急救命学科設置に伴う入学者の増加分に関しては、各クラス3～4名程度の増員に留まるため、教育の質を維持できると考えており、特段、教育方法を変更する必要はない。

また、専門教育科目についても救急救命学科設置の教育概念に基づき指導するため、特段、他学部等への影響はないものとする。

（ウ）教員組織の変更内容

救急救命学科の専任教員は8名配置する計画である。学科設置に伴い、7名の教員を新規採用する。うち1名は開設準備室長（学科長就任予定であり、現・保健衛生学部教授）として学科開設前に採用している。

学内異動に関しては、看護学部から1名（教授）、救急救命学科へ異動する。この1名は医師であり、看護学部にも所属しているものの、大学全体の基礎医学分野を担当している意味合いが強く、また、看護学部には大学設置基準を大幅に上回る専任教員を配置しており、特段、他学部等への影響はないものとする。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容

救急救命学科設置に対応して、白子キャンパスのコミュニティハウス棟を専用棟として改装する予定である。改装するコミュニティハウス棟の延床面積は全体で471.35㎡あり、実習室、ゼミ室等への転用とする。現在コミュニティハウス棟を使用している鈴鹿ロボケアセンターは千代崎キャンパスへ、保健室は白子キャンパス2号館へ、それぞれ分散し未使用スペースへの移動も決定している。また、3号館1階の解剖学実習室（141.32㎡）および4号館3階老年・在宅・公衆衛生看護学実習室（174.02㎡）、1号館2階情報演習室（138.44㎡）の実習室においても既存教室の共用利用が展開されることになる。

白子キャンパスには薬学科と看護学科が設置されているが、それぞれ1・5号館、4号館と専用といえる棟を有しているため、そこで専門教育が行われている。

また、平成26年度の全学的教育改革により、全学部全学科の1年生は白子キャンパスでの修学となったが、救急救命学科・薬学科・看護学科以外の学科の2年次以降は千代崎キャンパスでの修学となり、3号館15教室（延床面積1660.74㎡）については現在の稼働率が3割強という状況である。よって救急救命学科が加わったとしても教室の収容能力には十分な空きがあり不足が生じることはない。

共通学習施設および厚生施設については、両キャンパス図書館をはじめ、白子キャンパス1号館学生ラウンジ、3号館L-Lab、6号館L-studio等、充実した教育施設が整備できている。また、無線LAN利用可能スペースはキャンパス内全域に広げ、全教室で利用できるように整備している。学生食堂も白子キャンパスに2店（「サピオ2」408.90㎡、「サピオ3」432.73㎡）と広さ的にも余裕ある環境を提供している。

よって、共通学習施設・厚生施設においては現状のままとし、専用棟の設置のみで十分な教育環境が整える状況は見込めると考える。

以上、上記（ア）～（エ）に記載した通り、教育課程、教育方法及び履修指導方法、教員組織、大学全体の施設・設備等は、収容定員変更前と比較しても特段、他学部等への影響はなく、同等以上の教育環境が保たれている。

※基本計画書の「経費の見積り及び維持方法の概要」の「共同研究費等」が0千円の理由：研究費等の割当ては、教員1人当りのみ実施しているため。

以上

教育課程等の概要															
(保健衛生学部 救命救急学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	基礎知識の医療人の	いのちの倫理学	1前	1			○							兼6	オムニバス
		医療の倫理学	1前		1		○		1					兼6	オムニバス
		医学の基礎入門	1前	1			○							兼7	オムニバス
		臨床医学への招待	1後		1		○		1					兼6	オムニバス
		医療・福祉の変遷と制度	1前	1			○							兼6	オムニバス
		人々の生活と医療	1後		1		○		1					兼6	オムニバス
	医療人の能力と実践の技	医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)	1前	1				○			1	2			共同
		医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1前	1				○			1	2		兼39	共同
		医療人底力実践Ⅲ(発展プログラム)	1後	1				○			1	2		兼35	共同
	多職種連携の医療人底力教育	多職種連携の基礎	2前	1			○		1					兼15	オムニバス
		事例で学ぶ多職種連携	3後		1			○		1				兼14	共同
		実践で学ぶ多職種連携	4前		1				○					兼14	共同
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)	1後		1			○						兼9	オムニバス
		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)	2前		1			○						兼15	共同
	医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	1前		1			○						兼7	オムニバス
		食と健康	1前		1			○						兼8	オムニバス
		医療における安全と安心	1前	1				○						兼7	オムニバス
		東洋医学と統合医療	1前		1			○						兼1	
		現代医療と看護・介護	1後		1			○						兼1	
		薬の役割・薬のできるまで	1後		1			○						兼5	オムニバス
情報時代と医療	1後		1			○						兼1			
	医療とコミュニケーション	1後		1			○						兼2	オムニバス	
健康科学	スポーツと健康	1前	1				○						兼2	共同	
	スポーツの科学	1前	1				○						兼2	共同	
	スポーツ科学実習	1後	1					○					兼2	共同	
人間と生活	人間と文化と社会	哲学と死生観	1前		1			○						兼1	
		病と文化	1前		1			○						兼1	
		人類の疾病と医療	1後		1			○						兼1	
		心と医療	1後		1			○						兼1	
		法と医療	1後		1			○						兼1	
		経済と医療	1前		1			○						兼1	
	医療・福祉と財政	1後		1			○						兼1		
	社会病理と人の病	1後		1			○						兼1		
言葉とコミュニケーション	英語Ⅰ	1前	1					○					兼1		
	英語Ⅱ	1後	1					○					兼1		
	医療英語の基礎A	2前		1				○					兼1		
	医療英語の基礎B	2後		1				○					兼1		
	英語コミュニケーションA	1前		1				○					兼1		
	英語コミュニケーションB	1後		1				○					兼1		
中国語Ⅰ	1前		1				○					兼1			
中国語Ⅱ	1後		1				○					兼1			
科学的思考の基盤	(自然科学への誘い)	数学の世界	1前		1			○						兼1	
		物理学の世界	1後		1			○						兼1	
		化学の世界	1前		1			○						兼2	オムニバス
		生物学の世界	1後		1			○						兼1	
		統計学の初歩	1前		1			○						兼1	
		環境科学	1後		1			○						兼3	オムニバス
		地球科学・宇宙科学	1前		1			○						兼1	
		科学史・科学哲学	1後		1			○						兼1	
情報リテラシー	1前	1				○						兼1			
小計(50科目)			—	14	36	0	—	—	2	1	2	—	兼121		

専門基礎分野	専門基礎科目	解剖学	1前	2			○											兼1	オムニバス オムニバス		
		生理学	1後	2			○													兼1	
		公衆衛生学	4前	2			○													兼1	
		生化学	1後	2			○													兼1	
		微生物学	1前	2			○													兼1	
		薬理学	2後	2			○													兼2	
		病理学	2後	2			○													兼2	
		内科学	2後	2			○			1											
		外科学	2後	2			○														兼1
		整形外科学	2前	2			○														兼1
		脳外科学	3前	2			○														兼1
		放射線医学	4前	2			○														兼1
		医療・福祉データサイエンス	4前	1			○														兼1
小計(13科目)		—	25	0	0	—			1									兼11	—		
専門分野	命救急 学処置救	病院前救急医療学概論	1前	2			○			1									オムニバス オムニバス		
		救急救命処置学概論Ⅰ	2前	2			○			1		1	1								
		救急救命処置学概論Ⅱ	2後	2			○			1		1	1								
	医救疾 学急病	疾病救急医学Ⅰ	2前	2			○			1											
		疾病救急医学Ⅱ	2後	2			○			1											
		疾病救急医学Ⅲ	3前	2			○			1											
	学救急 症候急	救急症候学Ⅰ	3前	2			○			1											
		救急症候学Ⅱ	3後	2			○			1											
	臨床 学救急 医	外傷救急医学	2前	2			○			1										兼1 兼1 兼1	
		救急病態生理学	3後	2			○			2											
		小児科学	3後	2			○														
		産婦人科学	3前	2			○														
		精神医学	3前	2			○														
急性中毒学・環境障害学	3後	2			○			1													
災医 学害療	災害医療論	1後	2			○				1	1	2							オムニバス オムニバス 共同		
	災害危機管理学	4前	2			○				1	1	2									
	救急倫理学	3後	2			○				1		1									
会救 学心 理社	スピリチュアル・ケア概論	4後	2			○			1										共同		
	救急救命コミュニケーション論	2前	2			○				1	1	1									
	理論救急救命学	3後	2			○				1											
看臨 学護床	救急看護学概論	4前	2			○				1		1							オムニバス 共同 共同		
	救急救命家族支援論	2後	2			○				1		2									
	遺族看護学	3後	2			○				1	1	1									
学支生健救 援活康急	救急健康生活支援技術論	2後	2			○				1									共同		
	救急健康生活支援技術論演習	2後	1			○				1	1	1									
統救 合学 演急 習命	特別総合演習Ⅰ	4前	1			○				1	1	2							共同 共同 共同 共同		
	特別総合演習Ⅱ	4後	1			○				1	1	2									
	救急活動事例演習	4後	1			○				1	1	2									
	課題解決演習	4前	1			○				1	1	2									
臨床 実 習	健康安全実習	1後	2			○			1		1	2							共同 共同 共同 共同 共同		
	応急処置実習	2前	3			○			1		1	2									
	特定行為実習	2前	4			○			1		1	2									
	救急救命処置実習	2後	4			○			1		1	2									
	救急用自動車同乗実習	3前	6			○			1		1	2									
臨床実習	3後	6			○			1	1	1	2										
小計(35科目)		—	78	0	0	—			4	1	1	2	0					兼3	—		
合計(98科目)		—	117	36	0	—			4	1	1	2	0					兼131	—		
学位又は称号		学士(救急救命学)				学位又は学科の分野		保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)													

※1 医療安全管理学
 ※2 臨床実験

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1年間の学期区分	2学期
	1年間の授業期間	15週
必修科目117単位、基礎分野の選択科目から12単位以上を修得し、129単位以上を修得すること (履修科目の登録の上限(年間)：1年次55単位、2年次40単位、3年次31単位、4年次17単位)	1年間の授業時間	90時間

自由科目

授業科目の名称	開講年次				単位数	時間数	備考
	1	2	3	4			
論理的思考演習			2			2(60)	
数的思考演習			2			2(60)	

※自由科目は卒業単位として認定されない。

資料目次（学則の変更の趣旨等を記載した書類）

- 資料 1 総務省消防庁
報道資料「令和 2 年度版救急・救助の現況」の公表
- 資料 2 総務省消防庁
「令和 2 年度版救急・救助の現況」都道府県別の救急救命士運用状況
- 資料 3 一般社団法人日本救急救命士協会からの賛同書
- 資料 4 本学入試結果

資料 1

1（書類等の題名）

総務省消防庁

報道資料「令和 2 年度版救急・救助の現況」の公表

2（出典）

総務省消防庁ホームページ

3（引用範囲）

総務省消防庁ホームページ＞報道発表等＞報道発表＞令和 2 年報道発表

「令和 2 年度版救急・救助の現況」の公表（令和 2 年 12 月 25 日） PDF 資料の 1 頁

資料 2

1（書類等の題名）

総務省消防庁

「令和 2 年度版救急救助の現況」

都道府県別の救急救命士運用状況

2（出典）

総務省消防庁ホームページ

3（引用範囲）

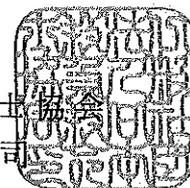
総務省消防庁ホームページ＞刊行物＞救急救助の現況＞令和 2 年版救急救助の現況

I 救急編 PDF 資料の 11 頁

令和3年2月3日

学校法人鈴鹿医療科学大学
理事長 高木 純一 様

一般社団法人日本救急救命士協会
会長 鈴木 哲司



鈴鹿医療科学大学 救急救命学科設置について (賛同)

謹啓

立春の候、貴学におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の事業推進についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、近年の頻発する大災害、超高齢社会における救急搬送件数の増加、コロナウイルス感染症の世界的蔓延によって災害・救急医療を取り巻く環境は激変しています。また、コロナウイルス感染症による重症患者数の増加によって病床数が不足、集中医療を専門とする医療専門職の人材不足が問題となるなか、国は法改正によって救急救命士の活動する場所の制限を解除してその業務場所を現在の「救急自動車内」から「救急外来」までに拡大して救急救命士のさらなる活躍と救急医療体制の充実と強化を目指しているところです。

このような折、貴学から「救急救命学科」を設置する予定であるとの情報提供をいただきました。この情報を受けまして本会理事会において検討させていただきました結果、東海3県（愛知・岐阜・三重）の救急救命士養成施設において高等教育機関及び専門学校が存在しない県は三重のみであって、当該県で「高度な教育を受けた質の高い救急救命士の養成」並びに、将来、「教育研究者として活躍できる指導者の育成」を目的とした、四年制大学である救急救命士養成施設を開設していただく事は東海3県の救急救命士養成施設の空白県の解消にもつながり、本会と致しましては大変望ましい事であるとの結論にいたりました。

以上のことから本会は貴学の救急救命学科開設に対して賛同させていただきます。

謹白

本学 全学部 入試結果

年度	2017	2018	2019	2020	4年間の 入学者の合計	4年間の平均入学 定員超過率
入学定員	560	570	610	630	2,580	1.08
受験者数	3,209	2,873	3,268	3,263		
合格者数	1,546	1,556	1,691	1,630		
入学者数	617	629	667	667		
定員充足率	1.10	1.10	1.09	1.05		

※本学集計データ

※小数点第3位は切捨て

※第2志望を含む(推薦入試基礎テスト方式・一般入試)

※センター利用方式の他学科併願者を含む

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み（入学定員設定の考え方）

入学定員は、保健衛生学部救急救命学科 40 名とする。救急救命士学校養成所指定規則では、一学級の定員は五十人以下との定めがあるが、それよりも少ない 40 名としている。

同系統の他大学と比較（資料 1）しても入学定員は少なく設定しており、少人数制で質の高い教育が可能であると考え。以上の事から入学定員の 40 名は妥当な水準と考える。

救急救命学科の定員充足の見込みについて、同系統の他大学の志願動向や三重県内には救急救命士養成大学が存在せず競合する大学がないことから学生募集に関する環境に恵まれている点、設置に関するニーズ調査の結果等から 40 名の入学定員を充足出来ると考える。

イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要

【同系統の他大学の志願動向について】

同系統の他大学（短期大学含む）の入学者数等の動向については、（資料 1）の通りである。学科の下に複数のコース等を設定して救急救命士を養成している大学もあるが、救急救命士養成課程のみの数値で整理する事が困難である事から、学科名称を「救急救命学科」等と標榜しており、学科全体で救急救命士を養成している大学を（資料 1）に記載している。

志願者数から推測すると、一部歩留まりの読み違いと思われる定員割れの大学・年度もあるが、大半の大学・年度で順調に入学者を確保出来ている事がわかる。

また、2017 年度の杏林大学（40 名→50 名）、2020 年度の広島国際大学（40 名→50 名）、2021 年度の明治国際医療大学（2021 年度から 50 名→80 名）と近年、入学定員の増員を行っている大学も見られる。以上の事からも救急救命士養成課程のニーズが高いことが伺える。

【保健分野の志願動向について】

文部科学省学校基本調査の関係学科別大学入学状況で【保健 その他（医学・歯学・薬学・看護学以外）】の入学者数について、2011 年度（20,705 人）から 2020 年度（24,290 人）を見ると、入学者は右肩上がり増加を続けている（資料 2）。2011 年度と 2020 年度の入学者数を比較すると約 1.37 倍と大幅に増加している事がわかる。超高齢社会を迎え、今後、本分野のニーズは更に高まると考えられる。

【競合校及び地域的な特性について】

救急救命士を養成している大学は全国的に見ても 20 大学程度と数が少ない。近隣の愛知県、岐阜県の救急救命士養成課程の設置状況についても、愛知県 2 校（令和 3 年度開設を含む）、岐阜県 1 校の 3 大学しかなく、数は少ない。また、西側に隣接する奈良県は専門学校を含めても養成校がない。

更に本学の所在地である三重県も奈良県と同様に、専門学校を含めても養成校はなく、救急救命学科設置は県内で初となる。本学入学者における過去 3 年間（2018 年度～2020 年度）の三重県内の高等学校出身者の割合は（資料 3）の通りである。年度によって若干変動はあるものの、ここ 3 年は 6 割近くが三重県内の高等学校出身者となっており、その割合は高くなっている。救急救命学科についても同様の傾向になる事が予想され、県内には競合している大学がない事もあり学生募集環境は非常に恵まれていると言える。

【設置に関するニーズ調査について（高校生対象調査）】（資料 4）

救急救命学科設置について、高校生のニーズを把握するためにアンケート調査を実施した。本学への進学者が多い、三重県内の高校 7 校の 2 年生を調査の対象とした（下記＜調査の概要＞参照）。上記に記載した通り、三重県内の高等学校出身者の割合が高いことから、調査の対象は妥当であると考ええる。客観性、透明性を高めるため、調査は第三者機関（株式会社進研アド）に依頼した。調査の概要は下記の通りである。

<調査の概要>

アンケートタイトル：鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部救急救命学科」（仮称、設置構想中）に関するアンケート

調査対象：高校 2 年生

調査エリア：三重県

調査方法：高校留置き調査

依頼数（依頼校数）：2,633 人（7 校）

有効回収数（回収校数）：2,164 人（7 校）

有効回収率：82.2%

調査時期：2020 年 12 月 1 日（火）～2020 年 12 月 21 日（月）

調査実施機関：株式会社進研アド

<調査結果まとめ（結果報告書を参照）>

・回答者の高等学校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が 67.6%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が 35.2%、「専門学校・専修学校に進学」が 17.9%と続く。私立大学への進学希望者が多いことから、本学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。

・回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、開設予定の保健衛生学部救急救命学科の学びと関連する「看護・保健学」が15.3%、「医療技術学（救急救命含む）」が9.7%あり、ここでも本分野のニーズの高さがうかがえる。

・保健衛生学部救急救命学科を「受験したいと思う」と答えた人は、10.1%（2,164人中、218人）である。

・保健衛生学部救急救命学科を「受験したいと思う」と答えた218人のうち、「入学したいと思う」と回答した人は、86.7%（189人）である。予定されている入学定員40人を4倍以上上回る入学意向者が見られた。

以上のように、設置に関するニーズ調査で入学定員40名を上回る入学意向を確認出来たが、当然の事ながら調査票を回収した7校以外からも受験者及び入学者が見込まれることから入学定員40名を十分に確保出来ると考える。

ウ 学生納付金の設定の考え方

同系統の他大学の学費は、(資料5)の通りである。救急救命学科の学費は、4年間の総額で560万円とする予定である。近隣の大学の状況は、愛知淑徳大学（2021年度開設）が571万円、中部大学が556万円であり近隣の大学と同等程度の金額設定としており、他大学と比較しても妥当な金額だと言える。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

ア. オープンキャンパスの開催

過去3年間（2018年度～2020年度）のオープンキャンパス参加者数は（資料6）の通りである。

本学のオープンキャンパスは、毎年6月から8月の期間に4回開催しており、主に模擬授業や実習体験など高校生のニーズに合わせたメニューを用意し対応している。2020年度は新型コロナ対策の影響により、高校3年生のみを対象に事前申込少人数制で開催したため大学全体の合計参加者数は1332人と半減している。

イ. 学外進学相談会への参加

三重県内の主要都市及び愛知県、岐阜県、静岡県、その他地区において、主に受験生とその保護者を対象とした進学相談会に積極的に参加している（資料7）。教育内容、学生生活、入試情報に関する疑問や不安を解消するため、きめ細やかな対応を行っている。また、この機会を利用し、オープンキャンパスへの参加を促している。

ウ. 高校内進路ガイダンス等の実施

高等学校主催で行われる高校内進路ガイダンス・模擬授業を実施し、保健・医療系大学の教育内容への理解を深める活動を継続的に行っている（資料8）。

エ. 教職員による高校訪問

本学への入学、受験の実績がある高校への訪問を行い、入学者の修学状況の報告や次年度入試情報を正確に伝えることにより、高校との信頼関係を構築している（資料9）。

2020年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から訪問や対面での情報伝達に著しく制約があり、特に「イ」から「エ」の活動は大幅に縮小せざる負えない状況であった。

オ. 広報活動の強化

救急救命学科の開設に伴い、広報活動を更に強化し、安定的に入学者を確保出来るように努める。広報活動の強化は事業計画でも定めており、令和3年度の具体的な活動計画は下記の通りである。

- ・ 大学ホームページの充実化
- ・ 大学ホームページ 救急救命学科 特設サイトの開設
- ・ 救急救命学科 リーフレットの作成と配布（高校、受験生等）
- ・ 公式 SNS の運用強化
- ・ マスメディアを利用した積極的な情報発信

大学ホームページは、常に最新情報を提供できるようにする。またLINEやインスタグラムでも、情報をタイムリーに届けていく。主なターゲットである高校生のライフスタイルの変化に合わせ、今後も柔軟な広報活動を展開する。

（2）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

保健衛生学部救急救命学科の教育研究目的（養成する人材像）は下記の通りである。（学則第2条の2より）

（保健衛生学部）

本学建学の精神及び教育の理念に基づき、保健衛生学部には、放射線技術科学科、医療栄養学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科、鍼灸サイエンス学科、救急救命学科を設置し、放射線、磁気共鳴等を使う医療、健康と栄養、臨床検査、理学療法、作業療法、介護・福祉、臨床心理、鍼灸医療、救急救命等に関する諸科学及び医学について最新で高度な教育・研究を行うことによって、優れた専門知識と技術、医療人にふさわしい教養と人間性を身につけた人材を育成することを目的とする。

（救急救命学科）

救急救命学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、病院前救急医学に関する諸科学及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け、生涯にわ

たって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院（救命救急センター等）、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成することを目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

救急医療をとりまく現状は、病院前における救急業務に始まり、「救急外来」における救急診療を経て、入院病棟における入院医療へと続く。病院前は、救急救命士、医療機関搬入後は医師、看護師等が主な業務を担っている。総務省消防庁の「令和 2 年版救急・救助の現況」によると令和元年中の救急自動車による救急出動件数は 663 万 9,767 件（対前年比 3 万 4,554 件増、0.5% 増）、搬送人員は 597 万 8,008 人（対前年比 1 万 7,713 人増、0.3% 増）で救急出動件数、搬送人員ともに過去最多となり、救急医療に携わる者に関わる負担は増加している。（学則の変更の趣旨等を記載した書類：資料 1）

また、「医師の働き方改革に関する検討会報告書」によると長時間労働の実態にある医師の中でも救急科の医師は、時間外労働が年 1860 時間/月 100 時間を超える医師の割合が 14.1%であると報告されている（資料 10）。これらの現状と共にわが国の高齢化の進展による救急医療ニーズが今後さらに高まると予想され、救急医療に従事する者の確保を早急に行う必要があるとの課題に対して、救急救命士の資質を活用できるように、救急救命士法の一部改正を含め具体的な議論が進められることとなり、令和 3 年 2 月 2 日に「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律案」が国会に提出され現在審議中である。本法案が可決成立すると令和 3 年 10 月 1 日に施行され、「病院前」から延長して「救急外来」まで、救急救命士が救急救命処置を行うことが可能となる。これらの動向を踏まえると今まで消防機関への就職が主たるものであったが、今後医療機関における救急救命士の採用需要がさらに生まれることが推測され、本学が高度・専門化する救急医療に対して資質の高い救急救命士を養成輩出することは社会の趨勢に応えるとともに高等教育機関としての大きな使命であると考えている。

【設置に関するニーズ調査について（医院・公務・団体対象調査）】（資料 4）

卒業生の就職先として想定される病院・地方自治体・団体からのニーズを把握するためにアンケート調査を実施した。客観性、透明性を高めるため、調査は第三者機関（株式会社進研アド）に依頼した。調査の概要は下記の通りである。

<調査の概要>

アンケートタイトル：鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部救急救命学科」（仮称、設置構想中）に関するアンケート

調査対象：医院・公務・団体の採用担当者

調査エリア：東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県

調査方法：郵送調査

依頼数：603 件

有効回収数（回収率）：182 件（30.2%）

調査時期：2020 年 12 月 1 日（火）～2020 年 12 月 21 日（月）

調査実施機関：株式会社進研アド

<調査の結果（結果報告書を参照）>

・回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は 14.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は 51.6%と、採用や選考にかかわる人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。

・回答病院・公務・団体の所在地は、「愛知県」が 28.0%で、本学の所在地である「三重県」が 18.1%で、「大阪府」も同率で 18.1%である。愛知県と三重県の比率が高く、地元エリアの病院・公務・団体から意見を聴取できていると考えられる。

・回答病院・公務・団体の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、救急救命学科の学びと関連する「医療技術学（救急救命含む）」の割合が 54.9%で最も高い。

・救急救命学科の社会的必要性についての評価は、94.0%（182 件中、171 件）が「必要だと思う」と回答しており、多くの病院・公務・団体からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

・救急救命学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた病院・公務・団体は、51.6%（182 件中、94 件）である。

・上記 94 件のうち救急救命学科の卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 98 名で、入学定員 40 名の 2 倍を上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

以上のように、設置に関するニーズ調査で入学定員 40 名を上回る採用想定人数を確認出来たが、当然の事ながら調査票を回収した 182 件の病院・公務・団体以外に就職する学生も想定されるので、救急救命学科の就職状況も良好になる事が予測される。

本項目で記載した通り、社会的な動向、未来予測、設置に関するニーズ調査等から救急救命士が不足していることは明らかである。上記①に記載した救急救命学科の教育研究目的（養成する人材像）は救急救命士の養成を目的としていることから、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると言える。

資料目次（学生の確保の見通し等を記載した書類）

- 資料 1 他大学（短期大学含む）救急救命士養成学科 入学者数等
- 資料 2 文部科学省学校基本調査 保健（その他）の年度別入学者数
- 資料 3 本学入学者 三重県内の高等学校出身者の割合
- 資料 4 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部救急救命学科」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書
【高校生対象調査】【病院・公務・団体対象調査】
- 資料 5 他大学救急救命士養成課程 学費
- 資料 6 オープンキャンパス参加者数
- 資料 7 学外進学相談会参加状況
- 資料 8 高校内進学ガイダンス（模擬授業含む）実施状況
- 資料 9 高校訪問の実施状況
- 資料 10 厚生労働省ホームページ
「医師の働き方改革に関する検討会報告書」36 頁・39 頁

資料 1

1（書類等の題名）

他大学（短期大学含む）救急救命士養成学科 入学者数等

2（その他の説明）

本資料では、他大学の志願者数又は受験者数・合格者数・入学者数を記載している。

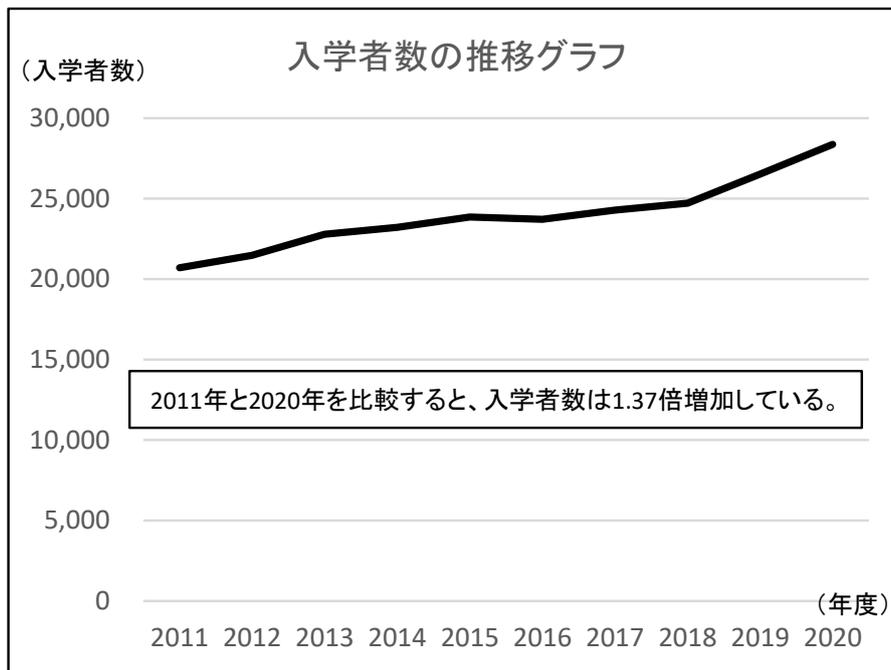
各数値等は各大学のホームページ及び大学受験パスナビ（旺文社）を参照。

(<https://passnavi.evidus.com/>)

資料2

文部科学省学校基本調査 保健(その他)の年度別入学者数

年度	2011	2012	2013	2014	2015
入学者数	20,705	21,479	22,798	23,222	23,850
年度	2016	2017	2018	2019	2020
入学者数	23,705	24,290	24,727	26,533	28,372



※2011年度～2020年度の文部科学省学校基本調査 関係学科別大学入学状況 (2015年度以前は関係学科別入学者数)の数値を元に作成

本学入学者 三重県内の高等学校出身者の割合

<大学全体>

年度	2018	2019	2020
入学定員	570	610	630
入学者数	629	667	667
三重県出身者	363	394	386
三重県出身者比率	58%	59%	58%

※本学集計データ

※小数点以下は四捨五入

鈴鹿医療科学大学
「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年2月
株式会社 進研アド 5

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		三重県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	2,633人(7校)
	有効回収数 (回収校数)	2,164人(7校) 有効回収率:82.2%
調査時期		2020年12月1日(火)～2020年12月21日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問分野・鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度・鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への受験意向・鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、鈴鹿医療科学大学の「保健衛生学部 救急救命学科」に対する需要を確認するための調査として設計。鈴鹿医療科学大学の主な学生募集エリアである三重県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、2,164人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が49.8%、「女性」が49.8%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が34.9%、「私立」が65.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、鈴鹿医療科学大学の所在地である「三重県」が100.0%である。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が65.4%で最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が28.0%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問分野

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が67.6%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が35.2%、「専門学校・専修学校に進学」が17.9%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、鈴鹿医療科学大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「教員養成・教育学」が19.5%で最も高い。次いで「経済・経営・商学」が19.1%である。また、「保健衛生学部 救急救命学科」の学びと関連する「看護・保健学」は15.3%、「医療技術学(救急救命含む)」は9.7%である。

高校生対象 調査結果まとめ

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「特色③病める人や災害弱者の立場と苦しみを理解した上で、ご家族も同様に支援する「救急救命家族支援論」を学ぶことができます。」(71.7%)である。

次に魅力度が高いのは、「特色④事故や病気により変化した患者さまの日常生活行動への支援を行うための「救急健康生活支援技術論」を学ぶことができます。」(69.9%)、さらに「特色①医療・福祉の総合大学として、全学科混成のクラス編成で、全学科共通の授業「医療人底力教育」を通じて多職種連携を深く学ぶことができます。」(69.4%)、「特色②「完全独立型緩和ケア病院」を有する大学で「遺族看護学」「スピリチュアルケア概論」を学び、救急救命士として必要とされる「死生観」を構築することができます。」(66.3%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への受験意向・入学意向

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、10.1%(2,164人中、218人)である。
- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」を「受験したいと思う」と答えた218人のうち、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、86.7%(189人)である。

高校生対象 調査結果まとめ

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への 入学意向者数

※ここからは、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は8.7% (189人)で、予定されている入学定員40人を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の入学意向は8.7% (1,078人中、94人)、「女性」の入学意向は8.6% (1,078人中、93人)と、男女ともに予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 鈴鹿医療科学大学の所在地である「三重県」の高校在籍者からの入学意向は8.7% (2,164人中、189人)と、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は8.7% (1,416人中、123人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、「理系クラス(理系コース)」に所属している回答者の入学意向は9.1% (607人中、55人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇高校卒業後の希望進路別

- 鈴鹿医療科学大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は8.9% (1,462人中、130人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、「専門学校・専修学校に進学」を考えている回答者の入学意向は16.0% (387人中、62人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の学びと関連する「医療技術学(救急救命含む)」に興味がある回答者の入学意向は34.8% (210人中、73人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「看護・保健学」に興味がある回答者の入学意向は25.4% (331人中、84人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度別

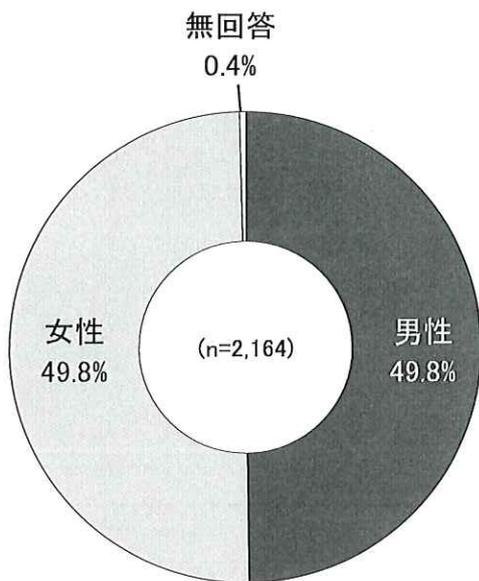
- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも11%を越えており、入学意向者数はそれぞれすべて、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

高校生対象 調査結果

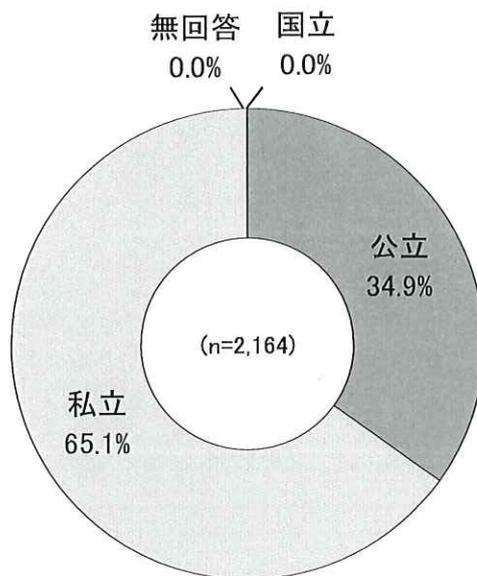


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

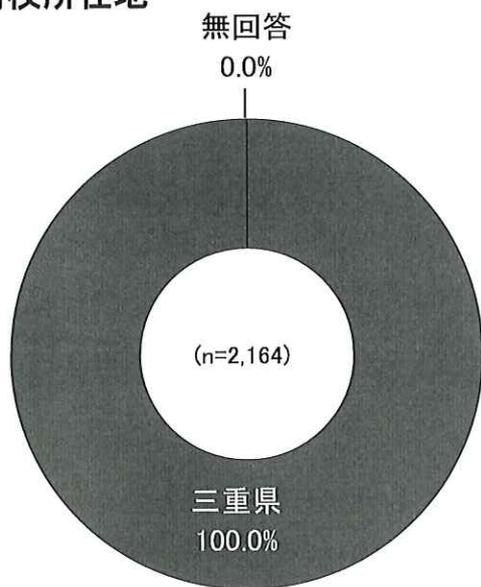
■性別



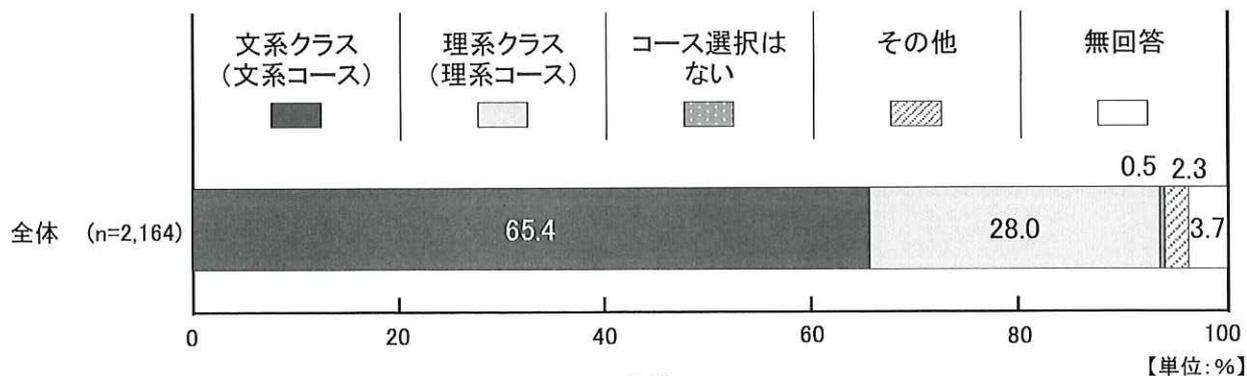
■高校種別



■高校所在地



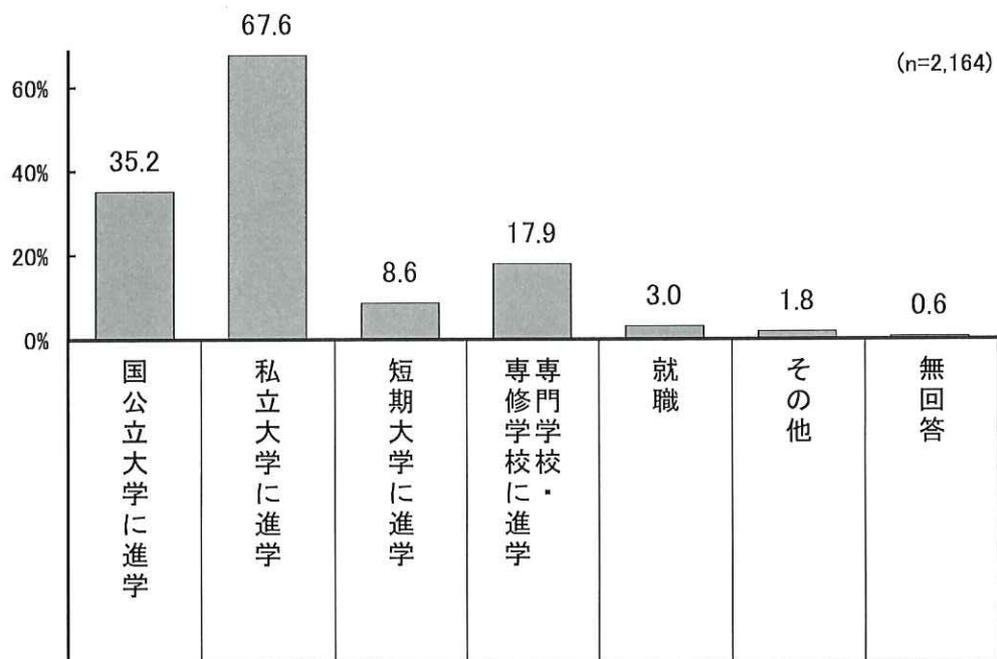
■所属クラス



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

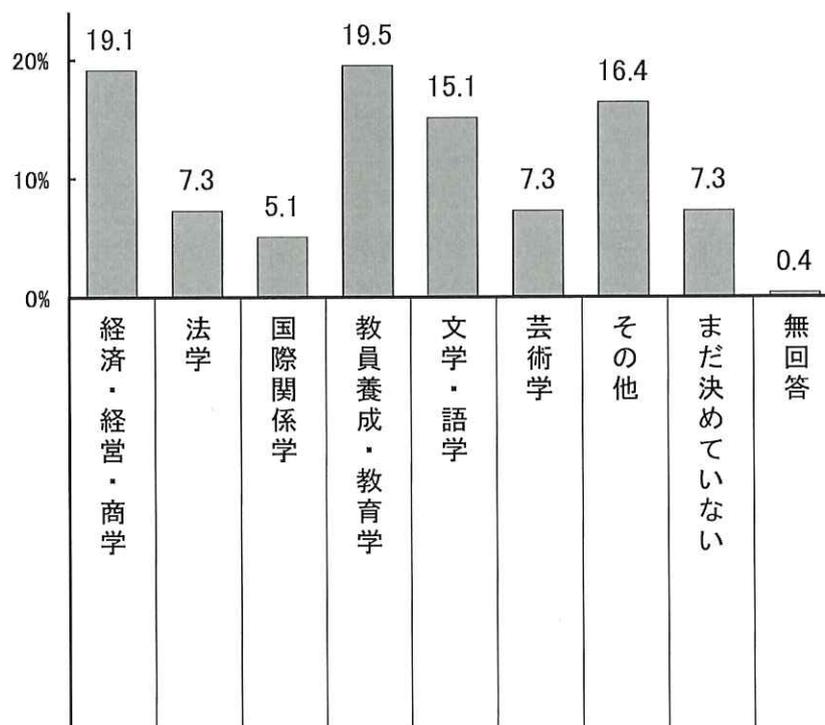
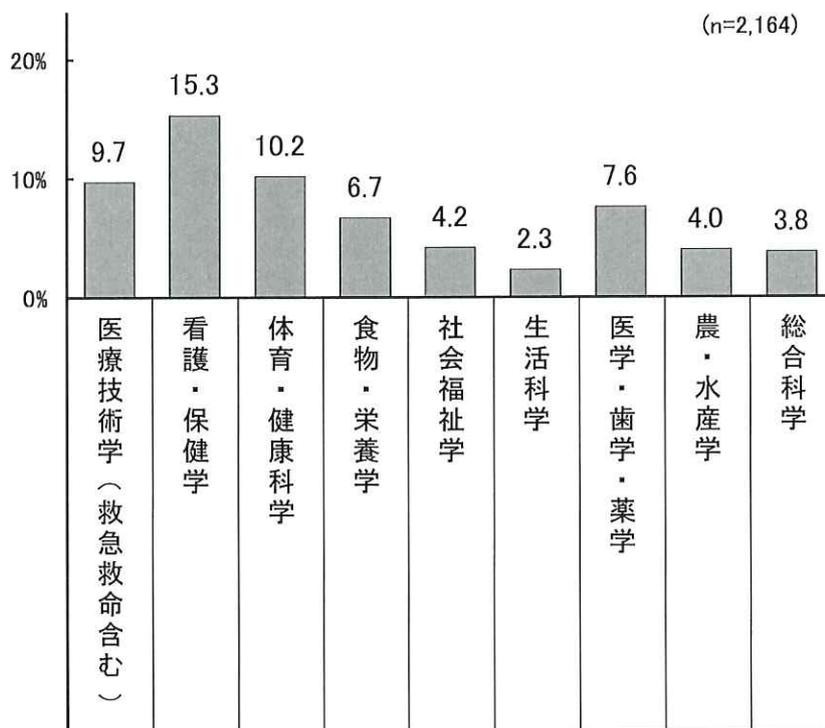
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



興味のある学問分野

■興味のある学問分野

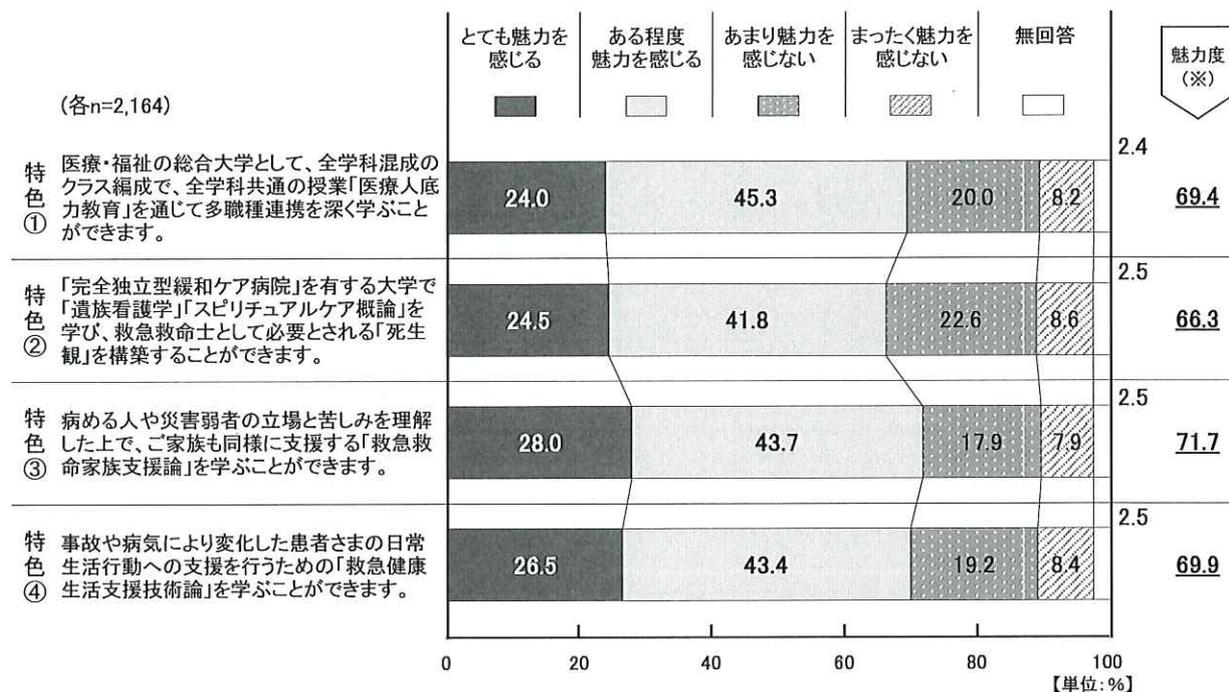
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問分野の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも) (現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

■ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

Q3. 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



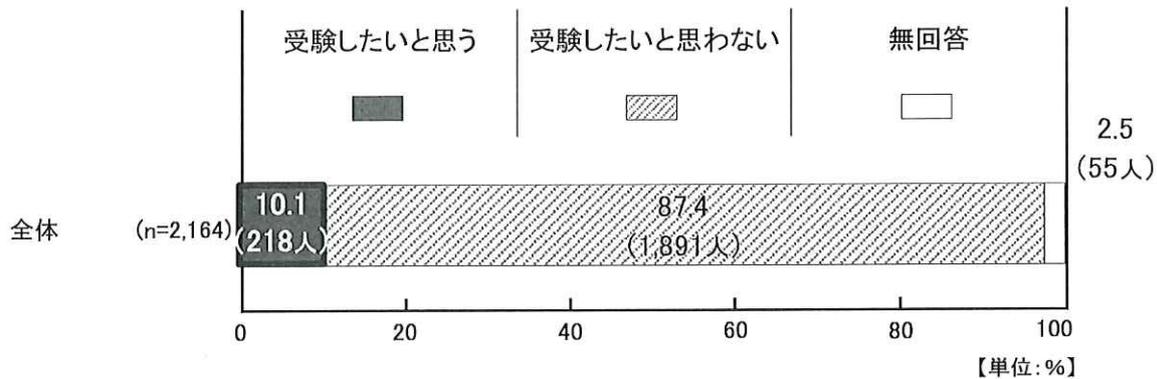
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への 受験意向／入学意向／受験意向別入学意向

■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への受験意向

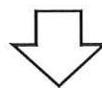
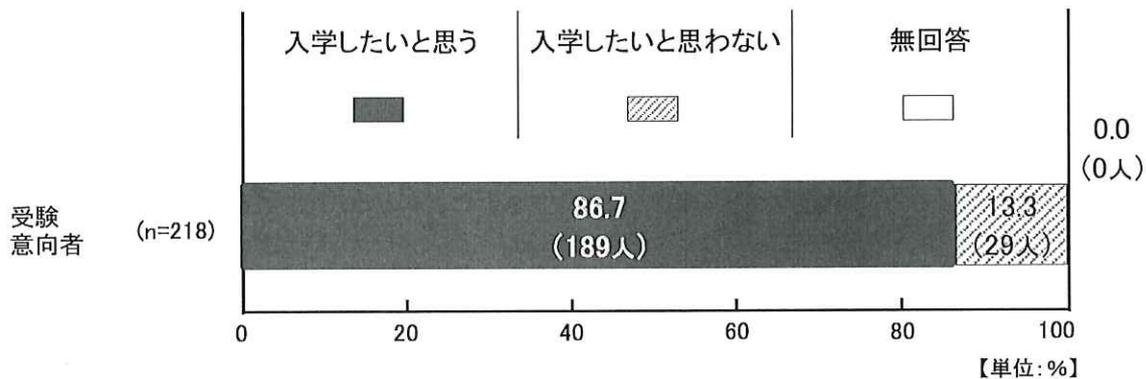
Q4. あなたは、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた218人のみ抽出

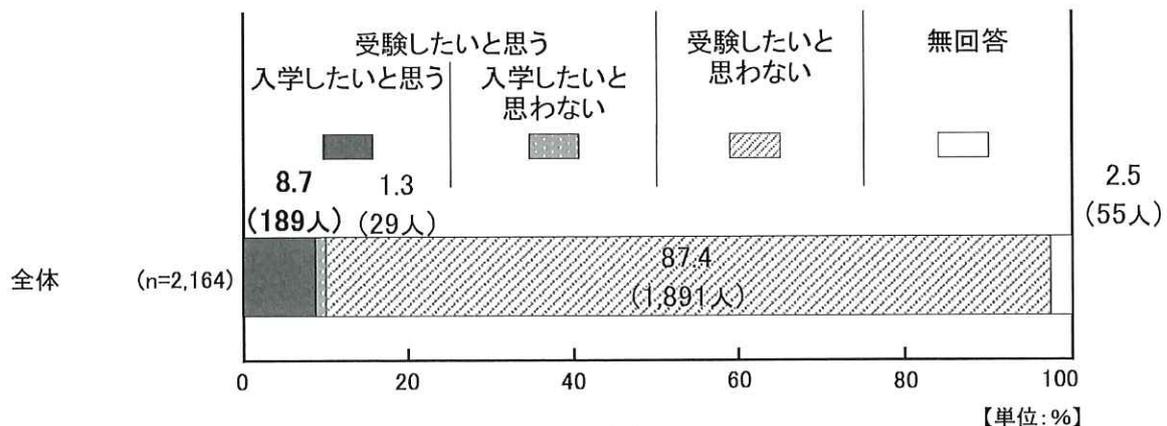
■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への入学意向

Q5. あなたは、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)に合格したら入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)※入試方式は問いません。



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

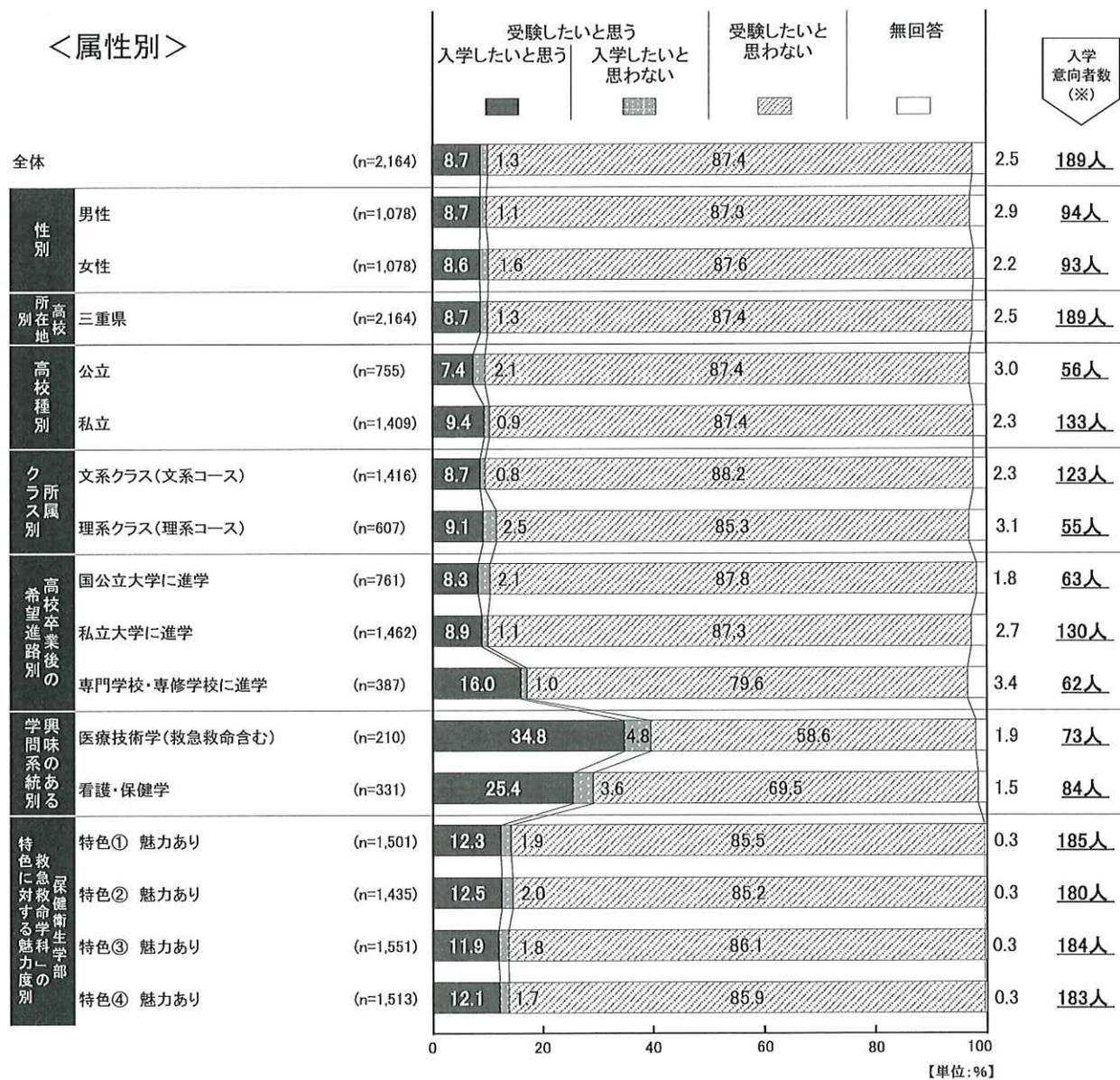
■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への受験意向別入学意向



鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」への受験意向別入学意向 <属性別>

※鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の入学意向者と定義する。



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



調査票

◆鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

鈴鹿医療科学大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2022年(令和4年)4月に、
「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称)の設置を構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封しているリーフレットを見てからお答えください ※

Q3 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
特色 ①	医療・福祉の総合大学として、全学科混成のクラス編成で、全学科共通の授業「医療人底力教育」を通じて多職種連携を深く学ぶことができます。	→ ①	②	③	④
特色 ②	「完全独立型緩和ケア病院」を有する大学で「遺族看護学」「スピリチュアルケア概論」を学び、救急救命士として必要とされる「死生観」を構築することができます。	→ ①	②	③	④
特色 ③	病める人や災害弱者の立場と苦しみを理解した上で、ご家族も同様に支援する「救急救命家族支援論」を学ぶことができます。	→ ①	②	③	④
特色 ④	事故や病気により変化した患者さまの日常生活行動への支援を行うための「救急健康生活支援技術論」を学ぶことができます。	→ ①	②	③	④

Q4 あなたは、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 受験したいと思う ② 受験したいと思わない

Q5 あなたは、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)に合格したら入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)
※入試方式は問いません。

- ① 入学したいと思う ② 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

<<救急救命士のお仕事>> 救急医療の現場は命を守る最前線！

救急救命士は、病院や診療所に搬送される途中の傷病者に救急救命処置を施す医療の最前線で働くスペシャリストです。
救急車が出勤する件数は年々増加傾向にあり、今後とも救急救命士への期待は大きいといえます。

鈴鹿医療科学大学
「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【病院・公務・団体対象調査】

令和3年2月
株式会社 進研アド

22

病院・公務・団体対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」新設構想に関して、病院・公務・団体のニーズを把握する。

2. 調査概要

		病院・公務・団体対象調査
調査対象		病院・公務・団体の採用担当者
調査エリア		東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	603件
	回収数(回収率)	182件(30.2%)
調査時期		2020年12月1日(火)～2020年12月21日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

病院・公務・団体対象調査
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事採用への関与度 ・ 所在地 ・ 業種 ・ 従業員数 ・ 正規職員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 採用したい学問分野 ・ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度 ・ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の社会的必要性 ・ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生に対する採用意向 ・ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生の毎年の採用想定人数

病院・公務・団体対象 調査結果まとめ



病院・公務・団体対象 調査結果まとめ

回答病院・公務・団体(回答者)の属性

※本調査は、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の卒業生就職先として想定される病院・公務・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、182件から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は14.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が51.6%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答病院・公務・団体の所在地は、「愛知県」が28.0%で、鈴鹿医療科学大学の所在地である「三重県」が18.1%、「大阪府」も同率で18.1%である。
- 回答病院・公務・団体の業種としては「医療・福祉」が50.0%で最も多く、次いで「公務」が48.4%である。
- 回答病院・公務・団体の従業員数(正規職員)は、「100名～500名未満」が50.0%を占め最も多い。次いで「500名～1,000名未満」が15.9%、「50名～100名未満」が14.8%である。

回答病院・公務・団体の採用状況(過去3か年)／ 次年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答病院・公務・団体の平均的な正規職員の採用人数は、「1名～5名未満」が25.8%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が18.1%、「5名～10名未満」が14.8%である。すべての病院・公務・団体が毎年、正規職員を採用している。
- 回答病院・公務・団体の次年度の採用予定数は、「昨年度並み」が42.3%で最も多い。次いで「未定」が32.4%である。「増やす」も13.2%であることから、回答病院・公務・団体の半数以上で昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答病院・公務・団体の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、鈴鹿医療科学大学で新たに開設予定の「保健衛生学部 救急救命学科」の学びと関連する「医療技術学(救急救命含む)」の割合が54.9%で最も高い。次いで「看護・保健学」が53.8%、「医学・歯学・薬学」が41.2%である。

病院・公務・団体対象 調査結果まとめ

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「特色①医療・福祉の総合大学として、全学科混成のクラス編成で、全学科共通の授業「医療人底力教育」を通じて多職種連携を深く学ぶことができます。」(92.3%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も33.5%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「特色④事故や病気により変化した患者さまの日常生活行動への支援を行うための「救急健康生活支援技術論」を学ぶことができます。」(88.5%)、さらに「特色③病める人や災害弱者の立場と苦しみを理解した上で、ご家族も同様に支援する「救急救命家族支援論」を学ぶことができます。」(87.4%)、「特色②「完全独立型緩和ケア病院」を有する大学で「遺族看護学」「スピリチュアルケア概論」を学び、救急救命士として必要とされる「死生観」を構築することができます。」(83.0%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した病院・公務・団体の合計値

病院・公務・団体対象 調査結果まとめ

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の社会的必要性

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の社会的必要性についての評価は、94.0% (182件中、171件)が「必要だと思う」と回答しており、多くの病院・公務・団体からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた病院・公務・団体は、51.6% (182件中、94件)である。
- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた94件のうち鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は98名で、予定している入学定員数40名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇業種別

- 「公務」の病院・公務・団体からの採用意向は、72.7% (88件中、64件)。採用想定人数の合計は55名で、予定している入学定員数を上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」の病院・公務・団体からの採用意向は54.9% (91件中、50件)。採用想定人数の合計は44名で、予定している入学定員数を上回っている。

病院・公務・団体対象 調査結果まとめ

◇次年度の採用予定数別

- 次年度の採用予定数を「昨年度並み」と回答した病院・公務・団体からの採用意向は、49.4% (77件中、38件)。採用想定人数の合計は43名で、予定している入学定員数を上回っている。

◇採用したい学問分野別

- 保健衛生学部 救急救命学科の学びに関連のある「医療技術学(救急救命含む)」を学んだ学生を採用したいと回答した病院・公務・団体からの採用意向は、48.0% (100件中、48件)。採用想定人数の合計は51名で、予定している入学定員数を上回っている。「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した病院・公務・団体からの採用意向は、35.7% (98件中、35件)。採用想定人数の合計は44名で、予定している入学定員数を上回っている。

◇鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度別

- 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に魅力を感じている病院・公務・団体からの採用意向は、いずれの特色でも5割を超えており、採用想定人数の合計もすべて80名以上と、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

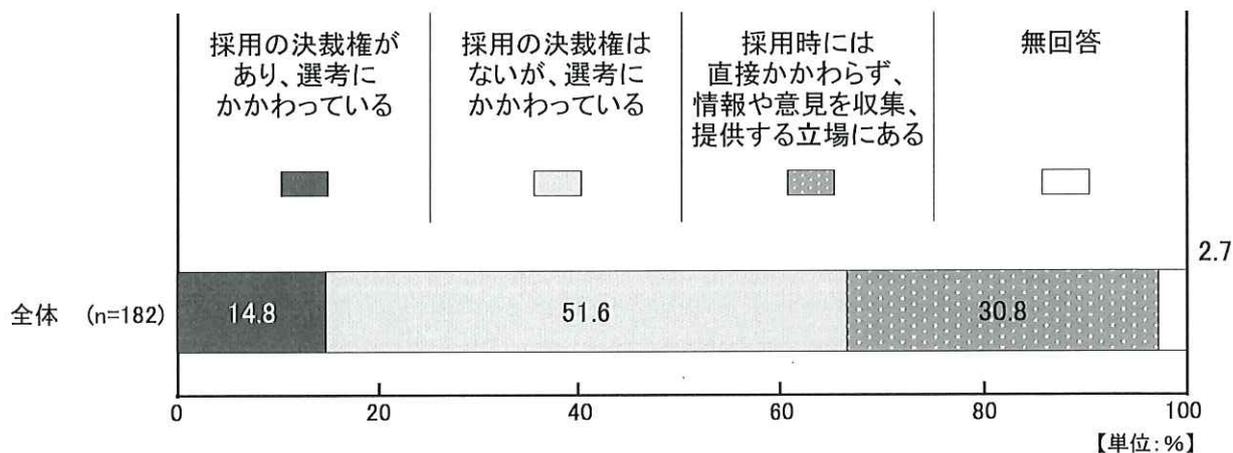
病院・公務・団体対象 調査結果



回答病院・公務・団体(回答者)の属性 (人事採用への関与度/本社所在地)

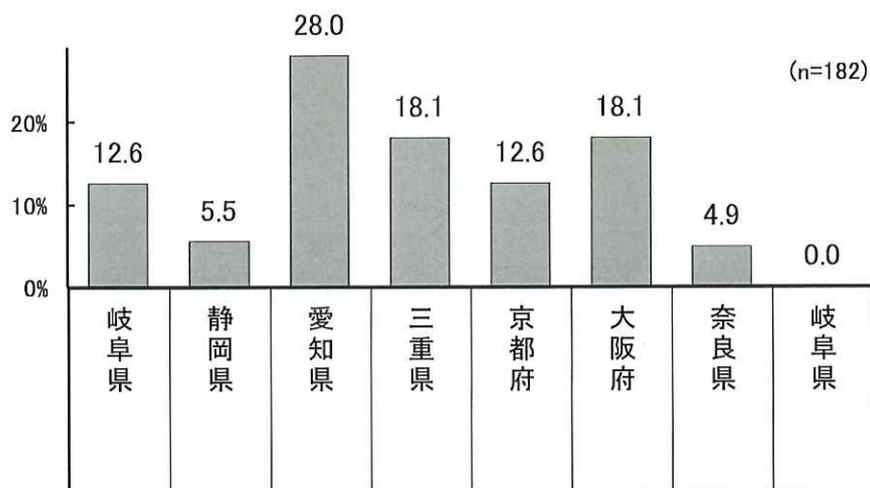
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

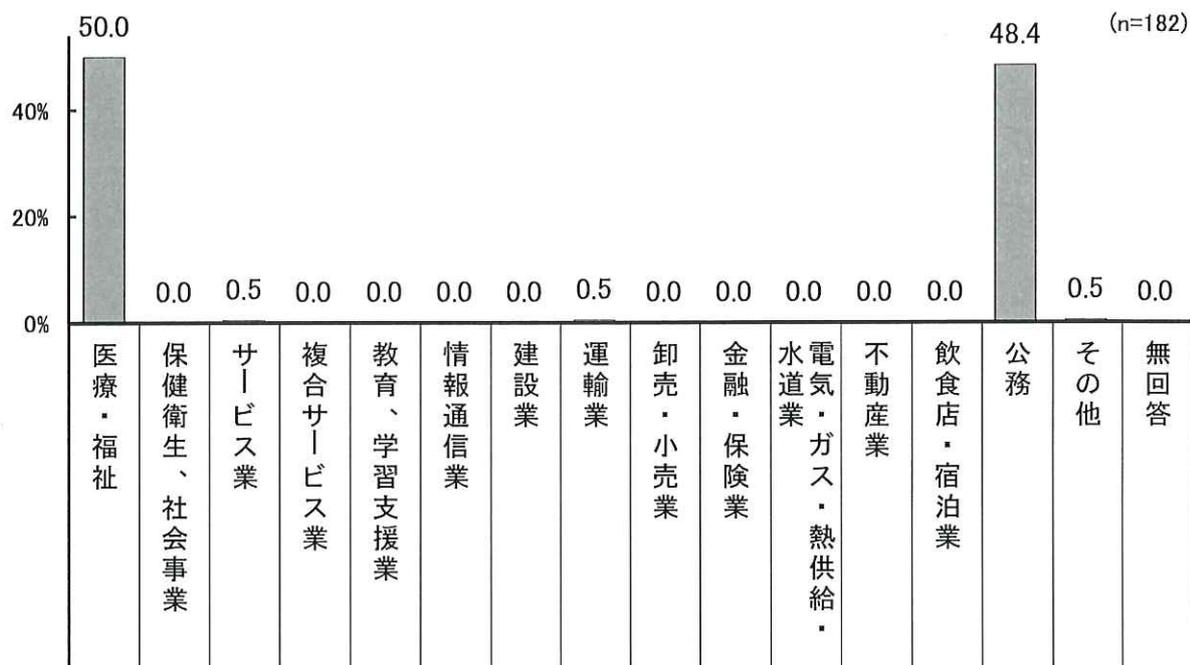
Q2. 貴院・貴団体の所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答病院・公務・団体(回答者)の属性 (業種／従業員数)

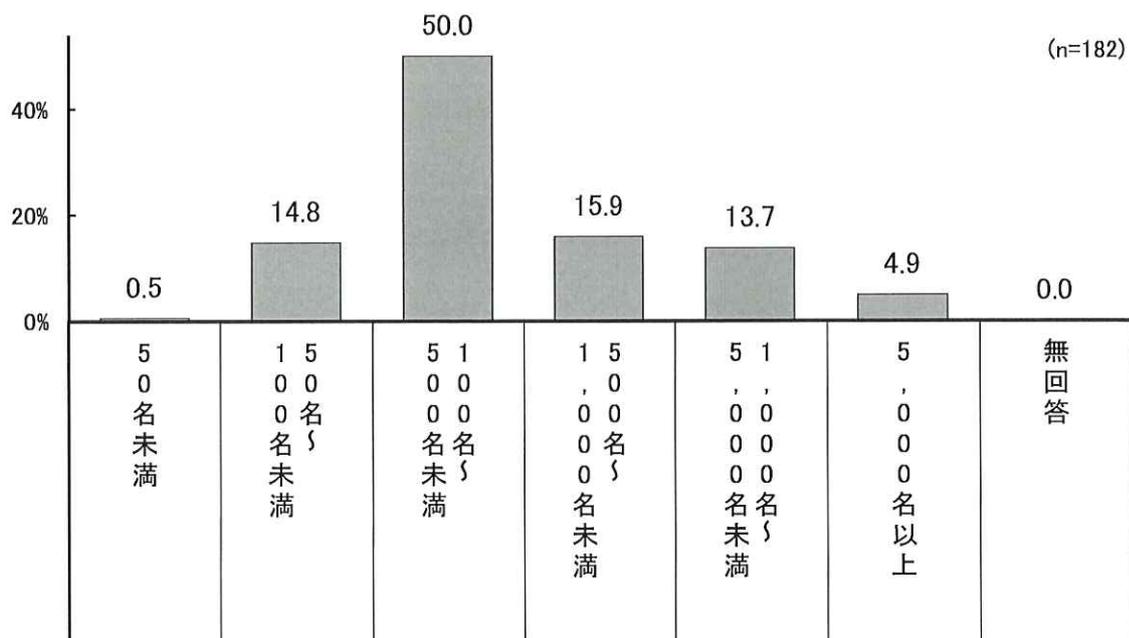
■業種

Q3. 貴院・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

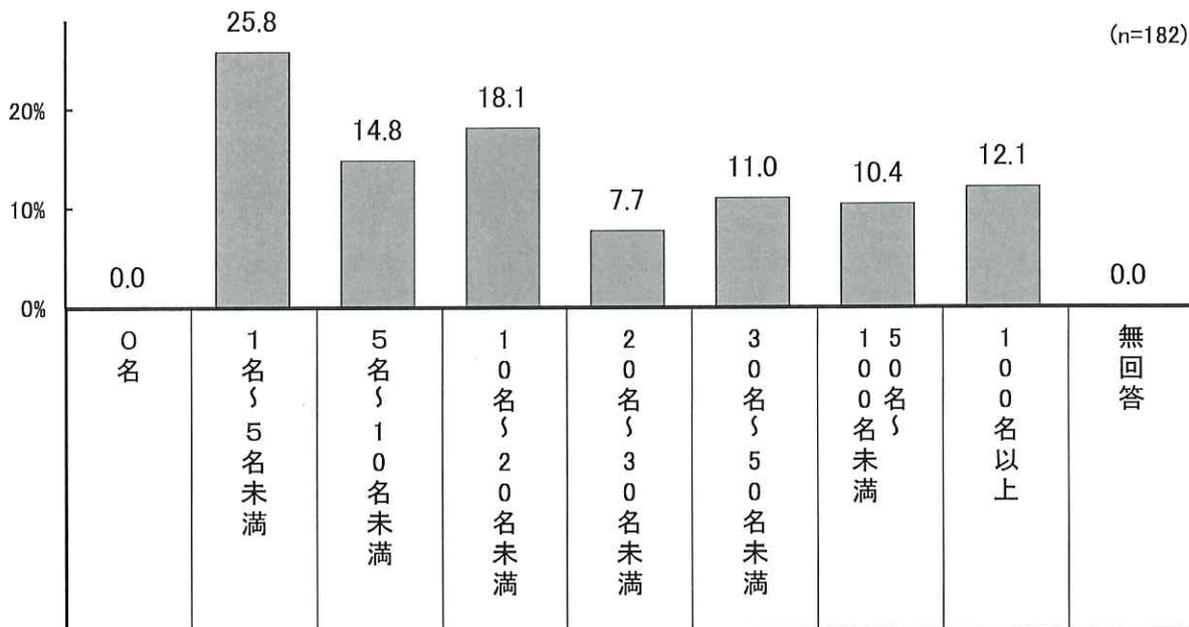
Q4. 貴院・貴団体の従業員数(正規職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規職員の平均採用人数／次年度の採用予定数

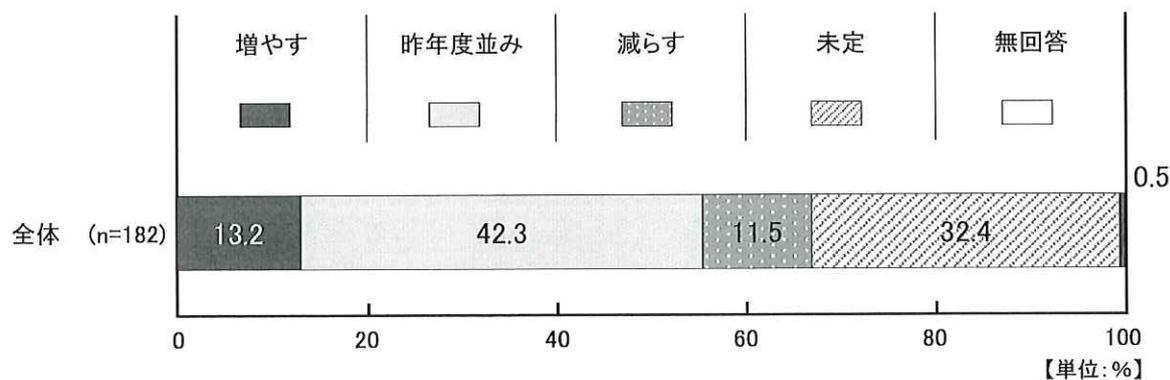
■ 正規職員の平均採用人数

Q5. 貴院・貴団体の過去3か年の平均的な正規職員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■ 次年度の採用予定数

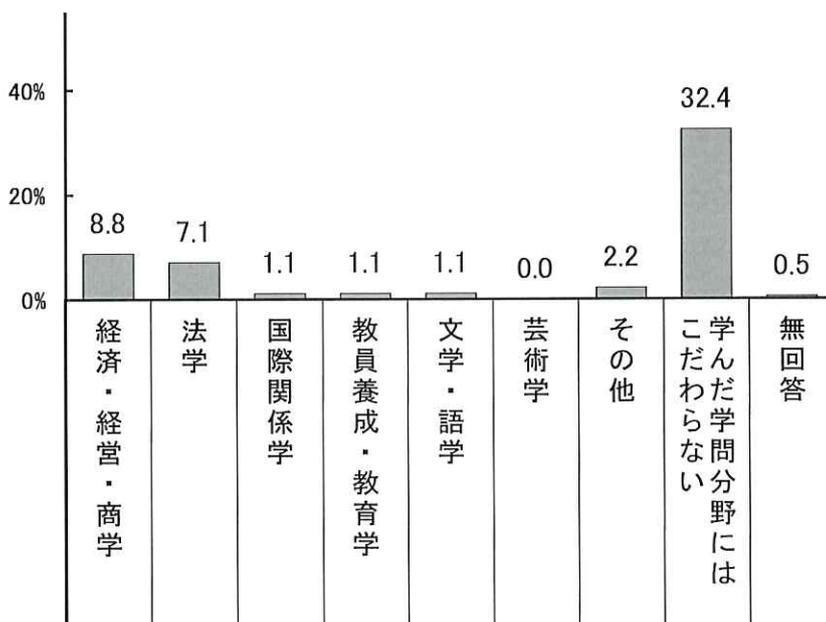
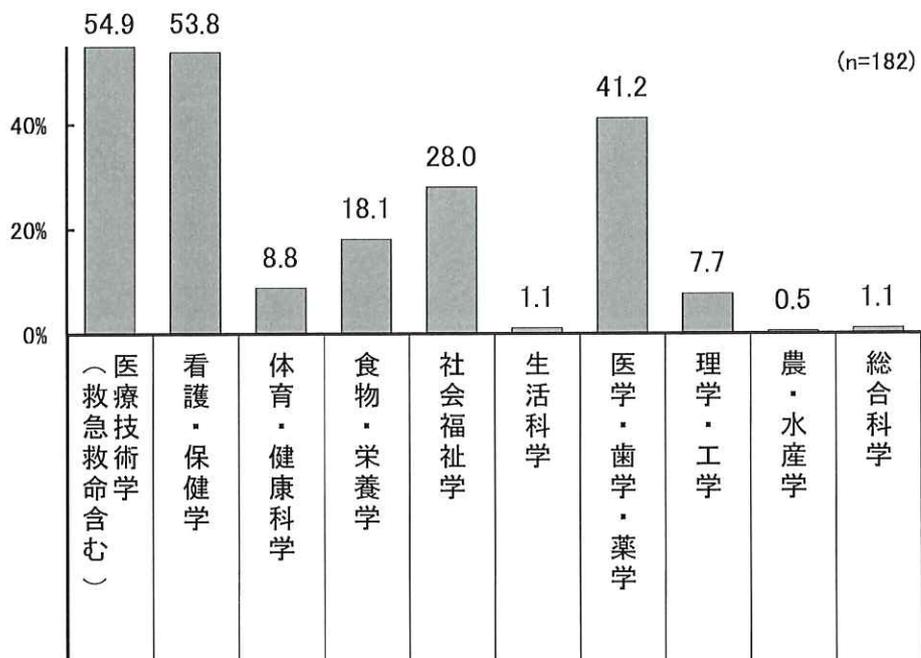
Q6. 貴院・貴団体の次年度の採用予定数は、2020年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

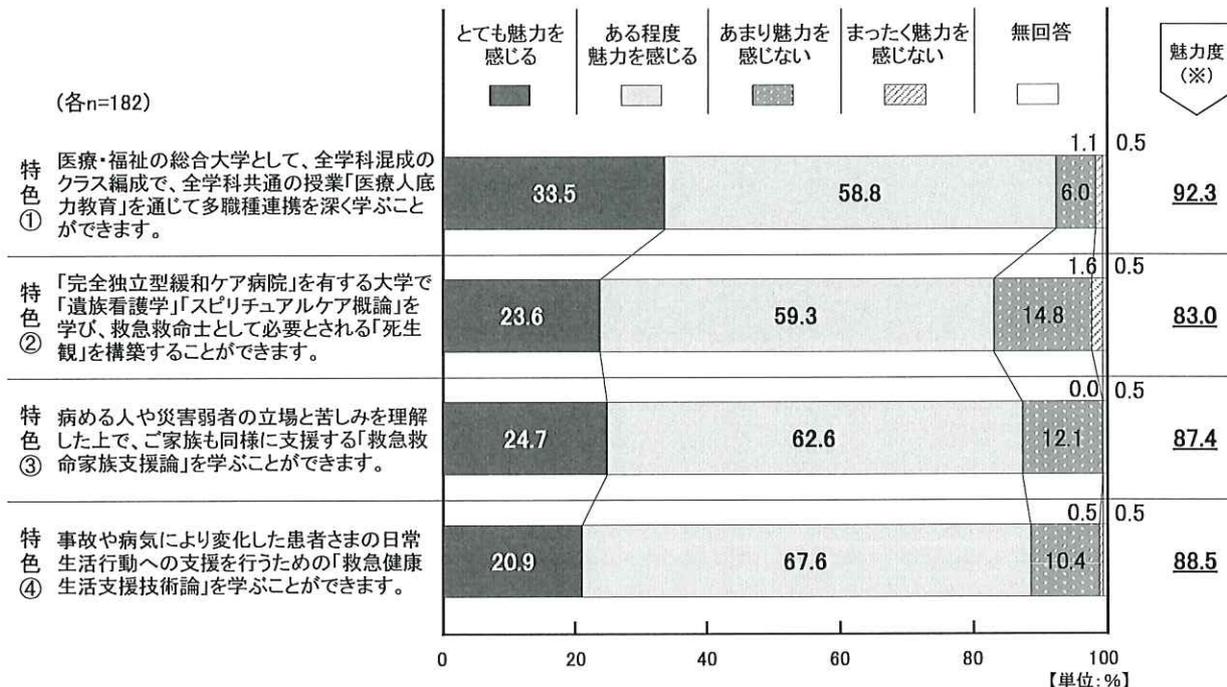
Q7. 貴院・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

■ 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の特色に対する魅力度

Q8. 鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴院・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



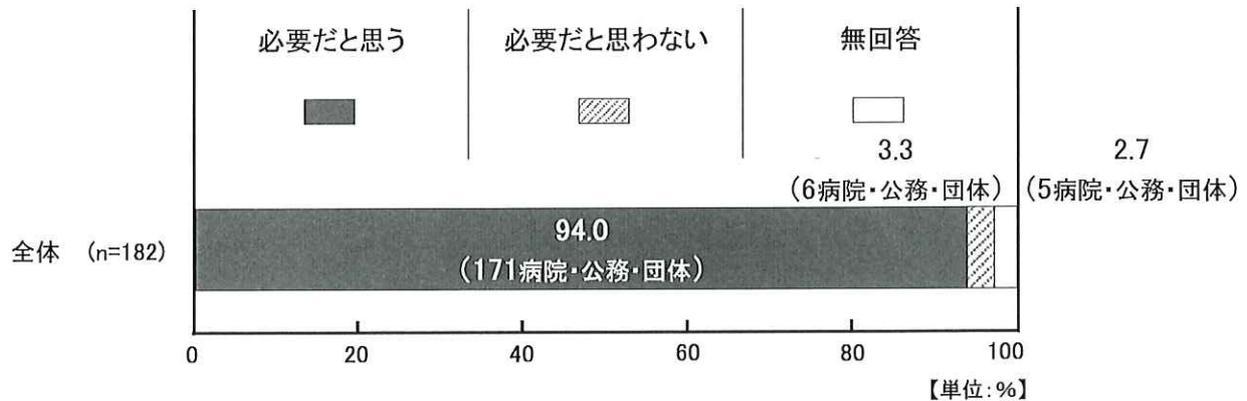
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

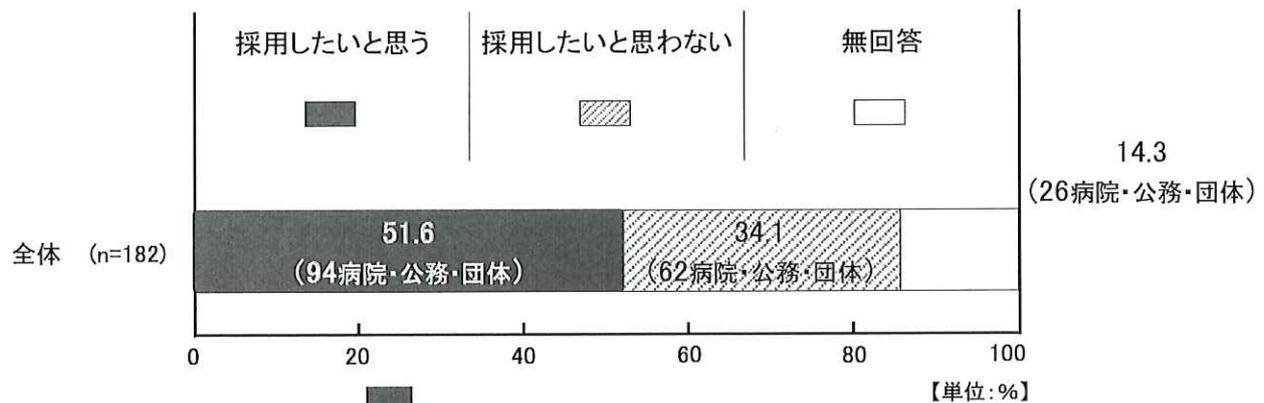
■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」の社会的必要性

Q9. 貴院・貴団体(ご回答者)は、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)



■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴院・貴団体(ご回答者)では、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた94件のみ抽出

■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

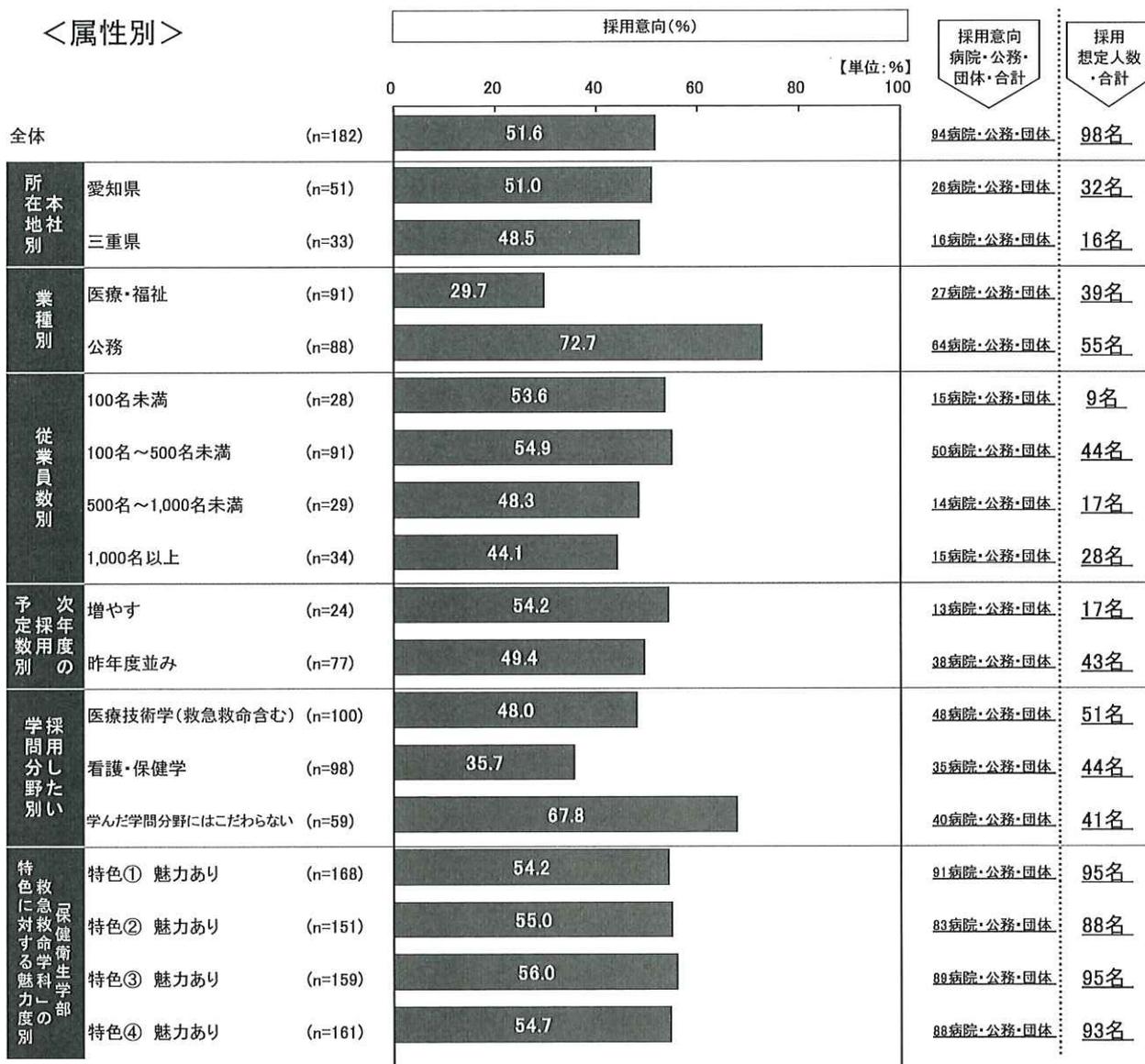
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 お団示毎 (※び数たの)採・病採 用院・採 想定・公 人数務 ・ 人数 を	
全体	94	%	50.0%	10.6%	4.3%	1.1%	1.1%		⇒
	病院・公務・ 団体数		47	10	4	1	1		
	名		47	20	12	4	5	10	

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生に 対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」卒業生に対する採用意向／ 採用想定人数＜属性別＞

※鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した病院・公務・団体を【採用意向病院・公務・団体】と定義し、さらに【採用意向病院・公務・団体】のうち、Q11で回答した病院・公務・団体の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票



調査票

鈴鹿医療科学大学「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称、設置構想中)に関するアンケート

鈴鹿医療科学大学では2022年(令和4年)4月より、「保健衛生学部 救急救命学科」(仮称)の設置を構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封したリーフレットに記載されている内容に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴院・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴院・貴団体の所在地について、都道府県名をお教えてください。

所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴院・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|--------------|------------|-------------------|
| 1. 医療・福祉 | 6. 情報通信業 | 11. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 2. 保健衛生、社会事業 | 7. 建設業 | 12. 不動産業 |
| 3. サービス業 | 8. 運輸業 | 13. 飲食店・宿泊業 |
| 4. 複合サービス業 | 9. 卸売・小売業 | 14. 公務 |
| 5. 教育、学習支援業 | 10. 金融・保険業 | 15. その他 |

Q4. 貴院・貴団体の従業員数(正規職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴院・貴団体の過去3か年の平均的な正規職員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴院・貴団体の次年度の採用予定数は、2020年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

■ 入学定員	救急救命学科	定員40名
■ 設置キャンパス	保健衛生学部	
■ 学費(学定)	1,400,000円※1	2年次以降 1,400,000円
■ 類似する学部・学科	生命健康科学部 スポーツ・保健医療学科 健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻 保健医療科学部 救急救命学科	参考(初年度納入金)※2 1,570,000円 1,510,000円 1,700,000円

※1 初年度は諸会費が別途必要となります。

※2 入学金、授業料、施設・設備使用料、交通費などを含んだ学費です。上記以外に、後援会費、学友会費、通学保険料、同窓会費などの別費用が必要となる場合があります。(2020年9月時点、各大学HPで確認)



公共交通機関をご利用の場合

- 白子キャンパス
近鉄名古屋駅(特急)40分または急行50分 → 白子駅 → 三重交通バス(5分) → 白子キャンパス
- 千代崎キャンパス
近鉄名古屋駅(急行)45分 → 伊勢若狭駅(普通)2分 → 千代崎駅(徒歩)13分 → 千代崎キャンパス

お車をご利用の場合(所要時間 約1時間25分*)

名古屋IC(名古屋環状15分) → 名古屋IC(CT)更名線(23分) → 鈴鹿IC(95分) → 本学
*所要時間の詳細情報は、あくまでも目安であり状況等によって、所要時間と異なる場合がございます。

■ お問い合わせ

白子キャンパス
〒513-8670 三重県鈴鹿市南玉垣町3500-3
千代崎キャンパス
〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1
TEL.059-383-8991(代表) FAX.059-383-9666
E-mail: nyushi@suzuka-u.ac.jp



- 保健衛生学部 救急救命学科[®]
放射線技術科学科
医療栄養学科(管理栄養学専攻、臨床検査学専攻)
リハビリテーション学科(理学療法学専攻、作業療法学専攻)
医療福祉学科(医療福祉学専攻、臨床心理学専攻)
鍼灸サイエンス学科(鍼灸・スポーツトレーナー学専攻、鍼灸学専攻)
- 医工学部 薬学部
看護学部

※2022年4月開設予定(仮称・設置構想中)



三重県で初の 救急救命士養成学科が誕生!

生命の危機的状況下にある重度傷病者に対し、
病院に到着する前から医療をはじめめる救急救命士。
国家資格を持つプロフェッショナルとして、
傷病者の生命予後に直結する医療行為を行います。

保健衛生学部 救急救命学科 (新設)

2022年4月開設予定(仮称・設置構想中)



※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

救急救命の仕事を「医療・福祉の総合大学」で学ぶ！ 保健衛生学部 救急救命学科

2022年4月開設予定（仮称・設置構想中）

1991年の開学から間もなく30年。

鈴鹿医療科学大学は、

4学部9学科13専攻、2研究科を有する「医療・福祉の総合大学」です。

本学はこれまでも、地域の医療を支える人材を多数輩出してきました。

その大きな特徴は、専門分野以外の職種と

連携するための「チーム医療」を学べることです。

新たに開設予定の救急救命学科でも、

チーム医療の一員として働く救急救命士を

養成します。

●学位：学士（救急救命学）



救急医療の現場は命を守る最前線！ 一般の医療は、傷病者が医療機関を訪れた時から始まり、しかし「プレホスピタルケア」と呼ばれる病院前救急医療は、傷病者が病院に到着する前からスタート。生命が危機的状況にある重度傷病者の場合、現場や搬送中の救急救命処置が、傷病者の生存率や社会復帰率に大きく関わります。救急医療現場の中枢となる救急救命士は、医療の最前線で活躍するスペシャリストです。



スター・オブ・ライフ



1. Detection (検知)
2. Reporting (通報)
3. Response (出陣)
4. On Scene Care (現場における処置)
5. Care in Transit (搬送中の処置)
6. Transfer to Definitive Care (医療機関へ搬送)

アメリカ合衆国消防警備交通安全委員会がデザインしたマークで、人命救助に関わる職種で活躍する人々の中核として、アメリカを中心とした世界中で救急医療のシンボルマークになっており、日本を含む世界各国で救急車の車体にこのマークが描かれています。
救急車の車体にこのマークが描かれています。
「On Scene Care (現場における処置)」 「Care in Transit (搬送中の処置)」 「Transfer to Definitive Care (医療機関へ搬送)」 という6つの柱により、医療の最前線を表しています。

救急医療と救急救命士 救急車に乗って傷病者のもとへ駆けつける救急救命士は、厚生労働大臣より国家資格を得ています。医師の具体的な指示を受けながら、傷病者の生命予後に直結する一部の医療行為を行います。救急救命士への期待は年々高まっており、今後より広い医療行為を行うことができるよう、内閣府の規制改革推進会議や厚生労働省で検討が進められています。



◆養成する人材像

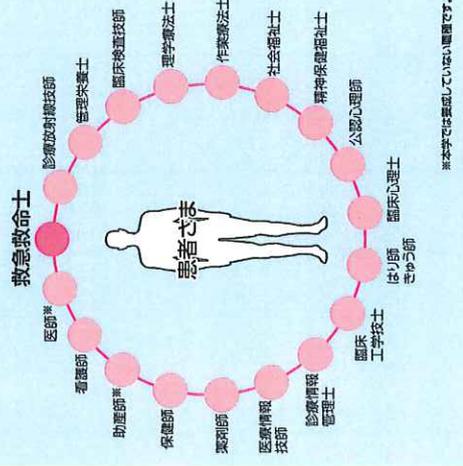
病院前救急医学に関する諸科学と救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみを目に向け、生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院（救命救急センター等）、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成します。



◆救急救命学科の特色

ポイント1 医療・福祉の総合大学として全学科混成のクラス編成で、全学科共通の授業「医療人底力教育」を通じて多職種連携を深く学ぶことができる。

■チーム医療概念図



※本学では要請していない職種です。

ポイント2 「完全独立型緩和ケア病院」を有する大学で、「遺族看護学」「スピリチュアルケア概論」を学び、救急救命士として必要とされる「死生観」を構築することができる。



2021年4月開院予定、則廣彰の森病院完成イメージ図。

ポイント3 病める人や災害弱者の立場と苦しみを理解した上で、ご家族も同様に支援する「救急救命家族支援論」を学ぶ。

ポイント4 事故や病氣により変化しした患者さまの日常生活行動への支援を行うための「救急健康生活支援技術論」を学ぶ。



◆卒業後の進路

- 消防機関、都道府県警察本部、皇宮警察本部、海上保安庁、陸海空自衛隊、救急指定病院（救命救急センター等）、介護福祉施設、大規模商業施設、鉄道会社、警備会社、大学院進学 など



◆卒業時に取得可能な資格

- 救急救命士（国家試験受験資格）
- アメリカ心臓協会 (AHA) BLSプロバイダー
- アメリカ心臓協会 (AHA) BLSインストラクター
- アメリカ心臓協会 (AHA) ACLSプロバイダー
- アメリカ心臓協会 (AHA) PALSプロバイダー
- 予防医学療法研究会リセット® Basicレネーニング

◆在学中に取得をめざす資格

- アメリカ心臓協会 (AHA) BLSプロバイダー
- アメリカ心臓協会 (AHA) ACLSプロバイダー
- アメリカ心臓協会 (AHA) PALSプロバイダー
- 予防医学療法研究会リセット® Basicレネーニング

資料 5

1（書類等の題名）

他大学救急救命士養成課程 学費

2（その他の説明）

本資料では、他大学の学費を記載している。

各大学のホームページを参照して作成した。

オープンキャンパス参加者数

	実施年度	2018					2019					2020					
		開催日	6月16日 (土)	7月21日 (土)	8月10日 (金)	8月11日 (土)	累計	6月15日 (土)	7月20日 (土)	8月9日 (金)	8月10日 (土)	累計	7月12日 (日)	8月8日 (土)	8月9日 (日)	9月27日 (日)	累計
千代崎 キャンパス	放射線技術科学科	91	131	92	138	452	89	180	133	205	607	63	69	76	47	255	
	医療栄養学科	管理栄養学専攻	34	54	51	66	205	29	31	44	51	155	13	27	29	12	81
		臨床検査学専攻	42	78	72	96	288	44	96	54	135	329	36	39	37	23	135
	リハビリテーション 学科	理学療法専攻	106	82	112	155	455	57	76	87	132	352	33	37	45	14	129
		作業療法専攻						55	61	25	65	206	30	16	19	5	70
	医療福祉学科	医療福祉学専攻	23	40	21	14	98	16	26	15	11	68	12	6	3	5	26
		臨床心理学専攻	19	33	35	22	109	35	45	35	44	159	23	15	10	13	61
	鍼灸サイエンス学科	30	38	19	40	127	47	50	22	46	165	11	16	17	4	48	
	臨床工学科	28	44	21	40	133	35	35	28	58	156	18	26	21	17	82	
	医用情報工学科	17	14	16	19	66	11	22	16	27	76	9	13	21	21	64	
千代崎キャンパス 小計		390	514	439	590	1933	418	622	459	774	2273	248	264	278	161	951	
白子 キャンパス	薬学科	45	60	95	103	303	26	88	102	115	331	23	43	44	26	136	
	看護学科	52	101	186	157	496	59	102	204	171	536	56	74	60	55	245	
白子キャンパス 小計		97	161	281	260	799	85	190	306	286	867	79	117	104	81	381	
合 計		487	675	720	850	2732	503	812	765	1060	3140	327	381	382	242	1332	

※本学集計データ

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、6月中止⇒9月振替実施

学外進学相談会参加状況

実施年度	2018	2019	2020
三重県	23	22	16
愛知県	14	9	5
岐阜県	2	1	2
静岡県	10	9	4
その他	17	12	2
計	66	53	29

※本学集計データ

高校内進学ガイダンス(模擬授業含む)実施状況

実施年度	進学ガイダンス			模擬授業		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020
三重県	55	61	50	38	34	29
愛知県	13	11	7	6	8	5
岐阜県	4	3	0	4	3	1
その他	3	2	1	6	4	2
計	75	77	58	54	49	37

※本学集計データ

高校訪問の実施状況

実施年度	2018	2019	2020
三重県	54	57	59
愛知県	124	129	24
岐阜県	39	34	10
静岡県	44	42	18
長野県	14	11	5
滋賀県	9	8	2
その他	14	6	2
計	298	287	120

※本学集計データ

資料 10

1 (書類等の題名)

厚生労働省

「医師の働き方改革に関する検討会報告書」36 頁・39 頁

2 (出典)

厚生労働省ホームページ

3 (引用範囲)

厚生労働省ホームページ>政策について>審議会・研究会等>医政局が実施する検討会等
>医師の働き方改革に関する検討会>医師の働き方改革に関する検討会報告書

PDF 資料の 36 頁・39 頁

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	トヨタ カキヤ 豊田 長康 <平成25年4月>		医学博士		鈴鹿医療科学大学 学長 (平成25.4～令和5.3)